このたびは、スズキ SX4 S-CROSSをお買い求めいただきありがとうございます。

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。お車の取扱いを誤ると、事故や故障の原因となります。本書をよくお読みいただき、いつまでも快適なカーライフをお楽しみください。

- 本書は、お車の取扱いや万一のときの処置などについて説明しています。
- 本書では、次の記号を使用しています。これらは重要ですので、とくにしっかりお読みください。

⚠警告 ～ ⚠	**取扱いを誤ると、死亡または重大な傷害につながるおそれがある内容です。**
⚠注意 ～ ⚠	**取扱いを誤ると、傷害につながるおそれがある内容です。**
ⓘ注記 ～ ⓘ	**取扱いを誤ると、物的損害につながるおそれがある内容です。**
アドバイス ～	お車を使ううえで知っておいていただきたい、または知っておくと便利な内容です。
	図示されている行為の禁止を示しています。

- 保証や点検整備については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。本書とあわせてお読みください。
- ご不明な点は、担当セールススタッフにおたずねください。
- 限定車の装備品や、スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けた装備品などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 本書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管してください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、本書とメンテナンスノートをお車に付けてお渡しください。
- 車の仕様などの変更により、本書の内容やイラストとお車が一致しない場合があります。あらかじめご了承ください。

ご愛車に関するメモ

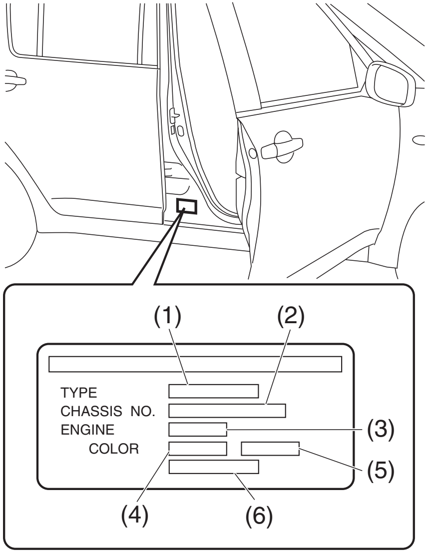
記入される記号・番号は、車検証、ID プレートをご覧ください。

ご 愛 車 の メ モ	
車名および車両型式	車名：
	型式：
車台番号	
エンジン型式	M16A
車体色記号	
営業機種記号	
トランスミッション	オートマチックミッション（※）
ナンバープレート（自動車登録番号）	
ご購入年月日	年　　月　　日

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

IDプレート

運転席ドアを開いた所に貼付してあります。



61M0279

(1) 車両型式
(2) 車台番号
(3) エンジン型式
(4) 車体色記号
(5) 車体色と内装色の組み合せコード
(6) 営業機種記号（補助記号）

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

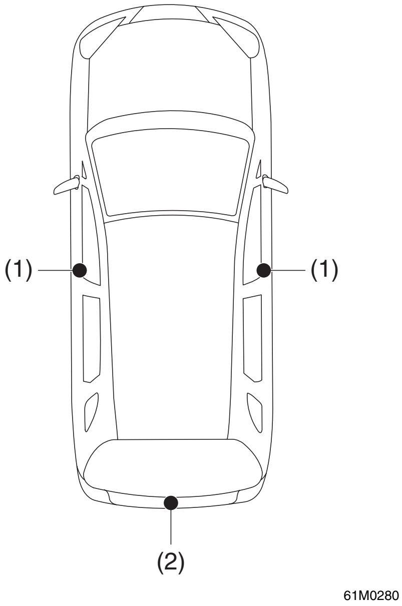
⚠警告

- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、キーレスプッシュスタートシステム装備車の各発信機（次の図参照）から約22 cm以内の範囲に、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）が近づかないようにしてください。電波が植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）の作動に影響をあたえるおそれがあります。**
- **植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）以外の医療用電気機器を使用している方は、キーレスプッシュスタートシステム装備車の電波が医療用電気機器の作動に影響をあたえる場合があるため、医療用電気機器製造業者などへ影響を確認してください。**
- **詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にお問い合わせください。**

→キーレスプッシュスタートシステム
P.**3-3**

車外発信機

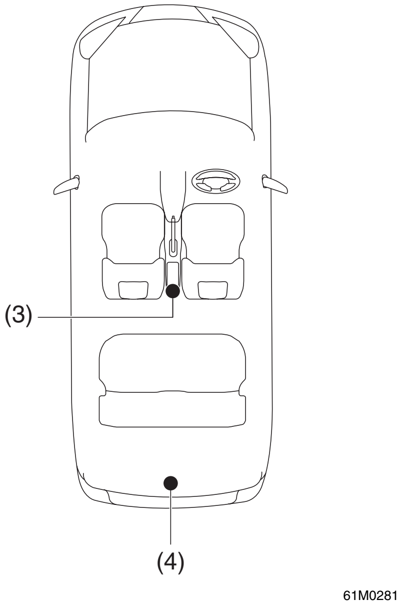
— 代表例 —



(1) 前席ドア車外発信機
(2) バックドア車外発信機

車室内発信機

— 代表例 —



(3) 車室内発信機
(4) 荷室発信機

イベントデータレコーダー（EDR）とは

この車は、SRSエアバッグシステムを制御するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、SRS エアバッグシステムが正常に作動しているかどうかを常に診断するとともに、エアバッグが作動するような事故のときに、衝突時点やその前後の車両データを記録するイベントデータレコーダー（EDR）システムを備えています。

→SRSエアバッグ P.**2-41**

EDRに記録するデータ

- SRSエアバッグシステムの故障診断情報
- SRSエアバッグ作動に関する情報
- 車速
- アクセルペダルの踏み込み具合
- ブレーキ作動の有無
- 運転席シートベルトの着用有無　等

アドバイス

- お車のタイプなどにより、記録されるデータは異なります。
- EDRは、一般的なデータレコーダーとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

EDRデータの開示について

スズキおよびスズキが委託した第三者は、EDRに記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。

なお、スズキおよびスズキが委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令そのほか法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

MEMO

総合目次

クイックガイド 1

運転する前に 2

運転するときは 3

装備の取扱い 4

車との上手なつきあいかた 5

万一のとき 6

サービスデータ 7

さくいん 8

1. クイックガイド

イラスト目次

イラスト目次. 1-1
警告灯・表示灯の見かた 1-11

警告ブザーが鳴ったときは

警告ブザーが鳴ったときは 1-21

各部の操作

エンジンスイッチ 1-26
方向指示器（ウインカー）. 1-26
ライト. 1-26
ワイパー. 1-27
ドアミラー. 1-27
ウインドー（窓ガラス）. 1-27

給油するときは

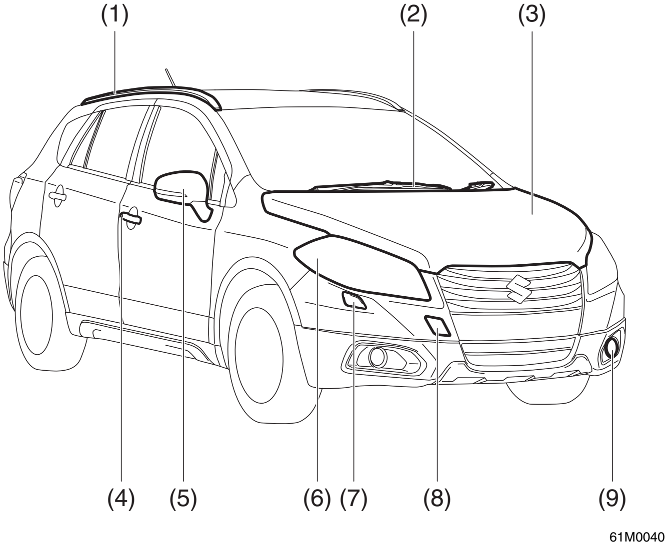
給油するときは. 1-28
燃料給油口. 1-29

よくあるご質問（Q ＆ A）

よくあるご質問（Q ＆ A）. 1-31

イラスト目次

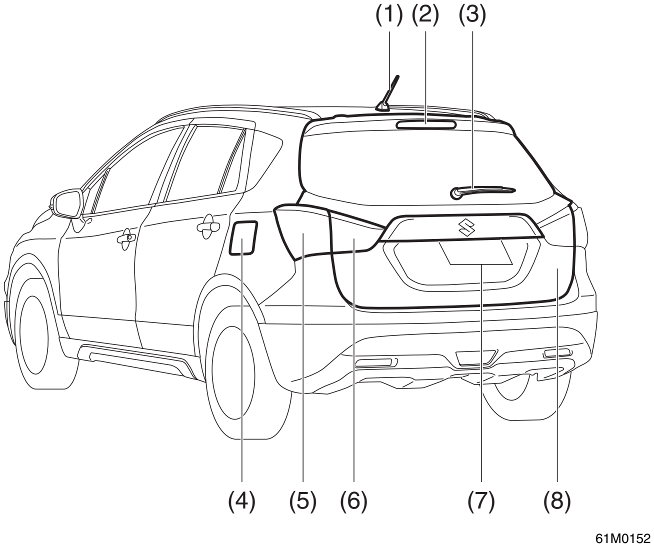
外観（前面）



(1) ルーフレール 4-17
(2) フロントワイパー 2-87
(3) ボンネット 4-1
(4) ドア 2-6
(5) ドアミラー 2-23
(6) ヘッドライト 2-83
(7) ヘッドライトウォッシャー 2-91
(8) けん引フック 6-32
(9) フォグランプ . . . . 2-86、6-23

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

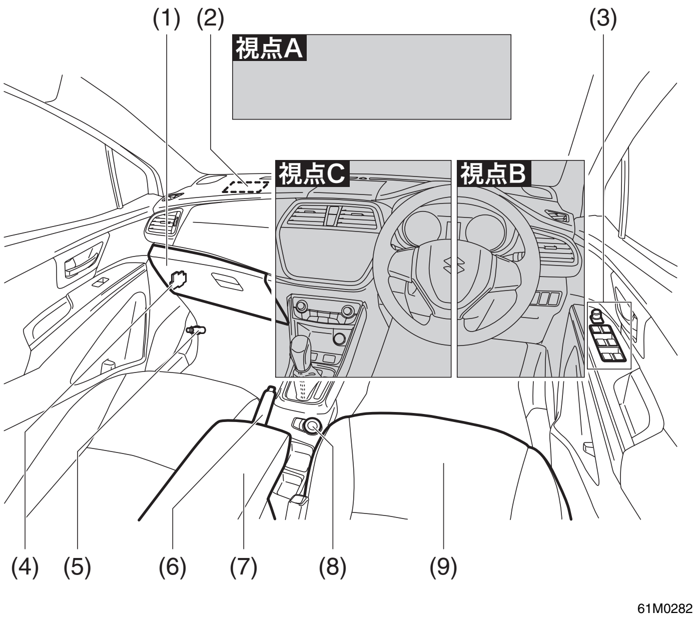
外観（後面）



(1) ルーフアンテナ 4-27
(2) ハイマウントストップランプ 6-27
(3) リヤワイパー 2-90
(4) 燃料給油口（フューエルリッド）. 1-29
(5) リヤコンビネーションランプ 6-25
(6) 後退灯 6-26
(7) 番号灯 6-27
(8) バックドア 2-13

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

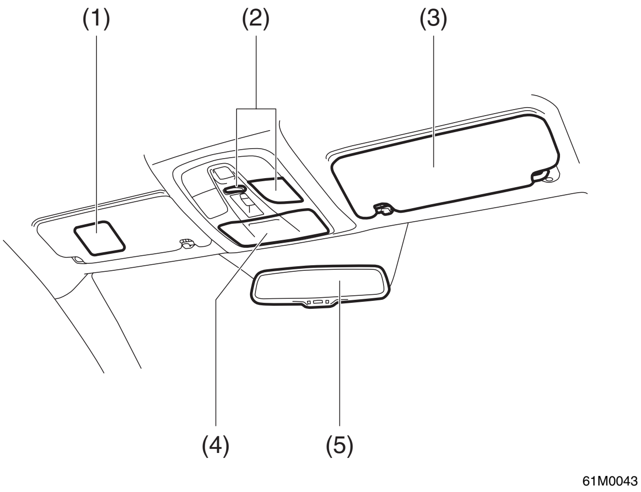
内装（前面）



(1) グローブボックス.................................4-13
(2) 助手席SRSエアバッグ..............................2-41
(3) パワーウインドースイッチ..........................2-18
ドアミラー角度調節スイッチ........................2-23
ドアミラー格納スイッチ............................2-24
(4) ヒューズ...6-18
(5) 発炎筒...6-30
(6) パーキングブレーキ...............................3-11
(7) コンソールボックス付アームレスト..................4-11
(8) ALL GRIPモードスイッチ...........................3-35
(9) 前席シート.......................................2-26

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

■ 視点A

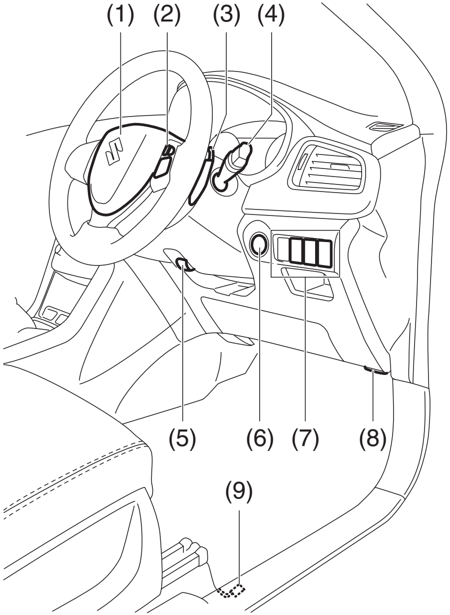


(1) 助手席SRSエアバッグに関する警告ラベル（※）. 2-43
(2) 前席室内灯. 4-5
(3) サンバイザー. 4-3
(4) オーバーヘッドコンソール. 4-12
(5) ルームミラー. 2-22

※お子さま用シートをご使用になる前に、必ずお読みください。

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

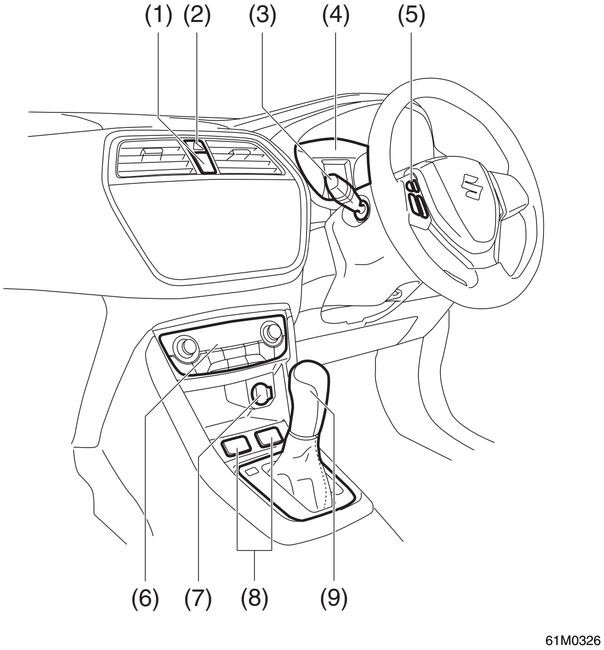
■ 視点B



(1) 運転席SRSエアバッグ 2-41
ホーンスイッチ 2-91
(2) クルーズコントロールスイッチ 3-41
(3) パドルシフトスイッチ 3-17
(4) ライトスイッチ 2-83
方向指示器スイッチ 2-86
(5) ハンドル位置固定レバー 2-26
(6) エンジンスイッチ 3-1
(7) ESP® OFFスイッチ 3-47
フォグランプスイッチ 2-86
ヘッドライトウォッシャースイッチ 2-91
(8) ボンネットオープナー 4-1
(9) フューエルリッドオープナー 1-29

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

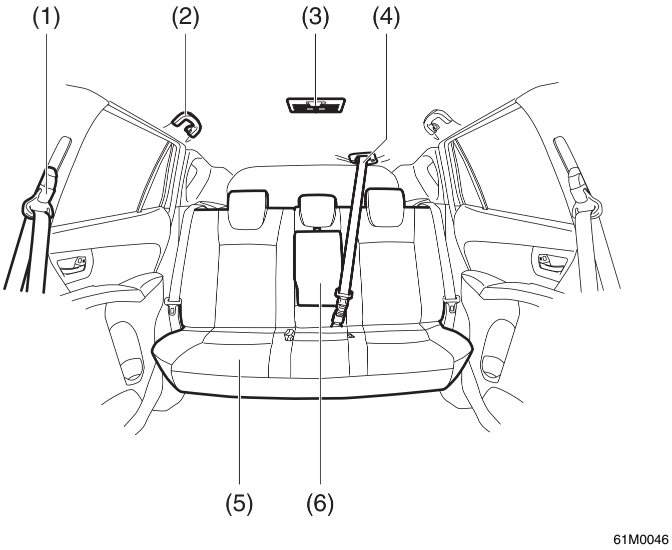
■ 視点C



(1) セキュリティアラームインジケーター. 2-14
(2) 非常点滅表示灯スイッチ. 2-87
(3) ワイパー／ウォッシャースイッチ. 2-87
(4) メーター . . . . 1-11、2-63
(5) ステアリングオーディオスイッチ. 4-29
(6) エアコン、ヒーター. 4-19
(7) アクセサリーソケット. 4-7
(8) 前席シートヒータースイッチ. 2-91
(9) セレクトレバー. 3-13

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

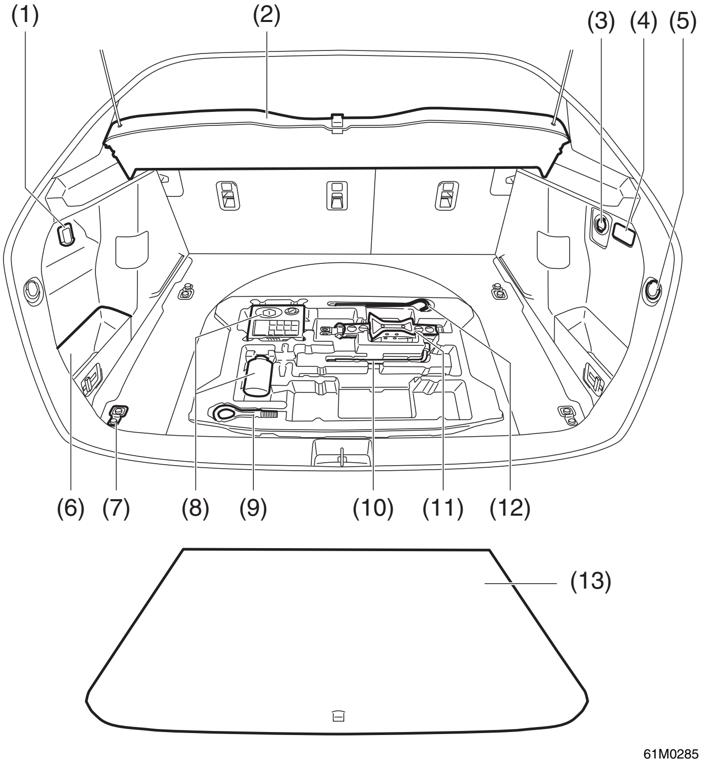
内装（後面）



(1) シートベルト 2-31
(2) アシストグリップ 4-13
(3) 後席室内灯 4-5
(4) 後席中央席シートベルト 2-37
(5) 後席シート 2-29
(6) ドリンクホルダー付アームレスト 4-9

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

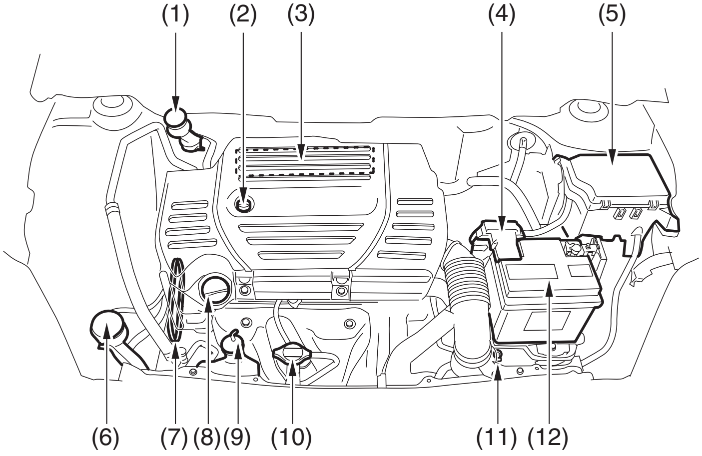
荷室



(1) ショッピングフック 4-14
(2) ラゲッジシェルフ（荷室カバー）..... 4-15
(3) アクセサリーソケット 4-7
(4) ラゲッジルームランプ 4-5
(5) カーゴネットフック 4-15
(6) ラゲッジポケット 4-11
(7) ロープフック 4-15
(8) タイヤパンク応急修理セット 6-1
(9) けん引フック 6-33
(10) ホイールレンチ 6-1
(11) ジャッキ 6-1
(12) ジャッキバー 6-1
(13) ラゲッジボード 4-16

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

エンジンルーム



お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをご覧ください。

(1) **ブレーキフルードリザーバータンク**

(2) **エンジンオイルレベルゲージ**

(3) エアクリーナー

(4) メインヒューズボックス

(5) リレーボックス

(6) **ウォッシャータンク**

(7) ドライブベルト

(8) エンジンオイルフィラーキャップ

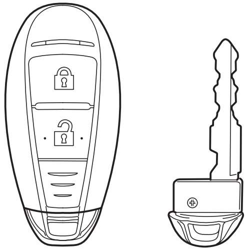
(9) **冷却水リザーバータンク**

(10) ラジエーターキャップ

(11) CVTフルードレベルゲージ

(12) **鉛バッテリー**

キー

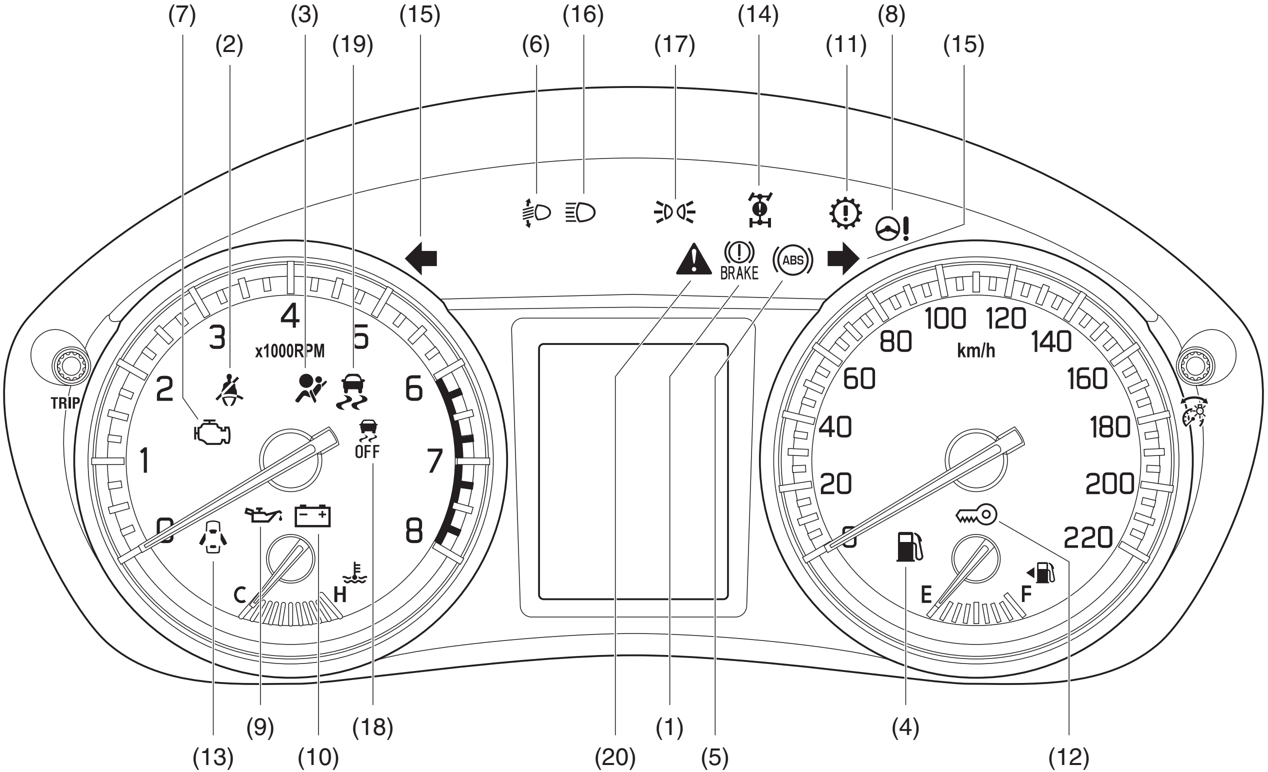


61M0002

携帯リモコン.. 2-2
エマージンシーキー 2-6
ドアの施錠・解錠.................................... 2-6
エンジンのかけかた 3-8

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

警告灯・表示灯の見かた

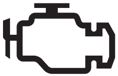


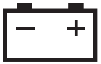
61M0353

お車のタイプにより、異なる装備も含んでいます。

■ 警告灯一覧表

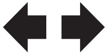
- 警告灯が点灯または点滅し続けた場合は、車両またはシステムの異常が考えられます。参照先の内容をよくお読みのうえ、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- ※印の警告灯は、エンジンスイッチを“ON”にしたときに初期点灯するのが正常です。点灯しない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

警告灯			色	警告灯名
(1)		※	赤	ブレーキ警告灯 →P.**1-14**
(2)			赤	シートベルト警告灯 →P.**1-14**
(3)		※	赤	SRSエアバッグ警告灯 →P.**1-15**
(4)			オレンジ	燃料残量警告灯 →P.**1-15**
(5)		※	オレンジ	ABS警告灯 →P.**1-16**
(6)		※	オレンジ	オートレベリング警告灯 →P.**1-16**
(7)		※	オレンジ	エンジン警告灯 →P.**1-16**

警告灯			色	警告灯名
(8)		※	オレンジ	パワーステアリング警告灯 →P.**1-17**
(9)		※	赤	油圧警告灯 →P.**1-17**
(10)		※	赤	充電警告灯 →P.**1-18**
(11)		※	オレンジ	トランスミッション警告灯 →P.**1-18**
(12)		※	オレンジ	イモビライザー警告灯 →P.**1-18**
(13)			赤	半ドア警告灯 →P.**1-18**
(14)		※	オレンジ	4WD警告灯（タイプ別装備） →P.**1-19**

■表示灯一覧表

※印の表示灯は、エンジンスイッチを“ON”にしたときに初期点灯するのが正常です。点灯しない場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

表示灯			色	表示灯名
(15)			緑	方向指示器表示灯 →P.**1-19**
(16)			青	ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯 →P.**1-19**
(17)			緑	ライト点灯表示灯 →P.**1-19**

表示灯			色	表示灯名
(18)		※	オレンジ	ESP® OFF表示灯 →P.**1-19**
(19)		※	オレンジ	ESP®作動表示灯 →P.**1-20**
(20)			オレンジ	マスターウォーニング →P.**1-20**

警告灯

■ ブレーキ警告灯

65D477

- 次のような状況になると、エンジンスイッチが“ON”のときに点灯します。
  ≫パーキングブレーキをかけている
  ≫ブレーキ液が不足している
  ≫ブレーキシステムに異常がある
- システムが正常で、パーキングブレーキを完全に解除しているときは、エンジンスイッチを“ON”にすると約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に一時的に点灯しても、そのあと消灯し再点灯しなければ問題ありません。

⚠ 警告

- **次のようなときはただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。**
  ≫パーキングブレーキを完全に解除しても消灯しないときや、走行中に点灯したとき。ブレーキの効きが悪くなっていることがあります。ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。
  ≫ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したままのとき。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。
- **パーキングブレーキの解除忘れにご注意ください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。また、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。**
  →パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー P.**3-12**

■ シートベルト警告灯

80J221

運転者がシートベルトを着用していないと、エンジンスイッチが“ON”のときに点灯します。

また、エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約15 km/h以上になったときに運転者がシートベルトを着用していない場合、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴るとともに、警告灯が点灯から点滅に切り替わります。

- 運転者がシートベルトを着用しても、点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 運転者がシートベルトを着用すると消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。

次のページに続く→

- 警告ブザーは運転者がシートベルトを着用しなくても、約 95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にするまで消灯しません。

■ SRSエアバッグ警告灯

80J111

- 次のような場合、エンジンスイッチを“ON”にしたときに点灯します。
  ≫SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが作動
  ≫SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常がある
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを“ON”にしたときに、約6秒間点灯したあと消灯します。

⚠警告

次のような場合、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。万一、衝突したときSRSエアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが正常に作動せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- **エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない**
- **エンジンスイッチを“ON”にしたあと、約6秒間たっても消灯しない**
- **運転中に点灯**

■ 燃料残量警告灯

80J225

- 燃料の残量が少なくなると、エンジンスイッチが“ON”のときに点灯します。すみやかに給油してください。
  ≫点灯すると、警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。また、そのまま給油しないでいると、エンジンスイッチを“ON”にするごとに警告ブザーが鳴ります。
- システムに異常があると、エンジンスイッチが“ON”のときに点滅します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  →燃料計 P.**2-64**

アドバイス

- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、早めに点灯することがあります。
- 走りかたによって、点灯・消灯が繰り返されることがあります。

■ABS警告灯

80J127

ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが“ON”のときに点灯します。点灯中はABSが作動しません。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合はエンジンスイッチを“ON”にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

警告

ABS警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。ブレーキペダルを強く踏むと車両が不安定になるおそれがあります。ハンドルをしっかり握り、ブレーキペダルを慎重に踏んで徐々にスピードを落とし、停車してください。

アドバイス

点灯中はABSは作動しませんが、通常のブレーキとして使用することができます。

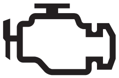
■オートレベリング警告灯

80J217

ディスチャージヘッドライト装備車では、オートレベリング（自動光軸調整）システムに異常があると、エンジンスイッチが“ON”のときに点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを“ON”にしたときに約2秒間点灯したあと消灯します。
- 走行中に点灯した場合は、安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。
  再びエンジンスイッチを“ON”にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯すれば、そのまま使用できます。
  消灯せず再び点灯する場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

■エンジン警告灯



80J222

- エンジンの電子制御システムに異常があると、エンジン回転中に点灯します。
- エンジンの失火を検知すると、エンジン回転中に点灯または点滅します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを“ON”にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯・点滅したときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

警告

点滅したときは、すみやかに停車しエンジンを止めてください。触媒装置が溶損するおそれがありますので、次のことに注意してください。

- **枯れ草などの燃えやすいものがない安全な場所に停車する**
- **やむをえず走行する場合はアクセルを大きく踏み込む走行をしないで、低速で走行する**

■ パワーステアリング警告灯

80J408

電動パワーステアリングシステムに異常があると、エンジン回転中に点灯または点滅します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを“ON”にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

注意

電動パワーステアリングシステムに異常があると、電動パワーステアリングシステムの機能が停止し、ハンドル操作が重くなります。通常より大きな力で操作することは可能ですが、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

- 駐車するときや停車中に、ハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいにまわした状態で長く保持したりすると、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。これはシステムの過熱防止のための保護機能であり異常ではありません。しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がり操作力はもとにもどりますが、このようなハンドル操作を繰り返すと故障の原因となります。
- すばやいハンドル操作を行なうと、ハンドル付近から機械音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ 油圧警告灯

80J223

エンジン回転中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを“ON”にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジンオイルの量は、オイルレベルゲージで点検してください。点検方法は、「**メンテナンスノート**」を参照してください。
- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

注記

点灯したまま走行を続けないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

■ 充電警告灯

80J226

充電系統に異常があると、エンジン回転中に点灯します。

- システムが正常な場合は、エンジンスイッチを“ON”にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。
- エンジン回転中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためエンジンを止めて、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

■ トランスミッション警告灯

80J219

- CVTのシステムに異常があると、エンジンスイッチが“ON”のときに点灯します。スズキサービス工場で点検を受けてください。
- 運転中に、CVTフルードの温度が異常に高くなると点滅します。すみやかに安全な場所に停車してください。しばらくするとCVTフルードの温度が下がり、警告灯が消灯します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを“ON”にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

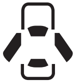
■ イモビライザー警告灯

80J216

車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが“ON”のときに点灯することがあります。スズキサービス工場で点検を受けてください。

→イモビライザーシステム P.**3-2**

■ 半ドア警告灯



82K274

いずれかのドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

- 点灯したままにしていると、走行するごとに警告ブザーが“ポーン”と1回鳴ります。

⚠ 警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが完全に閉まっていない半ドア状態のときは、走行中にドアが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、半ドア警告灯が自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

- エンジンスイッチが“OFF”の位置
- 点灯したまま15分が経過

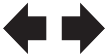
■ 4WD警告灯（タイプ別装備）

57L30042

- 4WD システムに異常または問題があると、エンジンスイッチが“ON”のときに点灯または点滅します。点灯したときはスズキサービス工場で点検を受けてください。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを“ON”にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。
→ALL GRIP（4WD）モードの切替え（4WD車のみ）P.**3-34**

表示灯

■ 方向指示器表示灯



72M00170

- 方向指示器／非常点滅表示灯を作動させると点滅します。
- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。
→電球を交換するときは P.**6-22**

■ ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯

80J212

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

■ ライト点灯表示灯

82K096

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。

■ ESP® OFF表示灯

57L30045

- ESP® OFFスイッチを長押しすると点灯します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを“ON”にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。
→ESP®装備車の取扱い P.**3-47**

■ ESP®作動表示灯

79K019

- トラクションコントロールまたはスタビリティコントロールが作動すると、小刻みに点滅します。
- ESP® のシステムに異常があると点灯します。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを“ON”にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。
  →ESP®装備車の取扱い P.**3-47**

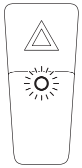
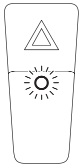
■ マスターウォーニング

78K049

メーター内のインフォメーションディスプレイにメッセージがあるとき、同時に点滅する場合があります。
→インフォメーションディスプレイのメッセージ P.**2-73**

警告ブザーが鳴ったときは

全車共通

いつ	ブザー	表示	説明
いずれかのドアを開けたとき	● ピー、ピー、 ● 約10秒間 ● 室内ブザー	 2秒間隔で点滅	セキュリティアラームの警報が作動しています。 ● 次のいずれかの操作を行なって、警報を停止してください。 ≫ドアを携帯リモコンまたはリクエストスイッチで解錠する ≫エンジンスイッチを“ON”にする →セキュリティアラーム P.**2-14**
エンジンスイッチを“ON”にしたとき、または“ON”のとき	● ピー、ピー、 ● 4回 ● 室内ブザー	 小刻みに点滅	駐車中にセキュリティアラームが作動したことをお知らせしています。 ● 盗難にあっていないか、お車の中を確認してください。 →セキュリティアラーム P.**2-14**

いつ	ブザー	表示	説明
エンジンスイッチを“ON”にしたとき、または“ON”のとき	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	 点滅	インフォメーションディスプレイにお知らせしたい情報が表示されています。 ● メッセージの内容を確認してください。 →インフォメーションディスプレイのメッセージ P.**2-73**
		 点灯　点滅	ESP®のシステムに異常が考えられます。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。 →ESP®装備車の取扱い P.**3-47**
		 点灯　点滅	燃料の残量が少なくなっています。 ● すみやかに給油してください。 →燃料残量警告灯 P.**1-15**
		 点滅　点滅	CVTフルードの過熱が考えられます。 ● 安全な場所に停車して、アイドリング状態にしてください。 →トランスミッション警告灯 P.**1-18**
すべてのドアを閉めたとき	● ピー、ピー、 ● 約2秒間 ● 室内／車外ブザー	 点滅　点滅	携帯リモコンが車内にない、またはリモコンの電池切れが考えられます。 ● リモコンを車内にもどすか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 →携帯リモコン車外持ち出し警告 P.**3-5** →エンジンのかけかた P.**3-8**
エンジンをかけようとしたとき			

いつ	ブザー	表示	説明
停車中／後退中	● ピー、ピー、 ● 室内ブザー	 表示	セレクトレバーが“R”に入っています。 ● セレクトレバーの位置を確認してください。 →“R”（リバース）ポジション 警告ブザー P.**3-19**
走行中	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	 点灯 点滅	いずれかのドアが完全に閉まっていません。 ● 安全な場所に停車して、ドアを完全に閉めてください。 →半ドア警告灯 P.**1-18**
	● ピピピッ、 ピピピッ、 ● 室内ブザー	 点灯	パーキングブレーキが解除されていません。 ● パーキングブレーキを解除してください。 →パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー P.**3-12**
	● ピー、ピー、 ● 約95秒間 ● 室内ブザー	 点滅	運転者がシートベルトを着用していません。 ● 安全な場所に停車して、シートベルトを着用してください。 →シートベルト警告ブザー P.**2-34**
パドルシフトスイッチを操作したとき	● ピピッ ● 室内ブザー	—	希望するギヤポジションに変速されていません。 ● 車速に見あった適切なギヤポジションを選択してください。 →マニュアルモードの使いかた P.**3-16**
エンジンスイッチをもどすとき	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	 点滅	インフォメーションディスプレイにお知らせしたい情報が表示されています。 ● メッセージの内容を確認してください。 →インフォメーションディスプレイのメッセージ P.**2-73**

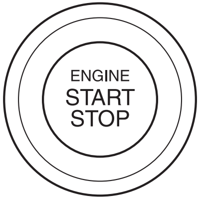
いつ	ブザー	表示	説明
運転席ドアを開けたとき	● ピー、ピー、 ● 室内ブザー	—	エンジンスイッチが“ACC”になっています。 ● “OFF”にもどしてください。 →エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー P.**3-11**
	● ピーーー ● 室内ブザー	 点灯　点滅	ヘッドライトや車幅灯が点灯しています。 ● ライトを消してください。 →ライト消し忘れ警告ブザー P.**2-85**
	● ピッ、ピッ、 ● 室内ブザー	—	故障などで、エンジンスイッチを“OFF”にしていずれかのドアを開閉してもハンドルがロックされていません。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。 →ハンドルロック未作動警告ブザー P.**3-11**
リクエストスイッチを押したとき	● ピー ● 約2秒間 ● 車外ブザー	—	● エンジンスイッチが“ACC”または“ON”になっています。 ≫“OFF”にもどしてください。 →エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー P.**3-11** ● 携帯リモコンが車内にあります。 ≫リモコンを車外に持ち出してください。
		 点灯　点滅	いずれかのドアが完全に閉まっていません。 ● ドアを完全に閉めてください。 →リクエストスイッチによる施錠・解錠 P.**2-7**
携帯リモコンのロックスイッチを押したとき	● ピー ● 約2秒間 ● 車外ブザー	 点灯　点滅	いずれかのドアが完全に閉まっていません。 ● ドアを完全に閉めてください。 →キーレスエントリーによる施錠・解錠 P.**2-9**

4WD車のみ

いつ	ブザー	表示	説明
エンジンスイッチが“ON”のとき	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	 点灯／点滅／消灯 点滅	インフォメーションディスプレイにお知らせしたい情報が表示されています。 ● メッセージの内容を確認してください。 →インフォメーションディスプレイのメッセージ（4WD車のみ）P.**3-37**

エンジンスイッチ

→エンジンスイッチの各位置のはたらき P.**3-1**



61M0288

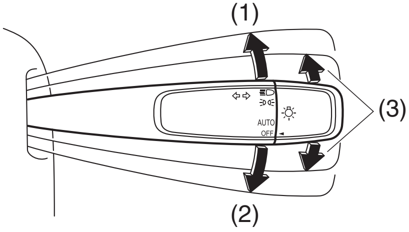
エンジンスイッチは、エンジンの始動・停止、電源の切替えに使用します。

- エンジンをかけるときは、セレクトレバーを“P”に入れ、ブレーキペダルを踏んだままでスイッチを押します。

方向指示器（ウインカー）

エンジンスイッチが“ON”のときに使用できます。

→方向指示器スイッチ P.**2-86**

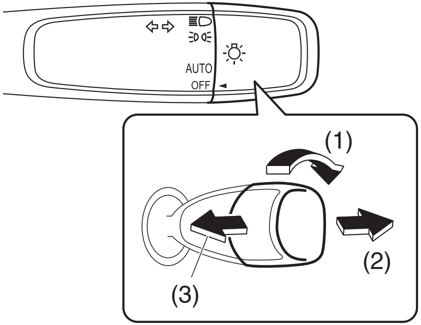


61M0176

(1) 左折
(2) 右折
(3) 車線変更（軽く押さえる）

ライト

→ライトスイッチ P.**2-83**

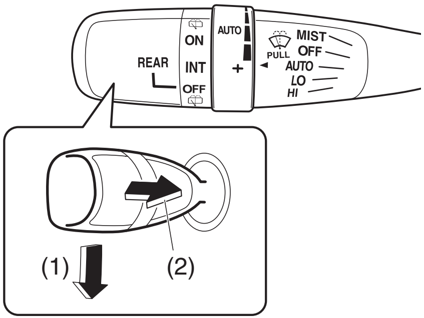


61M0289

(1) 点灯
(2) ハイビーム
(3) パッシング（追い越し合図）

ワイパー

エンジンスイッチが“ON”のときに使用できます。
→ワイパー／ウォッシャースイッチ P.**2-87**

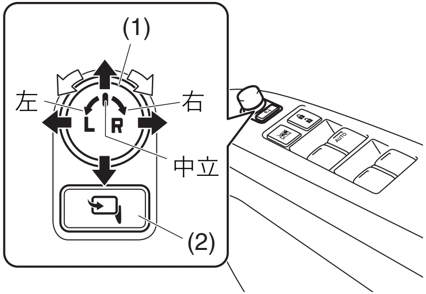


61M0322

(1) ワイパー作動
(2) ウォッシャー作動

ドアミラー

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに調節・格納できます。
→ドアミラー P.**2-23**



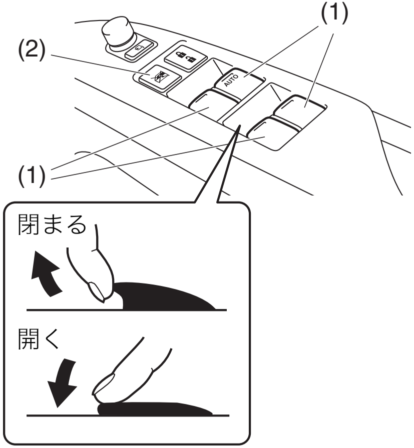
61M0208

(1) 角度調節スイッチ
(2) 格納スイッチ

- 角度調節スイッチで、ドアミラーの角度を調節します。
- 格納スイッチで、ドアミラーを格納します。

ウインドー（窓ガラス）

エンジンスイッチが“ON”のときに開閉できます。
→パワーウインドー P.**2-18**



61M0209

(1) 開閉スイッチ
(2) ロックスイッチ

ロックスイッチを押し込むと、運転席以外のウインドー開閉ができなくなります。

給油するときは

火気に気をつけて

61M0053

⚠警告

必ず次のことをお守りください。

- エンジンを止めてください。
- 給油中はドアや窓を閉めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコなどの火気は厳禁です。

セルフスタンドで給油するときは

⚠警告

セルフスタンドで給油するときは必ず次のことをお守りください。

- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機の金属部分に手を触れて、身体の静電気（※）を除去してください。
身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火し、やけどのおそれがあります。
また、給油中は車内にもどらないでください。再び帯電するおそれがあります。
- 給油口には、静電気除去を行なった方以外の人を近づけないでください。

※空気が乾燥すると、身体に多くの静電気が帯電します。また、かさね着をすると、繊維の摩擦により静電気が発生します。とくに乾燥する季節は注意してください。

- フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気が抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 給油口に給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでください。ノズルを確実に差し込まないと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルのレバーを止まるところまで確実に引いてください。
- 給油ノズルの自動停止（オートストップ）機能が作動したら、給油を終了してください。自動停止後に継ぎ足し給油をすると、燃料があふれ出るおそれがあります。

61M0155

※給油機によっては、早期に自動停止機能が作動して給油できない場合があります。スタンド従業員の指示にしたがってください。

次のページに続く→

- **燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。**
- **給油後は、給油ノズルを確実にもとの位置にもどし、フューエルキャップをしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。**
- **燃料は人体に有害な物質を含んでいます。気化した燃料を吸い込まないでください。**
- **そのほか、スタンドに掲示されている注意事項をお守りください。**

無鉛ガソリン以外は使用しない

注記

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、そのほかの燃料（アルコール系、軽油など）を使用すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

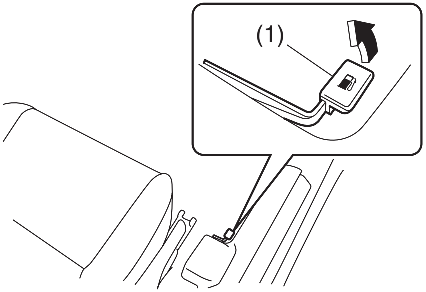
燃料給油口

助手席側の車両後方にあります。

開けかた

1. フューエルリッドを開けます。

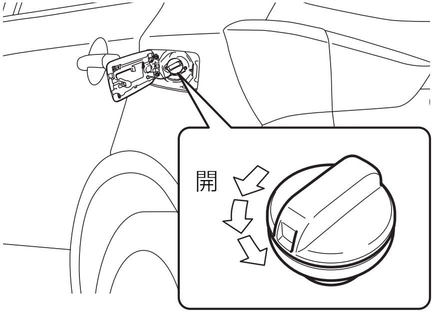
≫運転席足元のフューエルリッドオープナーを引き上げます。



71L50280

(1) フューエルリッドオープナー

2. フューエルキャップを開けます。
≫反時計方向にゆっくりまわします。

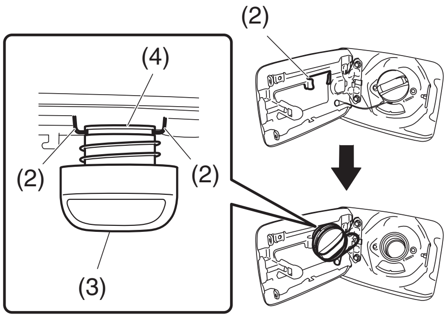


61M0290

⚠警告

フューエルキャップはゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まったらキャップを開けます。急に開けると燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。

3. 外したフューエルキャップが車体に当たらないように、キャップホルダーにかけます。
≫キャップ先端の溝部を、ホルダーへ差し込みます。



61M0354

(2) キャップホルダー
(3) フューエルキャップ
(4) キャップ先端の溝部

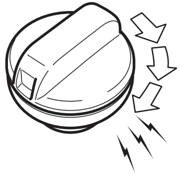
4. 給油口に、給油ノズルを止まるところまで確実に差し込んでから、給油を開始します。

⚠警告

給油中は燃料をこぼさないようにしてください。こぼれた場合は、ただちにやわらかい布などでふき取ってください。火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、そのまま放置すると、塗装のしみ、変色、ひび割れの原因となります。

閉めかた

1. フューエルキャップを閉めます。
≫時計方向に、カチッという音が2回以上するまでまわします。



61M0292

⚠警告

- **フューエルキャップはしっかりと閉めてください。キャップが確実に閉まっていないと、燃料が漏れたり、火災が発生したりするおそれがあります。**
- **指定のスズキ純正フューエルキャップ以外は使用しないでください。燃料漏れのおそれがあります。**

2. フューエルリッドを手で押し付けて閉めます。

よくあるご質問（Q & A）

お問い合わせの多い、よくあるご質問についてご案内します。

ドアの開閉

Q. キーレスエントリーが作動しない。

A. キーレスエントリーが作動しない状況にあるおそれがあります。「キーレスエントリーによる施錠・解錠」（→P.**2-9**）をお読みください。

A. 携帯リモコンの電池が消耗しているときは、交換してください。
→携帯リモコンの電池交換 P.**2-4**

Q. ドアを開けたら警報が鳴る。

A. 警報装置（セキュリティアラーム）が作動しています。次のいずれかの操作で警報を止めてください。
- ドアを携帯リモコンまたはリクエストスイッチで解錠する
- エンジンスイッチを"ON"にする

正しい取扱い方法や設定切替えについては、「セキュリティアラーム」（→P.**2-14**）をお読みください。

窓ガラス

Q. フロントガラスやドアガラス内側のくもりを取りたい。

A. デフロスタースイッチ（→P.**4-24**）をご使用ください。

Q. バックドアガラス内側のくもりを取りたい。

A. リヤデフォッガースイッチ（→ P.**2-92**）をご使用ください。

タイヤ

Q. パンクした。

A. パンクの状態によっては、タイヤパンク応急修理セットをご使用いただくことで、応急修理ができます。
→パンク P.**6-1**

バッテリーあがり

Q. バッテリーがあがり、エンジンが始動できない。

A. 救援車のバッテリーとブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。

→ 鉛バッテリーあがり P.**6-13**

エンジンオイル

Q. エンジンオイルを交換したい。

A. 次の項目をお読みください。

→ エンジンオイルを交換するときは P.**7-6**
→ サービスデータ P.**7-1**

電装品

Q. ヘッドライトまたは制動灯（ブレーキランプ）が点灯しなくなった。

A. 電球を点検してください。

→ 電球の点検 P.**6-21**
→ 電球を交換するときは P.**6-22**
→ 電球の容量 P.**7-4**

Q. 電気装置が使用できなくなった。

A. ヒューズを点検してください

→ ヒューズが切れたときは P.**6-16**

Q. 運転席パワーウインドーがオートで全開／全閉しなくなった。

A. パワーウインドーのはさみ込み防止機構の初期設定が必要です。「はさみ込み防止機構の初期設定」(→P.**2-21**）をお読みください。

MEMO

2. 運転する前に

ドアの開閉

キー..2-2
ドア..2-6

警報装置

セキュリティアラーム（警報装置）................ 2-14

ウインドーの開閉

パワーウインドー 2-18

各部の調節

ルームミラー.................................. 2-22
ドアミラー................................... 2-23
ハンドル..................................... 2-26

シートの調節

前席シート................................... 2-26
後席シート................................... 2-29

シートベルト

シートベルトについて 2-31
シートベルトの着用のしかた 2-36
シートベルトの取扱いとお手入れ 2-40

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ車を運転するときは............... 2-41
SRS エアバッグシステムの取扱い................. 2-45
SRS エアバッグシステムの作動.................. 2-46
SRS エアバッグシステムの廃棄や廃車............. 2-50

お子さま用シート

お子さまを乗せるときは 2-50
お子さま用シートの選択について 2-52
お子さま用シートのシートベルトによる固定....... 2-58
ISOFIX 対応お子さま用シートの固定 2-60

メーター

メーターの見かた 2-63
インフォメーションディスプレイ 2-65

スイッチの使いかた

ライトスイッチ. 2-83
フォグランプスイッチ 2-86
方向指示器スイッチ 2-86
非常点滅表示灯スイッチ 2-87
ワイパー／ウォッシャースイッチ 2-87
ヘッドライトウォッシャースイッチ 2-91
ホーンスイッチ. 2-91
前席シートヒータースイッチ（タイプ別装備）. 2-91
リヤデフォッガースイッチ 2-92

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRS エアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

キー

携帯リモコン

所持している携帯リモコンと車両間で電波通信を行ない、照合がとれることで次の機能が使用可能となります。

- ドアの施錠・解錠 →P.2-6
- キーレスエントリー →P.2-9
- エンジンスイッチによる始動および電源の切替え
  →キーレスプッシュスタートシステム P.3-3
  →エンジンのかけかた P.3-8
- イモビライザー（車両盗難防止装置）
  →P.3-2

⚠警告

携帯リモコンを航空機内へ持ち込む場合は、機内で操作ボタンを押さないでください。また、バッグなどに入れるときは、簡単に操作ボタンが押されないように収納してください。操作ボタンが押されると、電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

※携帯リモコンは、航空機内での使用が制限される電子機器に該当します。

注記

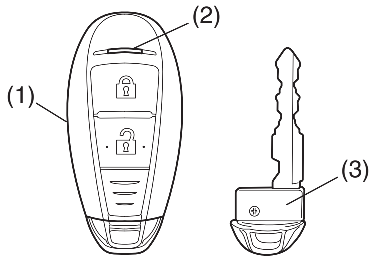
携帯リモコンが発信する電波が、携帯電話やほかのリモコンなどの無線通信機器に影響をあたえることがあります。必要以上に携帯リモコンやリクエストスイッチ、エンジンスイッチの操作をしないでください。

アドバイス

- 携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。車内にリモコンを置き忘れないでください。
- 盗難などを防ぐため、キー（携帯リモコンおよびエマージェンシーキー）を紛失したときは、すみやかにスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンは車両と通信するとき、外的影響を受けやすい微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では、正常に作動しないことがあります。
  ≫近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波やノイズを発生する設備がある
  ≫携帯電話、無線機などの無線通信機器やノートパソコンなどと一緒に所持している
  ≫携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  ≫近くで他車のキーレスエントリーが使用されている
  ≫コインパーキングに駐車している（車両検出用の電波の影響があるため）

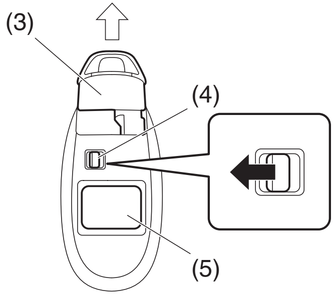
■ **携帯リモコンの構成**

この車には、携帯リモコンが2個、リモコンに格納可能なエマージェンシーキーが2本ついています。



(1) 携帯リモコン
(2) 作動表示灯
(3) エマージェンシーキー

● リモコンに格納されているエマージェンシーキーは、ロック解除レバーを ⬅ 方向に引きながら取り出します。



(4) ロック解除レバー
(5) 適合照明マーク

⚠注意

携帯リモコンの分解（電池交換時を除く）や修理、改造をしないでください。発火や感電、けがのおそれがあります。また、法律により処罰されることがあります。

ⓘ注記

携帯リモコンには、精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- **インパネの上などの高温になるような場所に置かない**
- **落下させるなどして、強い衝撃をあたえない**
- **水洗いをしたり、水中に入れたりしない**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない**
- **テレビやオーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かない**
- **電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない**

アドバイス

- 適合証明マークの消去、改ざんをしないでください。法律により処罰されることがあります。
- 携帯リモコンには、エマージェンシーキーを格納してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、リモコンではドアの施錠・解錠ができなくなるおそれがあります。
- 1 台の車両で、4 個の携帯リモコンまで登録できます。
- 電池の寿命は使用状況によりますが約 2 年です。
→携帯リモコンの電池交換 P.**2-4**
- 携帯リモコンは、車両と通信するために常時受信動作をしています。強い電波を受信し続けたとき、電池を著しく消耗することがあります。（テレビやパソコンなどの強い電波を発信する電化製品の近くに置いたときなど）
- 携帯リモコンのご購入、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ 携帯リモコン電池消耗警告

携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを“ON”にしたときに、インフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。電池を交換してください。

→インフォメーションディスプレイのメッセージ P.**2-73**

61M0355

アドバイス

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、メッセージを表示させなくすることもできます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ 携帯リモコンの電池交換

警告

電池および取り外した部品は、お子さまが誤って飲み込まないよう注意してください。

注記

故障を防ぐため、次のことをお守りください。

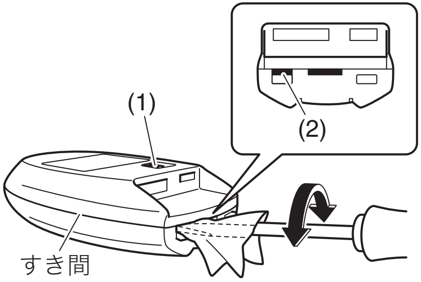
- **濡れた手で電池交換をしない**
- **電池以外の端子や電子部品に触れない**
- **端子を曲げない**
- **油や異物を付着させない**

アドバイス

- 電池交換の際、携帯リモコンを破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。
- 電池は、スズキ販売店や家電量販店・ホームセンターなどでご購入ください。

1. 携帯リモコンからエマージェンシーキーを取り出します。
→携帯リモコンの構成 P.**2-3**

2. 携帯リモコンのケースを分割します。
≫ケースは、ロック解除レバー側を上にします。（内部ユニットの落下防止のため）
≫傷つき防止のため、マイナスドライバー（市販品）に布などをかぶせます。リモコンの側面左側にある溝へ差し込み、ケースを分割します。このとき、ケースの合わせ部分に、指のつめなどを差し込むと、分割しやすくなります。



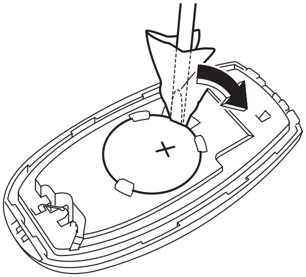
71L60060

(1) ロック解除レバー
(2) 溝

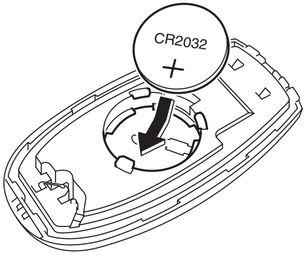
注記

- **ケースを分割するときは、ロック解除レバー側を下にしないでください。内部ユニットが落下して破損するおそれがあります。**
- **ドライバーで、内部ユニットを破損しないよう注意してください。**

3. 電池を交換します。
≫古い電池を取り出します。傷つき防止のため、布などをかぶせたマイナスドライバー（市販品）を使用します。


71L60070

≫電池は、＋極を上にして取り付けます。



71L60080

使用電池	リチウム電池CR2032

4. ケースを組み付けます。
≫ケースのあわせ部分のすきまが均等になるように確実にはめ込みます。

5. エマージェンシーキーを格納します。

6. 携帯リモコンが正常に作動するか確認します。

エマージェンシーキー

- 携帯リモコンには、エマージェンシーキーを格納して携帯してください。リモコンの電池が消耗しているときや故障したときなどに、エマージェンシーキーが必要になります。
- エマージェンシーキーはドアの施錠・解錠に使えますが、エンジンの始動、停止には使えません。
  →エンジンのかけかた P.**3-8**
- エマージェンシーキーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。

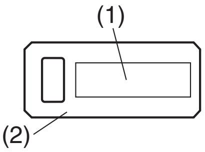
アドバイス

- エマージェンシーキーによる解錠では、セキュリティアラームのセット状態は解除されません。
  →セキュリティアラーム P.**2-14**
- 次のようなときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
  ≫キー（携帯リモコンおよびエマージェンシーキー）のご購入
  ≫キーを紛失したとき。盗難などのおそれがあるため、すみやかにご連絡ください。

キーナンバープレート

- キーナンバープレートには、エマージェンシーキー作成時に必要なキーナンバーが打刻されています。万一、エマージェンシーキーを紛失したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- キーナンバープレートを紛失しないように、またお客様以外の方にキーナンバーを知られないように、車以外の場所に大切に保管してください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有される方のためにキーナンバープレートをキー（携帯リモコンおよびエマージェンシーキー）とともにお渡しください。

— 代表例 —



80J1008

(1) キーナンバー
(2) キーナンバープレート

ドア

ドアの施錠・解錠

⚠警告

火災や盗難などの事故防止のため、車から離れるときは、エンジンを止めドアを施錠してください。

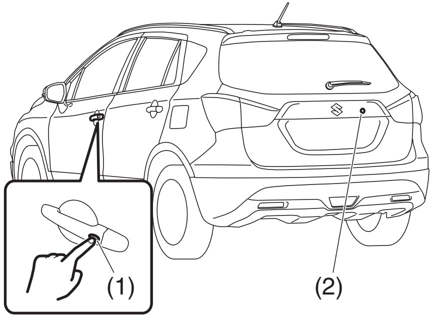
アドバイス

セキュリティアラームがセット状態の場合、携帯リモコンまたはリクエストスイッチ以外で解錠しドアを開けると、警報が作動します。
→セキュリティアラーム P.**2-14**

■ リクエストスイッチによる施錠・解錠

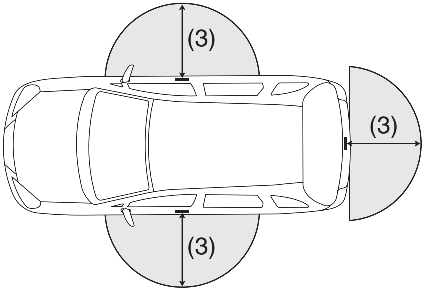
すべてのドアが閉まっているときに、所持している携帯リモコンがリクエストスイッチの作動範囲（車外）に入っていると、リクエストスイッチを押すごとに、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



(1) 前席ドアのリクエストスイッチ
(2) バックドアのリクエストスイッチ

― 代表例 ―



(3) リクエストスイッチの作動範囲（車外）（各スイッチ付近から半球状に周囲約80 cm以内）

アドバイス

- 次のようなときは、リクエストスイッチが作動しません。
  ≫いずれかのドアが開いている
  ≫エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき
- リクエストスイッチの作動範囲（車外）で携帯リモコンを所持していても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチが作動しない場合があります。
  ≫携帯リモコンの電池が消耗している
  ≫携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  ≫携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  ≫携帯リモコンがドアに近づきすぎている
  ≫携帯リモコンが地面の近くや高い位置にあったり、お尻のポケットの中などにあったりして、リクエストスイッチから離れている
- リクエストスイッチの作動は、携帯リモコンが作動範囲にあるドアのみとなります。例えば、運転席ドアの作動範囲にリモコンがあると、運転席ドアにあるリクエストスイッチは作動しますが、助手席ドアおよびバックドアにあるリクエストスイッチは作動しません。
- リクエストスイッチでドアの施錠・解錠をすると、アンサーバック機能やタイマーロック機能が作動します。
  →アンサーバック機能 P.**2-9**
  →タイマーロック機能 P.**2-10**
- 車内に予備の携帯リモコンがあると、そのリモコンが検知され、リクエストスイッチが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。

■ リクエストスイッチ未作動警告ブザー

次のようなときは車外ブザーが“ピー”と約2秒間鳴って、リクエストスイッチが未作動であることを警告します。このとき、ドアは施錠・解錠されません。

- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”の状態で、すべてのドアを閉め、リクエストスイッチを押したとき
- エンジンスイッチを“OFF”にしたあと、次のような状況でリクエストスイッチを押したとき
  ≫携帯リモコンを車内に置き忘れている
  ≫いずれかのドアが開いている
  →半ドア警告灯 P.**1-18**

ドアを施錠する場合は、エンジンスイッチを“OFF”にして携帯リモコンを車外に持ち出し、すべてのドアを完全に閉めたことを確認してから、再度リクエストスイッチを押してください。

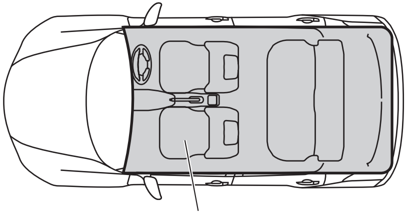
アドバイス

リクエストスイッチ未作動警告ブザーの検知範囲（車内）については、「リクエストスイッチ未作動警告ブザー／携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）」（→P.**2-8**）をお読みください。

■ リクエストスイッチ未作動警告ブザー／携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）

車内の検知範囲は、インパネの上などを除く車室内です。

— 代表例 —



(1) 車内の検知範囲

アドバイス

- 車内の検知範囲に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
  ≫携帯リモコンの電池が消耗している
  ≫携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  ≫携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  ≫携帯リモコンが奥まったところや収納スペースなどにある
  →ドリンクホルダー・収納スペース P.**4-8**
  →そのほかの装備 P.**4-13**
  ≫携帯リモコンがメーターの手前やサンバイザー、床や荷室（ラゲッジシェルフの上を含む）にある
- 車内の検知範囲に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、リクエストスイッチ未作動警告ブザーや携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動する場合があります。

次のページに続く→

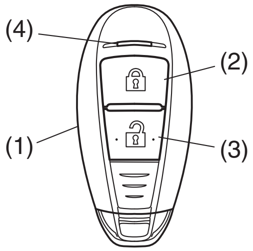
≫車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている

≫携帯リモコンがインパネの上にある

■ キーレスエントリーによる施錠・解錠

車から約2 m以内の範囲で、携帯リモコンのロックスイッチ・アンロックスイッチを押すと、作動表示灯が点滅して、すべてのドアを施錠・解錠できます。

- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されているか確認してください。



71L30140

(1) 携帯リモコン
(2) ロックスイッチ
(3) アンロックスイッチ
(4) 作動表示灯

アドバイス

- 次のようなときは、携帯リモコンによる施錠ができません。
  ≫いずれかのドアが開いているとき。(解錠はできます）車外ブザーが“ピー”と約2秒間鳴ります。
  ≫エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき。
- 携帯リモコンの作動距離は、周囲の影響で変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しないことがあります。
- 少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。
- 携帯リモコンでドアの施錠・解錠ができないときは、エマージェンシーキーを使って施錠・解錠をしてください。
  →エマージェンシーキーによる施錠・解錠 P.**2-10**
- 携帯リモコンが正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。
  →携帯リモコンの電池交換 P.**2-4**
- 携帯リモコンを必要以上に操作すると、電池の消耗が早まります。

■ アンサーバック機能

携帯リモコンによるドアの施錠・解錠を知らせる機能です。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
非常点滅表示灯	1回点滅	2回点滅	—	—
室内灯（スイッチがDOOR位置）	—	約15秒間点灯	2回点滅	約15秒間点灯

- キーレスエントリーの作動と同時に室内灯を点灯または点滅させたい場合は、室内灯スイッチをDOOR位置にします。
- 室内灯が約15秒間点灯したあとは、徐々に減光しながら消灯します。
  →室内灯 P.**4-4**

- キーレスプッシュスタートシステム装備車の場合、車外ブザーも鳴ります。

アンサーバック機能	初期設定（工場出荷時）		設定切替え時	
	ロック（施錠）	アンロック（解錠）	ロック（施錠）	アンロック（解錠）
車外ブザー	1回吹鳴	2回吹鳴	—	—

アドバイス

- アンサーバック機能の設定切替え（カスタマイズ）については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- キーレスプッシュスタートシステム装備車は、リクエストスイッチで施錠・解錠したときにも、アンサーバック機能が作動します。また、次の合図が別々にカスタマイズできます。
  ≫非常点滅表示灯／室内灯による合図
  ≫車外ブザーによる合図
- インフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、車外ブザーによる合図を停止することができます。
  →P.**2-70**

■タイマーロック機能

盗難防止のため、携帯リモコンで解錠したあと、約30秒以内にいずれかのドアも開けなかった場合、自動的にドアを施錠します。

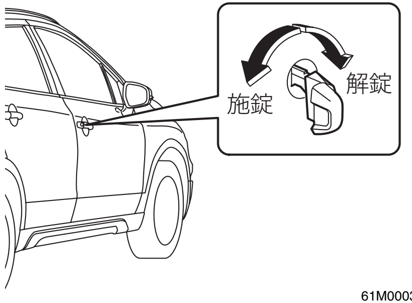
- タイマーロック機能が作動すると、セキュリティアラームが自動的にセットされます。（警報なしの**Aモード**時を除く）
  →セキュリティアラーム P.**2-14**

アドバイス

キーレスプッシュスタートシステム装備車は、リクエストスイッチで解錠したときにも、タイマーロック機能が作動します。

■エマージェンシーキーによる施錠・解錠

エマージェンシーキーを運転席ドアハンドルにあるキーシリンダーに差し込んで、次の図の矢印方向へまわすと、すべてのドアを施錠・解錠できます。



61M0003

アドバイス

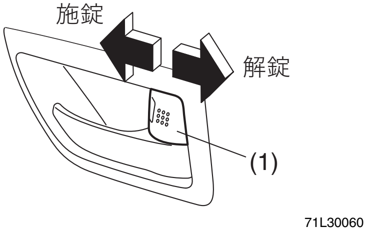
エンジンスイッチが“ON”のときは、エマージェンシーキーで助手席／後席ドアの施錠ができません。

アドバイス

万一、車内から開ける場合は、窓から手を出して外側のドアハンドルをご使用ください。

■前席／後席ドアのロックレバーによる施錠・解錠

ドアを閉めてロックレバーを施錠側（車の前方向）にすると施錠、解錠側（車の後ろ方向）にすると解錠できます。



(1) ロックレバー

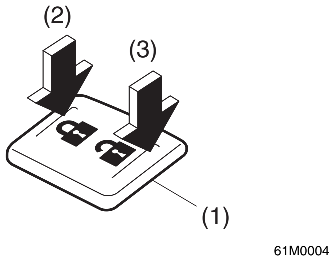
- 車外から施錠するときは、ドアを開けた状態でロックレバーを施錠側にしてから、次のようにします。
  ≫前席ドアの場合、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。
  ≫後席ドアの場合、ドアハンドルは引かずにドアを閉めます。

アドバイス

- 解錠時、ロックレバーの赤い表示が見えます。目安としてください。
- 前席ドアの場合、ドアが開いている状態でロックレバー操作をすると、施錠できない場合があります。
  →携帯リモコン閉じ込み防止機能 P.**2-12**
- 車外から施錠するときは、キー（携帯リモコンおよびエマージェンシーキー）が手元にあるか確認してください。キーを閉じこむおそれがあります。

■運転席ドアのパワードアロックスイッチによる施錠・解錠

運転席ドアにあるパワードアロックスイッチを操作すると、すべてのドアを施錠・解錠できます。



(1) パワードアロックスイッチ
(2) 施錠
(3) 解錠

アドバイス

キーレスプッシュスタートシステム装備車の場合、前席のドアが開いていると、パワードアロックスイッチ操作で施錠できない場合があります。
→携帯リモコン閉じ込み防止機能 P.**2-12**

■携帯リモコン閉じ込み防止機能

施錠時に、携帯リモコンを車内に閉じ込んでしまうのを防止する機能です。

- 携帯リモコンが車内にあるときに次の操作をすると、自動的にすべてのドアが解錠されます。
  - ≫前席ドアが開いているときに、開いたドアのロックレバーを施錠側にしたとき
  - ≫前席ドアが開いているときに、運転席ドアのパワードアロックスイッチを施錠側にしたとき
- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときは、携帯リモコンが車内になくても上記の操作をすると携帯リモコン閉じ込み防止機能が作動します。

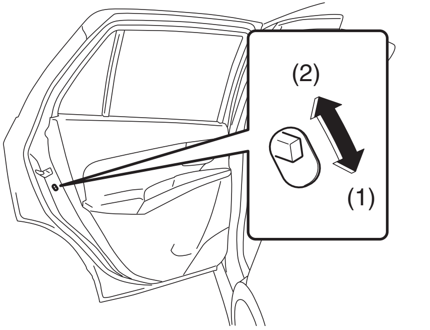
アドバイス

- 鉛バッテリーが完全にあがっているときや接続されていないときは、携帯リモコン閉じ込み防止機能は作動しません。
- 携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）については、「リクエストスイッチ未作動警告ブザー／携帯リモコン閉じ込み防止機能の検知範囲（車内）」（→P.**2-8**）をお読みください。

■チャイルドプルーフによる施錠

後席ドアのロックレバー位置に関係なく、車内のドアハンドルで後席ドアが開かないようにできます。お子さまなどによるドア誤開放を防止するために使用してください。

- 後席ドアにあるレバーを**LOCK**（開かない）の位置にして、ドアを閉めます。車内のドアハンドルで開けることはできません。
- 後席ドアのロックレバーが解錠側にあるときは、車外のドアハンドルでドアを開けることは可能です。



(1) LOCK（開かない）
(2) UNLOCK（開く）

■ドアロック解除機能

衝突などでSRSエアバッグが作動すると、自動的にすべてのドアロックを解除します。

アドバイス

エアバッグが作動したときでも、ドアロックモーターの配線やモーター自体が損傷した場合は、ドアロック解除機能が作動しません。

ドアの開閉

⚠警告

- **ドアを閉めるときは、シートベルトや荷物などをはさまないようにしてください。半ドア状態になって、走行中にドアが開くおそれがあります。**
- **エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入して、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**

⚠注意

- **ドアの開閉は、お子さまではなく大人が行ない、手、足、頭などをはさまないように気をつけてください。**
- **ドアを開けるときは、後ろからの車に注意してください。とくに風が強い日は注意してください。**
- **バックドアを開けるときは、完全に開けてください。開けかたが不十分な場合、思わぬときに閉まって、けがのおそれがあります。**
- **エンジンがかかっているときは、排気管の真後ろでバックドアを開閉しないでください。やけどなどのおそれがあります。**

アドバイス

セキュリティアラームのセット状態およびドアの開けかたによっては、警報が作動する場合があります。

→セキュリティアラーム P.**2-14**

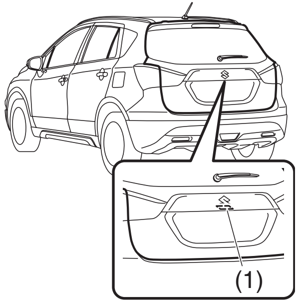
■ 前席／後席ドア

解錠後、ドアハンドルを引いてドアを開けます。

→ドアの施錠・解錠 P.**2-6**

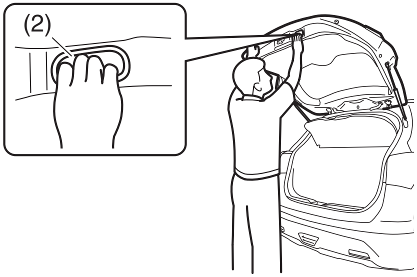
■ バックドア

- バックドアを開けるときは、解錠後、バックドアオープナースイッチを押しながらドアを持ち上げます。



(1) バックドアオープナースイッチ

- バックドアを閉めるときはドア下面右側の手かけ部を持って引き下げます。最後はドアを外側から手で、少し勢いをつけて押し付けます。



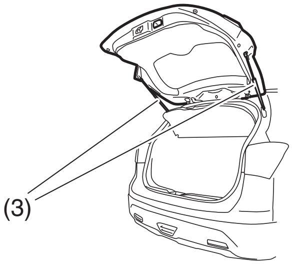
(2) 手かけ部

- バックドアオープナースイッチを押したあと、バックドアを少し開けてすぐに閉めた場合、完全に閉まらず半ドア状態になります。もう一度ドアを開け、しばらくしてから閉め直してください。

⚠注意

バックドアをささえているダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。ステーが円滑に動かなくなったり、バックドアを開けたときに、保持できなくなったりするおそれがあります。

- **ステーのロッド部（ドア開閉時に摺動する棒部分）に傷をつけたり、泥やビニール片、テープなどの異物を付着させたりしないでください。**
- **ステーに手をかけたり、ものをかけたりしないでください。**



(3) ダンパーステー

⚠

セキュリティアラーム（警報装置）

セキュリティアラームは、ドアを携帯リモコンまたはリクエストスイッチで施錠すると、約20秒後にセットされます。

セット状態にて、携帯リモコンまたはリクエストスイッチ以外のもの（※）で解錠し、いずれかのドアを開けると、警報が作動して周囲に異常を知らせます。

※エマージェンシーキーやロックレバー、パワードアロックスイッチを含む

- 工場出荷時は、警報ありの **D モード**になっています。任意で警報なしの**Aモード**に切り替えてください。
→モード設定の切替えのしかた P.**2-17**
- 警報を誤作動させたときは
→警報の停止のしかた P.**2-16**

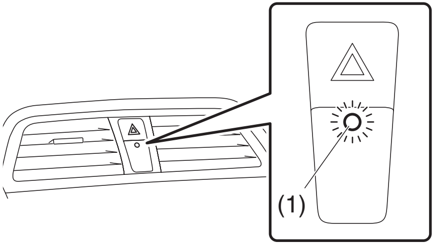
アドバイス

- セキュリティアラームは、一定の条件下で警報を発する機能です。室内への侵入を防ぐ機能はありません。
- アラームのセット中は、ドアを必ず携帯リモコンまたはリクエストスイッチで解錠してください。エマージェンシーキーで解錠してドアを開けると、警報が作動します。
- 車を貸すときや、セキュリティアラームを知らない方が運転するときは、作動についてよく説明するか、アラームを警報なしの**Aモード**に切り替えてください。誤って警報を作動させると、周囲への迷惑になります。
- アラームをセットしていても、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

セキュリティアラームのセットのしかた（警報ありのDモード）

ドアを携帯リモコンまたはリクエストスイッチで施錠してください。セキュリティアラームインジケーターが小刻みに点滅し、約20秒後にアラームがセットされます。

セット中は、セキュリティアラームインジケーターが2秒間隔で点滅します。



(1) セキュリティアラームインジケーター

アドバイス

- 警報の思わぬ作動を防ぐため、車内に人が残っているときはアラームをセットしないでください。車内の人がロックレバーやパワードアロックスイッチで解錠し、ドアを開けた場合にも警報が作動します。
- すべてのドアをエマージェンシーキーまたはロックレバー、パワードアロックスイッチで施錠すると、アラームがセットされません。
- タイマーロック機能が作動すると、アラームが自動的にセットされます。（警報なしの**Aモード**時を除く）
→タイマーロック機能 P.**2-10**

■セキュリティアラームインジケーター

次のように点滅します。

- セキュリティアラームをセットしたとき、約20秒間小刻みに点滅します。セット中は、2秒間隔で点滅します。
- 警報が作動したあと、エンジンスイッチを“ON”にすると、約8秒間小刻みに点滅します。
- 車体の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが“ON”のときに約15秒間、1秒間隔で点滅します。スズキサービス工場で点検を受けてください。

セキュリティアラームの解除のしかた

ドアを携帯リモコンまたはリクエストスイッチで解錠してください。アラームが解除され、セキュリティアラームインジケーターが消灯します。

駐車時に警報が作動した場合

盗難などにより警報が作動した場合、エンジンスイッチを“ON”にすると、セキュリティアラームインジケーターが約8秒間小刻みに点滅し、室内ブザーが4回鳴ります。盗難にあっていないか車の中を確認してください。

警報の停止のしかた

警報を誤作動させたときは、次のいずれかの操作を行なってください。警報を途中で停止できます。

- ドアを携帯リモコンまたはリクエストスイッチで解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

アドバイス

- 警報を停止した場合でも、ドアを携帯リモコンまたはリクエストスイッチで施錠すると、約20秒後にアラームが再びセット状態となります。
- アラームセット状態または警報作動状態で鉛バッテリー端子を外すと、警報が停止します。ただし、再度バッテリー端子を接続すると、警報が作動します。
- 警報が終了しても、アラームの解除をせずにいずれかのドアを開けると、再び警報が作動します。

セキュリティアラームモード

警報なしの**Aモード**と警報ありの**Dモード**の、2つのモードがあります。警報の作動は次のようになります。

■Aモード

警報は作動しません。

■Dモード（工場出荷時）

非常点滅表示灯が約40秒間点滅するとともに、室内ブザーが約10秒間断続的に鳴ります。室内ブザーが鳴り終えると、ホーンが約30秒間断続的に鳴ります。作動中は、セキュリティアラームインジケーターも点滅します。

モード設定の切替えのしかた

アドバイス

インフォメーションディスプレイのセッティングモードでも、モード設定を切り替えることができます。→P.**2-70**

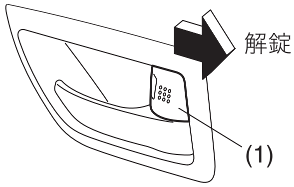
セキュリティアラームが解除されている状態で、次の手順で切り替えてください。

1. 運転席にすわり、すべてのドアが閉まっているか確認します。

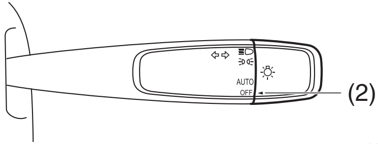
≫いずれかのドアが開いていると、半ドア警告灯が点灯します。
→半ドア警告灯 P.**1-18**

2. エンジンスイッチを“ON”にします。

3. 運転席ドアのロックレバーを解錠側（車の後ろ方向）にします。ライトスイッチをOFFの位置にします。



71L30190

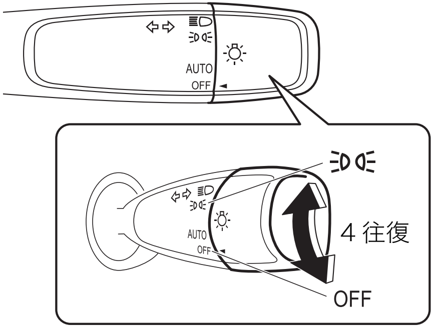


61M0178

(1) ロックレバー
(2) ライトスイッチOFF位置

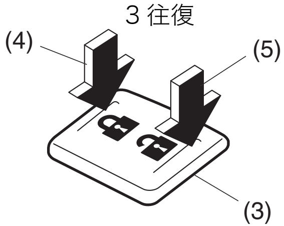
※次の4.から5.までの一連の手順は、15秒以内に完了してください。

4. ライトスイッチを ⊐D◁E の位置にまわし、OFFの位置にもどします。この操作を4往復行ないます。



61M0348

5. 運転席ドアにあるパワードアロックスイッチの施錠側を押し、解錠側を押します。この操作を3往復行ないます。



61M0294

(3) パワードアロックスイッチ
(4) 施錠
(5) 解錠

前記の手順を行なうと、モード設定が切り替わります。

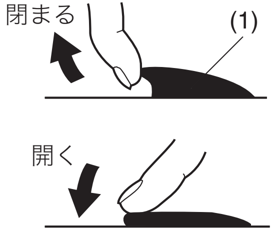
- 切り替えた設定状態は、次表の設定確認ブザーの回数で確認できます。

モード設定状態	設定確認ブザー
Aモード（警報なし）	1回
Dモード（警報あり）	4回

- 4.から5.までの操作が正しく行なわれなかったり、15 秒以内にできなかったりしたときは、モード設定が切り替わらず、設定確認ブザーが鳴りません。はじめからやり直してください。

パワーウインドー

エンジンスイッチが“ON”のときに、パワーウインドースイッチを操作すると、ウインドーの開閉ができます。



80J1268

(1) パワーウインドースイッチ

⚠警告

- **パワーウインドーは強い力で開閉します。閉めるときは手や首をはさまないようにご注意してください。**
- **窓から手を入れてパワーウインドースイッチを操作しないでください。**
  手や首をはさむおそれがあります。

⚠注意

ウインドーガラスを開閉するときは、ガラスに触れないでください。巻き込まれるおそれがあります。

注記

鉛バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときにウインドーを開閉してください。

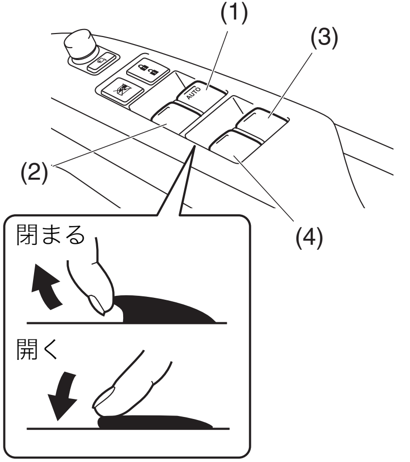
アドバイス

走行中に後席ウインドーだけを開けていると、耳を圧迫するような音が発生する場合があります。これは開いているウインドー周辺の気圧変動にともなう現象で、異常ではありません。空のビンなどの口に、横から息を吹きかけたときに音が鳴る現象と同じです。
後席ウインドーを開けたままでこの音を軽減したい場合は、次のような方法があります。

- 前席ウインドーも開ける。
- 後席ウインドーの開き具合を変える。例えばウインドーが全開なら半開にする。

運転席での操作

各席のウインドーが開閉できます。



(1) 運転席ウインドースイッチ
（オート機構付）
(2) 助手席ウインドースイッチ
(3) 右後席ウインドースイッチ
(4) 左後席ウインドースイッチ

- 運転席ウインドースイッチはオート機構付です。
  - ≫軽く操作すると、操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
  - ≫強く操作すると、スイッチから手を離しても自動で全開または全閉します。途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。
- 助手席／後席ウインドースイッチは、操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。

■運転席ウインドーのはさみ込み防止機構

運転席ウインドーには安全装置として、はさみ込み防止機構があります。

- オート機構を作動させて自動で閉めているときに、異物をはさみ込むなどしてウインドーに一定以上の負荷がかかると、ウインドーの動く方向が反転し、少し開いて停止します。（過負荷検知方式）

⚠警告

はさまれる異物の形状や硬さ、はさまれかたによっては過負荷検知されず、はさみ込み防止機構が作動しない場合があります。重大な傷害を受けるおそれがありますので、十分に注意して開閉操作を行なってください。

⚠注意

はさみ込み防止機構は、スイッチを引き上げ続けた状態では作動しません。

また、閉まりきる直前は、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように気をつけてください。

アドバイス

- ウインドーの故障で、はさみ込み防止機構が作動し、自動で閉めることができない場合があります。この場合、運転席ウインドースイッチを引き上げ続けると、完全に閉めることができます。
- 悪路などを走行中にウインドーを自動で閉めると、衝撃や荷重がウインドーに加わって、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
- 助手席／後席ウインドーにはさみ込み防止機構はありません。

■ はさみ込み防止機構の初期設定

次のような場合は、運転席ウインドーが自動で開かなくなるとともに自動で閉めたときに、はさみ込み防止機構が作動しなくなってしまいます。

- 鉛バッテリーが完全に上がったり、交換のためにバッテリー端子を外したりして、パワーウインドーシステムへの電源供給を一度絶ってしまったとき
  →鉛バッテリーを交換するときは P.**6-14**
- ヒューズが切れたり、点検・交換のために抜き差しを行なったりしたとき
  →ヒューズが切れたときは P.**6-16**

このような場合は、はさみ込み防止機構の初期設定が必要です。

警告

はさみ込み防止機構は、必ず初期設定してください。初期設定が完了するまでは、はさみ込み防止機構が作動しません。

アドバイス

運転席ウインドーが自動で開くことも閉めることもできなくなった場合も、初期設定を行なってください。

はさみ込み防止機構の初期設定は、次の手順で行ないます。

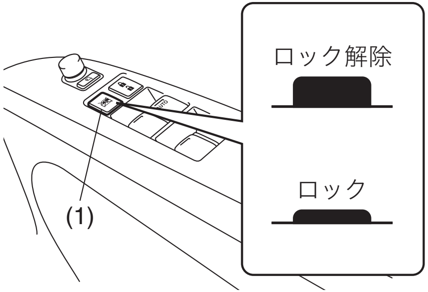
1. エンジンスイッチを“ON”の位置にします。
2. 運転席ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。
3. 運転席ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。
4. そのままスイッチを 2 秒以上引き上げ続けます。
5. 運転席ウインドーが自動開閉できるようになったか確認します。

- 手順1.から4.を何度繰り返しても運転席ウインドーが自動開閉できない場合、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

■ ウインドーロックスイッチ

運転席ドアにあるウインドーロックスイッチを押し込むと、助手席／後席ウインドーの開閉ができなくなります。

- ロックを解除するときは、スイッチをもう一度押します。



(1) ウインドーロックスイッチ

警告

お子さまにはパワーウインドースイッチを操作させないでください。お子さまが誤って操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ウインドーロックスイッチを“ロック”位置にしてください。

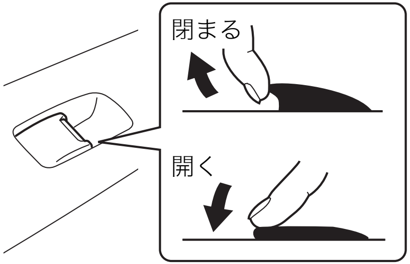
アドバイス

ウインドーロックスイッチが“ロック”位置のときでも、運転席ウインドーは開閉できます。

助手席、後席での操作

自席のウインドーだけ開閉できます。

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉します。スイッチから手を離すと、ウインドーはその位置で止まります。
- お子さまを乗せているときは、運転席ドアのウインドーロックスイッチを“ロック”位置にしてください。
  →ウインドーロックスイッチ P.**2-21**



61M0008

アドバイス

ウインドーロックスイッチが“ロック”位置のときは、助手席／後席ウインドーの開閉ができません。

ルームミラー

ルームミラーの角度調節

ミラー全体を動かして角度を調節します。

⚠警告

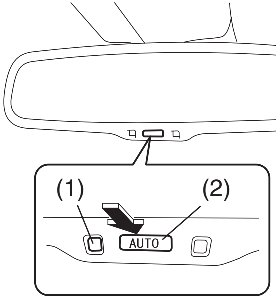
必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

自動防眩機能

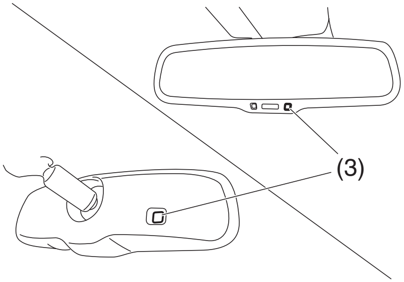
エンジンスイッチが“ON”のときに使用でき、後続車のライトの反射を自動的に減少させます。

- 自動防眩機能は常に作動し、インジケーターが緑色に点灯します。
- 自動防眩機能を停止したいときは、AUTOスイッチを押してください。インジケーターが消灯します。
  もう一度押すと、再び自動防眩機能が作動するようになり、インジケーターが緑色に点灯します。

- セレクトレバーを“R”に入れているときは、インジケーターが緑色に点灯していても、自動防眩機能が作動しません



57L30019



61M0295

(1) インジケーター
(2) AUTOスイッチ
(3) センサー

- ミラーの角度によってはセンサーが後続車のライトを正しく認識できず、正常に作動しない場合があります。
- 車外とセンサーの間に、ステッカーやシェードを貼ったり、アクセサリーや荷物を置いたりしないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。

注記

ミラーに力をかけないでください。重いものを取り付けたり、手のささえにしたりすると、ミラーやフロントガラスが破損するおそれがあります。

ドアミラー

注意

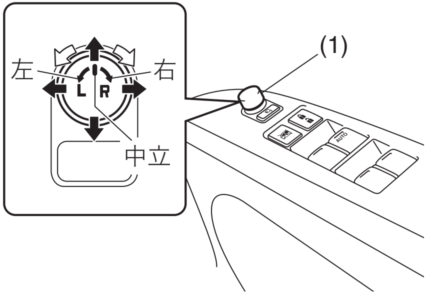
ドアミラーは車体より張り出しています。ドアミラーを車外の人やものに当てないように気をつけてください。

ドアミラーの角度調節

■ドアミラー角度調節スイッチ

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに使用できます。

1. ドアミラー角度調節スイッチを、調節したいミラーの側へまわします。
2. スイッチを操作して、上下左右にミラーを動かします。



61M0216

(1) ドアミラー角度調節スイッチ

警告

必ず走行前に調節してください。走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

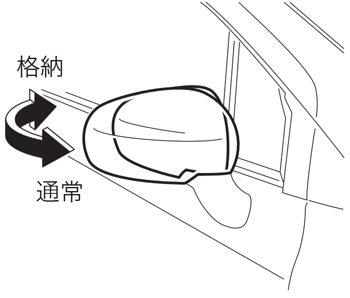
アドバイス

調節後は、ドアミラー角度調節スイッチをまわして、中立の位置へもどしてください。

ドアミラーの格納

狭い場所で駐車するときなどに、ドアミラーを車の後ろ方向に格納できます。

- ドアミラーを手で動かすときは、先にエンジンスイッチを“OFF”にしてください。
- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときは、ドアミラー格納スイッチが使用できます。→P.**2-24**



61M0217

注意

ドアミラーを倒したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。

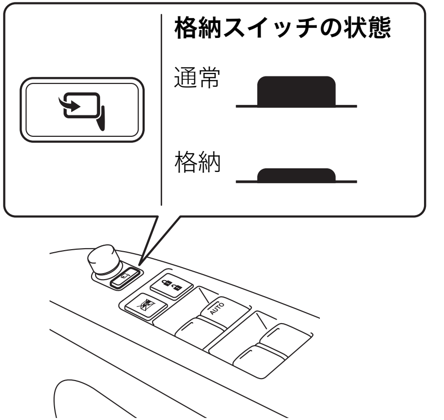
注記

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”の位置にあるときは、手でドアミラーを動かさないでください。故障の原因となります。

■ドアミラー格納スイッチ

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに使用できます。

- 格納スイッチを押すごとに、格納と通常の位置に切り替わります。



61M0296

- 格納スイッチが通常の位置で、ドアミラーが車の前方向に倒れていると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときに、ドアミラーがさらに車の前方向に倒れてしまいます。ドアミラーをもとの状態にもどすときは、一度格納操作をしてください。

注意

- **ドアミラーを動かすときは、次のことに注意してください。けがをしたり、ミラーが破損したりする原因となります。**
  - **≫ドアミラーの周囲に人やものがないか確認する**
  - **≫動いているドアミラーに触れない**
- **格納スイッチでドアミラーを格納したときは、手でドアミラーを通常の位置にもどさないでください。ドアミラーの固定が不完全になるため、走行中の振動や走行風などでドアミラーが動くおそれがあります。**
  その場合は、スイッチを通常の位置に押して、確実にドアミラーを固定してください。

注記

ドアミラーが凍結しているときは、手で動かすことが可能かを確認してから、格納スイッチの操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。
→各部が凍結しているときは P.**5-12**

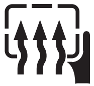
アドバイス

ドアミラーを手で動かすと、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときに、ドアミラーが動き出すことがあります。

ドアミラーヒーター（タイプ別装備）

ドアミラーヒーターは、リヤデフォッガーと連動します。
→リヤデフォッガースイッチ P.**2-92**

- ドアミラーヒーター装備車は、運転席側のミラー鏡面に下図のマークがついています。



60M0003

ハンドル

ハンドルの前後・高さ調節

→ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に P.3-25

ハンドルの調節は、次の手順で行ないます。

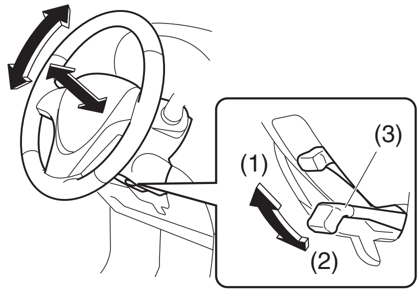
1. ハンドルの固定を解除します。

≫片手でハンドルをささえながら、ハンドル位置固定レバーを押し下げます。

2. ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置に調節します。

3. 調節後は、ハンドルを固定します。

≫その位置でハンドルを押さえたまま、レバーをもとの位置まで確実にもどします。



(1) 固定
(2) 固定解除
(3) ハンドル位置固定レバー

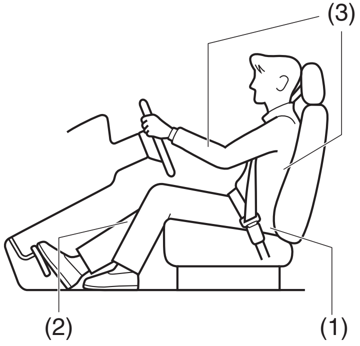
⚠注意

調節後はハンドルを前後・上下にゆすって、確実に固定されているか確認してください。

前席シート

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。



(1) 背もたれと腰の間にすきまのないようにシートに深くすわります。

(2) ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。

(3) 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。

⚠警告

背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

→ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に P.**3-25**

シートの調節

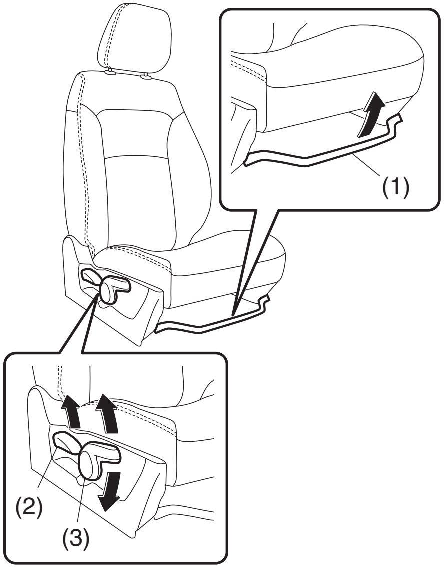
⚠警告

- **シートの下にものを置かないでください。ものがはさまって、シートが固定されないおそれがあります。**
- **背もたれを必要以上に倒さないでください。シートベルトやSRSエアバッグシステムが本来の効果を発揮できません。**

⚠注意

- **シートを調節するときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。**
- **シートを調節したあとは、シートを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。**

下図のレバーを操作して調節します。



(1) スライドレバー
(2) リクライニングレバー
(3) シートリフターレバー（運転席のみ）

■ スライドレバー
シートの前後位置が調節できます。
- レバーを引き上げたまま、シートを前後に動かします。

■ リクライニングレバー
背もたれの角度が調節できます。
- 後方に倒すときは、レバーを引き上げたまま、背中で軽く押します。
- 前方に起こすときは、背中を少し浮かせて、レバーを引き上げます。

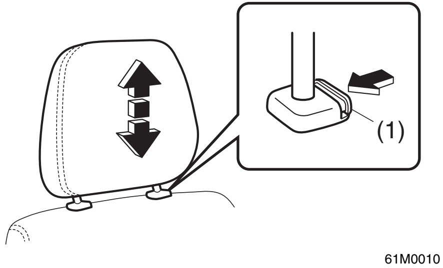
⚠注意

背もたれから離れてレバーを操作すると、背もたれが急に起き上がって前方に倒れることがあります。手などを添えて操作してください。

■ シートリフターレバー(運転席のみ)
シートの高さが調節できます。
- レバーを繰り返し引き上げると、シート全体が高くなるとともに、前方に動きます。
- レバーを繰り返し押し下げると、シート全体が低くなるとともに、後方に動きます。

ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け

■ 高さの調節
走行前に、ヘッドレスト中央の高さが耳の位置になるように調節し、しっかりと固定します。背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置に調節してください。
- 高くするときは、ヘッドレストを手で持ち上げます。
- 低くするときは、ロックボタンを押したままヘッドレストを押し下げます。



(1) ロックボタン

■ 取り外しかた
ロックボタンを押したまま引き抜きます。
- ヘッドレストが天井に当たる場合は、シート背もたれを倒すと取り外しやすくなります。

⚠警告

ヘッドレストを外したまま、走行しないでください。

■ 取り付けかた
ヘッドレストの前後の向きを間違えないように、固定される位置まで差し込み、高さの調節をします。

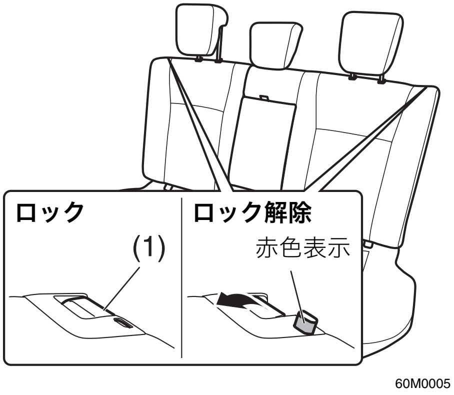
⚠警告

ヘッドレストは、しっかり固定してください。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けないでください。ヘッドレストが本来の効果を発揮できません。
ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

後席シート

シートの調節

下図のレバーを操作して調節します。



（1）ロックレバー

■ロックレバー

背もたれの角度が2段階に調節できます。

- 背もたれ肩部のロックレバーを引き上げると、ロックが解除され、レバーの横に赤色表示が出ます。
  ≫後方へ倒すときは、レバーから手を離し、背もたれを押して固定します。
  ≫前方へ起こすときは、レバーを引き上げたまま一度背もたれを手前に引き、レバーから手を離してから背もたれを押し戻して固定します。
- 調節後は、背もたれが固定され、レバーの横に赤色表示が出ていないことを確認します。

注意

調節後は、ロックレバーの横に赤色表示が出ていないことを確認してください。また、背もたれを前後にゆするなどして、確実に固定されているか確認してください。背もたれの固定が不確実な場合、走行中に突然背もたれが前に倒れ、けがのおそれがあります。

アドバイス

背もたれを前に倒すと、荷室が広く使えます。

→背もたれの倒しかた P.**2-30**

ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け

操作方法は、前席シートと同様です。

→ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け P.**2-28**

- 使用時は、一番高い位置にします。
- 使用しないときは、後方の視界を確保するため、一番低い位置にします。

警告

ヘッドレストを取り外したまま、後席に人を乗せないでください。（お子さま用シート固定時を除く）

注意

お子さま用シートの固定などで取り外したヘッドレストは、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員やものなどに当たって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

背もたれの倒しかた

背もたれを前に倒すと、荷室が広く使えます。

⚠警告

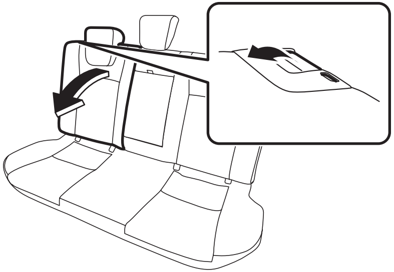
座席以外の部分に人を乗せないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどに、投げ出されて重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

背もたれを動かすときは、手足をはさんだり、身体に当てたりしないように気をつけてください。

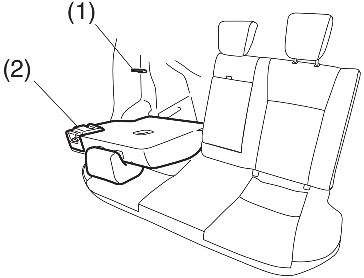
■倒しかた

1. ヘッドレストは一番低い位置に調節します。
2. 後席中央のシートベルトを収納します。
   →収納のしかた P.**2-39**
3. 背もたれ肩部のロックレバーを引き上げたまま、背もたれを前に倒します。



61MM0A057

⚠注意



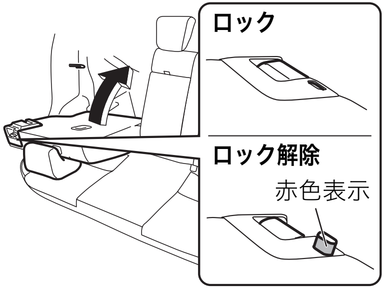
61M0011

(1) 背もたれ固定用フック
(2) ロック部品

- **背もたれ裏のロック部品に指などを入れないでください。けがのおそれがあります。**
- **荷物の固定などに、背もたれ裏のロック部品や背もたれ固定用フックを使用しないでください。また、ロック部品やフックに砂などの異物を付着させないでください。ロック部品が損傷したりフックが曲がったりして、背もたれが固定できなくなるおそれがあります。**

次のページに続く→

- **背もたれのロックが解除されたままの状態で、後席に人を乗せないでください。ロックレバーは一度操作すると、レバーの横に赤色表示が出て、ロックが解除されたままとなります。背もたれを一度前に倒し再び起こすなどして、背もたれが確実に固定されているか確認してください。**



61M0012

アドバイス

背もたれを倒すときに、ヘッドレストが前席に当たる場合は、前席の前後位置や背もたれの角度を調節してください。

■起こしかた

背もたれを起こし、固定される位置まで背もたれを車の後ろ方向へ押し付けます。

注意

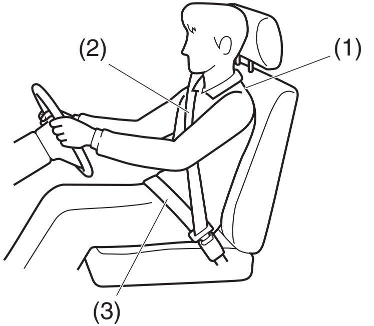
背もたれを起こしたあとは、次のことを確認してください。背もたれの固定が不確実な場合、走行中に突然背もたれが前に倒れ、けがのおそれがあります。

- **ロックレバーの横に赤色の表示が出ていないことを確認してください。赤色の表示が出ている場合は、背もたれが固定されていません。**
- **背もたれを前後にゆすって確実に固定されているか確認してください。**

シートベルトについて

正しい姿勢でシートにすわり、正しくシートベルトを着用しないと、シートベルトが本来の効果を発揮できません。乗車中は常にシートベルトを正しく着用するとともに、同乗者がいる場合は、安全のため全員着用しましょう。

シートベルトは正しく着用



61M0329

(1) シートを正しい位置に調節し、上体を起こして奥深くすわります。

(2) 肩ベルトはねじれやたるみがないように、首と肩先の中央にかけます。

(3) 腰ベルトはねじれやたるみがないように、腰のできるだけ低い位置にかけます。

→正しい運転姿勢 P.**2-26**

⚠警告

- 走行前にシートベルトを正しく着用してください。走行中に着用したり調節したりすると、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- シートベルトにねじれやたるみがあると、衝撃を受けたときに局部的に圧迫されるおそれがあります。
- 腰ベルトが腹部にかかっていると、衝撃を受けたときに強く圧迫されるおそれがあります。
- 肩ベルトが肩にしっかりとかかっていないと、衝撃を受けたときに前に投げ出されるおそれがあります。
- アームレストにシートベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトは、アームレストの下を通してください。

61M0013

- 背もたれを必要以上に倒さないでください。また、洗たくばさみやクリップなどでシートベルトをたるませないでください。シートベルトが本来の効果を発揮できません。
- 助手席や後席の同乗者全員にシートベルトを着用させてください。

81M20040

⚠

お子さまもシートベルトを着用

⚠警告

- **ひざの上にお子さまを抱かないでください。しっかり抱いていても、衝突のときなどに十分にささえることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

61M0014

- **必ずシートベルトを着用させてください。**
- **一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。**
- **お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。シートベルトを身体に巻きつけるなどして遊んでいるときに、窒息など重大な傷害を受けるおそれがあります。万一の場合は、ハサミでシートベルトを切断してください。**

61M0015

- **シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。シートベルトを正しく使用しないと、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

61M0016

- **首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまには、ベビーシートをご使用のうえ、後席に乗せてください。**

→お子さま用シートの選択について
P.**2-52**

⚠

妊娠中や疾患のある方は

⚠警告

- **妊娠中の方、疾患がある方もシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときに局部的に強く圧迫されるおそれがありますので、医師に相談して注意事項を確認してください。**
- **妊娠中の方は、腰ベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけます。肩ベルトは、首と肩先の中央から腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。**

80J075

シートベルト警告ブザー

運転席のシートベルト着用忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンをかけて走行を開始してから、最初に車速が約 15 km/h 以上になったときに運転者がシートベルトを着用していないと、メーター内のシートベルト警告灯が点灯から点滅に切り替わるとともに、シートベルト警告ブザーが断続的に鳴ります。
  →シートベルト警告灯 P.**1-14**

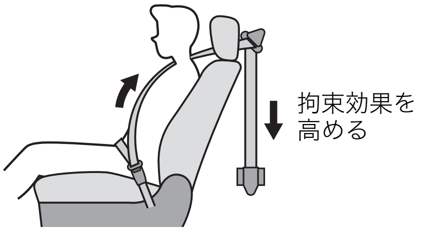
アドバイス

- 運転者がシートベルトを着用すると、警告灯は消灯します。また、警告ブザーが鳴っているときは、ブザーも止まります。
- 警告ブザーは運転者がシートベルトを着用しなくても、約 95 秒間鳴り続けたあとに止まります。ただし、警告灯は点滅から点灯に切り替わったまま、エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にするまで消灯しません。

シートベルトプリテンショナー（前席のみ）

■ シートベルトプリテンショナーとは

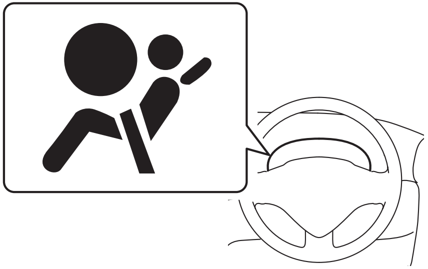
- エンジンスイッチが“ON”のときに、次のような状況になると、肩ベルトを瞬時に巻き取ります。
  ≫車の前方向から強い衝撃を受けたとき。運転席・助手席SRSエアバッグシステムと連動しています。
  →SRSエアバッグシステムの作動 P.**2-46**



80J1018

- メーター内のSRSエアバッグ警告灯は、エンジンスイッチが“ON”のときに、次のような状況になると点灯します。点灯した場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  ≫シートベルトプリテンショナーが作動したとき

≫シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があるとき
→SRSエアバッグ警告灯 P.**1-15**



81M30841

アドバイス

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

■ 正常に機能させるために

シートベルトおよび周辺部品に手を加えないでください。シートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られなくなったりすることがあります。
→部品の取り付け、取り外し、修理をするときは P.**5-17**

■ 廃棄や廃車

作動していないシートベルトプリテンショナーは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。

注意

プリテンショナーを廃棄するときや、装備車を廃車するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

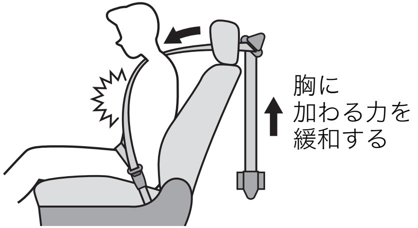
シートベルトの衝撃低減機構（前席のみ）

■ シートベルト可変フォースリミッター（運転席のみ）

車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻き取り装置内のシートベルト可変フォースリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを2段階に繰り出して、衝撃を緩和します。

■ シートベルトフォースリミッター（助手席のみ）

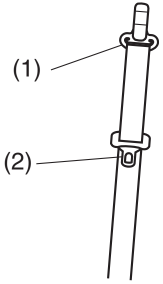
車の前方向から強い衝撃を受けると、シートベルト巻取り装置内のシートベルトフォースリミッターが作動し、乗員に一定以上の荷重がかからないように肩ベルトを繰り出して、衝撃を緩和します。



80J1039

⚠警告

強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部およびタングプレート部の樹脂が強い摩擦で溶けてシートベルトに付着し、シートベルトが滑りにくくなります。このような場合は、シートベルトが本来の機能を発揮できません。スズキサービス工場で交換してください。



(1) ショルダーアンカー部
(2) タングプレート部

シートベルトの着用のしかた

着用するときは

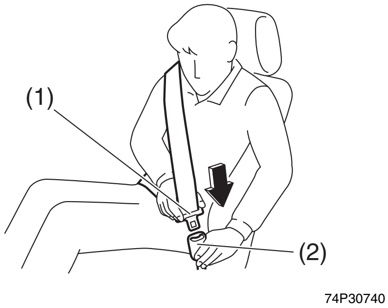
1. タングプレートとシートベルトをつかみ、ねじれないようにゆっくりと引き出します。

(1) タングプレート

アドバイス

シートベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度シートベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

2. タングプレートをバックルの差し込み口にまっすぐになるようにあわせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。
   ≫自席用のバックルへ差し込んでいることを確認します。



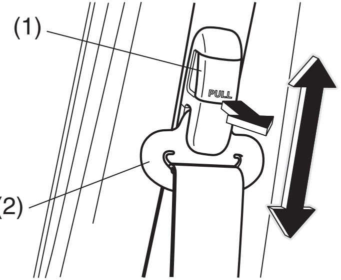
(1) タングプレート
(2) バックル

3. 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。
4. 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。
5. シートベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

肩ベルトの高さ調節（前席のみ）

身体の大きさにあわせて、シートベルトが正しく着用できるようにショルダーアンカー位置の高さ調節ができます。

- 上に調節するときは、アンカーをそのまま適切な位置まで持ち上げます。
- 下に調節するときは、ロックレバーを引いたままアンカーを下げ、適切な位置でレバーを離します。
- 調節後は、アンカーを下に引いて固定されているか確認します。

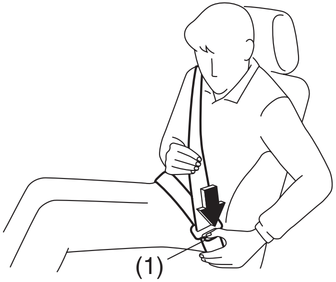


80J3021

(1) ロックレバー
(2) ショルダーアンカー

外すときは

バックルのボタンを押します。シートベルトが自動的に巻きもどされますので、シートベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。



61M0017

(1) ボタン

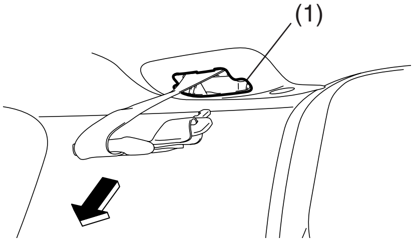
アドバイス

シートベルトがねじれていると、ベルトを外したときに巻き取られないことがあります。シートベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。

後席中央席シートベルト

■ 着用のしかた

1. シートベルトをねじれないようにゆっくりと引き出します。シートベルトは、荷室天井にあるホルダーに収納されています。



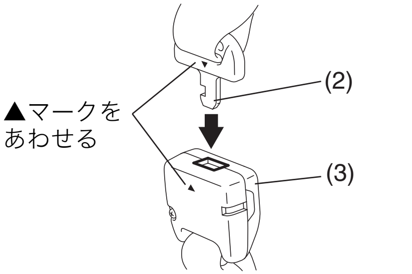
51K0106

(1) ホルダー

アドバイス

シートベルトがロックされていて引き出せないときは、いったんゆるめてから再度引き出します。それでも引き出せない場合は、一度シートベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。

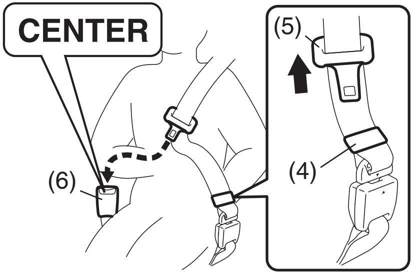
2. シートベルトがねじれていないことを確認し、シートベルト先端のプレートと中央席左側にあるバックルの▲のマークのある面をあわせ、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。



(2) シートベルト先端のプレート
(3) 中央席左側のバックル

3. バンドからタングプレートを引き出し、中央席右側にあるバックルの差し込み口にまっすぐになるようにあわせて、カチッという音がするまでしっかりと差し込みます。

≫右側後席用のバックルとの間違い防止のため、中央席右側にあるバックルには、**CENTER**の表示があります。



(4) バンド
(5) タングプレート
(6) 中央席右側のバックル

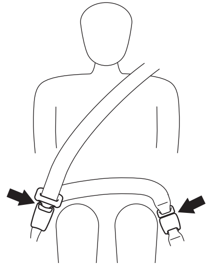
4. 腰ベルトを、腰のできるだけ低い位置にかけます。

5. 肩ベルトを、首と肩先の中央にかけます。

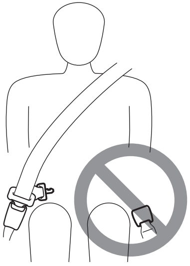
6. シートベルトがねじれていないことを確認し、たるみを取り除きます。

⚠警告

重大な傷害を避けるため、後席中央席のシートベルトは前記の手順にしたがって、左右2つのバックルを使用して正しく装着してください。

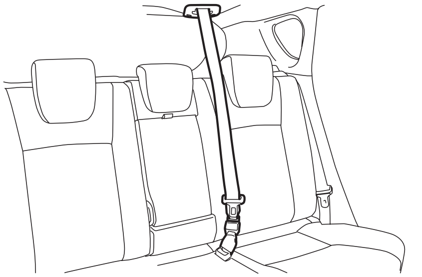


〔誤装着の例〕



■ 外すときは

右側にあるバックルのボタンを押します。シートベルトが自動的に巻きもどされますので、シートベルトやタングプレートに手を添え、ゆっくりともどしてください。下図の位置まで、シートベルトが自動的に巻きもどされます。



61MM0A059

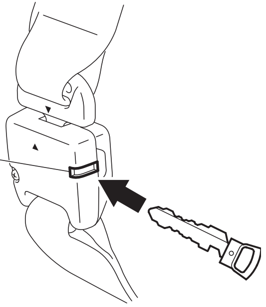
■ 収納のしかた

使用しないときは、荷室天井のホルダーに収納してください。

⚠ 注意

収納せずに後席を倒すと、シートベルトやシートが損傷するおそれがあります。

1. 左側にあるバックルの解除ボタンに、キーなどを差し込んでシートベルトを外します。
   →キー P.**2-2**



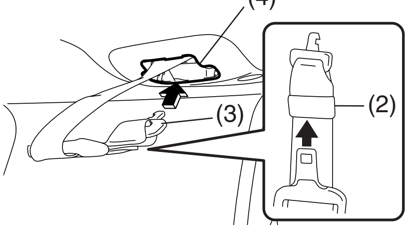
61M0182

(1) 解除ボタン

⚠ 注意

解除ボタンを押すときは、シートベルトに手を添えてください。自動的に巻き取られたプレートが身体に当たって、けがのおそれがあります。

2. タングプレートをバンドに差し込みます。シートベルト先端のプレートを、荷室天井のホルダー内下側の収納スペースに奥まで差し込みます。



51K0113

(2) バンド
(3) シートベルト先端のプレート
(4) ホルダー

3. シートベルトの残りをすべて巻き取らせて収納します。

⚠注意

シートベルトはしっかりと収納してください。収納が不十分だと、走行中の揺れなどでシートベルトが落ちて身体に当たり、けがのおそれがあります。

シートベルトの取扱いとお手入れ

取扱い

⚠警告

- **シートベルトにほつれや擦り傷、切り傷があるときは、シートベルトを交換してください。**
- **バックルが正常に動かないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **衝突などでシートベルトに強い力がかかったときは、外観に異常がなくても、機能が損なわれていることがあります。シートベルトを交換してください。**
- **バックルの内部に異物が入ったり、飲み物をこぼしたりしたときは、シートベルトが正常に機能しなくなるおそれがありますので、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。**
- **シートベルトをドアにはさまないでください。ドアを閉める前に、シートベルトをはさみ込まないか確認してください。**
- **シートベルトを改造したり、取り外したりしないでください。**

お手入れ

お手入れの方法は、布地などと同様です。
→布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ P.**5-6**

⚠警告

漂白剤、溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下の原因となり、シートベルトが正常に機能を発揮しないおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRS エアバッグシステムの効果を発揮させるために、この項目をよくお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

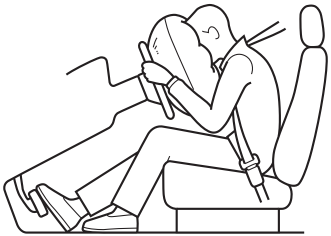
SRSエアバッグシステムとは

SRSとはSupplemental Restraint System（サプリメンタル　レストレイント　システム）の略で、補助拘束装置の意味です。

■ 運転席・助手席SRSエアバッグシステム

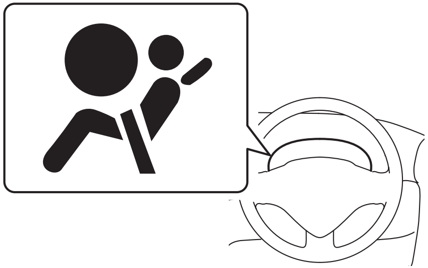
エンジンスイッチが“ON”の場合に、車の前方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していてもハンドルや助手席側インパネに顔面が当たるような強い衝突のときに、運転席・助手席SRSエアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

- 運転席・助手席SRSエアバッグシステムは、ふくらんだ SRS エアバッグがクッションの役割をして、顔面への衝撃を軽減する効果があります。



80J090

- シートベルトは必ず着用してください。
  →シートベルトの着用のしかた P.**2-36**
- メーター内の SRS エアバッグ警告灯は、エンジンスイッチが“ON”のときに、次のような状況になると点灯します。点灯した場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  ≫SRSエアバッグが作動したとき
  ≫SRSエアバッグの電子制御システムに異常があるとき
  →SRSエアバッグ警告灯 P.**1-15**



81M30841

⚠ 警告

- **SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトと併用することで、その効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。**
- **シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。シートベルトを正しく着用しないと、SRSエアバッグの効果が十分発揮できません。**

65J106

アドバイス

助手席SRSエアバッグは、助手席に乗員がいなくても、運転席SRSエアバッグと同時にふくらみます。

表示と収納場所

“SRS AIRBAG”の表示がある付近に収納されています。

警告

- **エアバッグの収納部分に傷がついていたり、ひび割れがあったりするときは、スズキサービス工場で交換してください。エアバッグが正常に作動しないおそれがあります。**
- **エアバッグの収納場所を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。エアバッグが正常に作動しなくなったり誤ってふくらんだりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。**

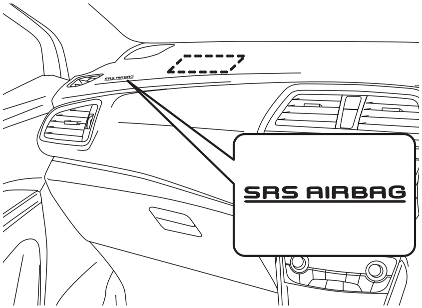
〔運転席SRSエアバッグ〕

— 代表例 —

61M0330

〔助手席SRSエアバッグ〕

— 代表例 —



61M0300

着座姿勢

瞬時にふくらむ運転席・助手席エアバッグにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転席および助手席の同乗者は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけてください。また、シートを前方に出しすぎないようにシートの位置を調節してください。

とくに助手席の同乗者は、後席の同乗者のさまたげにならない位置までシートを後方に移動し、助手席SRSエアバッグからできるだけ離れてすわってください。

→正しい運転姿勢 P.**2-26**

80J014

警告

ハンドルやインパネに、顔や胸などを近づけたり、足を置いたりしないでください。SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。

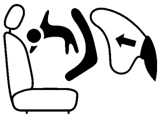
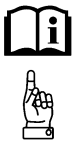
助手席SRSエアバッグに関する警告ラベル

助手席サンバイザーの両面には、次の警告ラベルが貼られています。このラベルは、助手席 SRS エアバッグが作動したときにお子さま用シートにあたえる影響と、お子さま用シートの取り付けに関する禁止事項を示しています。

この車の助手席にお子さま用シートを取り付ける場合は、警告ラベルの説明および参照先の項目をよくお読みになり、適切に取り付けてください。

72M00150

警告ラベルの説明

シンボルマーク	シンボルマークの意味
	助手席 SRS エアバッグ装備車の助手席に、後ろ向きのお子さま用シートを取り付けて、お子さまを乗せることを禁止
	助手席 SRS エアバッグがふくらむと、後ろ向きお子さま用シートおよびお子さまに強い衝撃が加わることを表示
	詳しくは、取扱説明書（本書）を読むことを指示 →お子さま用シートの選択について P.**2-52**

警告

助手席には、お子さま用シートが必要なお子さまを乗せないでください。後ろ向き前向きにかかわらず、お子さま用シートを適切に取り付けることができません。

61M0241

お子さま用シートの取り付け

次の内容をお読みください。

→お子さま用シートの選択について P.**2-52**

→お子さま用シートのシートベルトによる固定 P.**2-58**

→ISOFIX対応お子さま用シートの固定 P.**2-60**

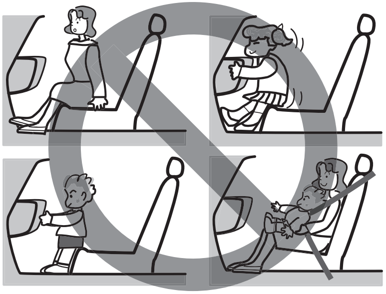
SRSエアバッグシステムの取扱い

SRSエアバッグシステムを正常に機能させるために

SRS エアバッグがふくらむ範囲にものがあると、ものが飛ばされたりSRSエアバッグが正常にふくらまなくなったりするおそれがあります。

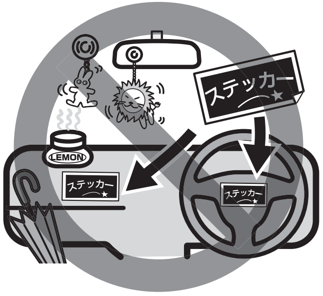
⚠警告

- **ハンドルにもたれかかるなどして、SRSエアバッグ収納部に手や顔、胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **助手席に乗車するときや、お子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。SRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
  - **≫インパネの SRS エアバッグ収納部に手足を置いたり、顔や胸などを近づけたりしないでください。**
  - **≫お子さまを SRS エアバッグ収納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわったりしないでください。お子さまは後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。**



61M0023

  - **≫シートベルトを正しく着用できないお子さまは、お子さま用シートをご使用のうえ、後席に乗せてください。**
    →お子さま用シートの取り付け P.**2-44**
- **次のようなことをしないでください。**
  - **≫ハンドルを交換・改造したり、カバーで覆ったりする**
  - **≫SRS エアバッグ収納部およびその周辺に、ステッカーを貼ったり色を塗ったりする**
  - **≫SRS エアバッグがふくらむ範囲にアクセサリーや芳香剤、ETC 車載器やポータブルカーナビなどを取り付けたり置いたり、傘などを立てかけたりする**
  - **≫フロントガラスやルームミラーにアクセサリー（スズキ純正部品を除く）などを取り付ける**



61M0022

- **サスペンションを改造しないでください。車高やサスペンションの硬さが変わると、SRSエアバッグの誤作動の原因になります。**
- **車両前部にグリルガードなどを装着するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。車両前部を改造すると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。**

- **無線機などを取り付けるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。無線機の電波などがSRSエアバッグのコンピューターに悪影響をあたえるおそれがあります。**
- **SRSエアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故後はスズキサービス工場で点検を受けてください。システム本来の機能が損なわれていると、万一のときにSRSエアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。**
- **SRSエアバッグは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときにふくらんだり、必要なときに正常に作動しなくなったりすることがあります。次のような場合は、システムに悪影響をおよぼしますので、事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。**
  - **≫ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など**
  - **≫インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理**
  - **≫オーディオ用品などの取り付け**
  - **≫ダッシュボード周辺の板金塗装および修理**
  - **≫前席の交換およびシートまわりの修理**
  - **≫センターピラーまわりの修理**

SRSエアバッグシステムの作動

作動したとき

- エアバッグは、高温のガスで瞬時にふくらみます。事故の発生状況や乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだエアバッグは、すぐにしぼむ構造になっています。

⚠警告

エアバッグが作動したあとは、エアバッグの構成部品に触れないでください。作動直後は構成部品が熱くなり、やけどのおそれがあります。

⚠注意

エアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

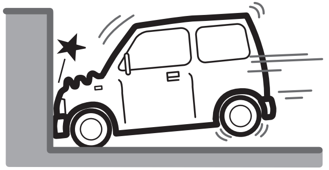
アドバイス

作動したプリテンショナーおよびエアバッグは再使用できません。スズキサービス工場で交換してください。

こんなとき作動します

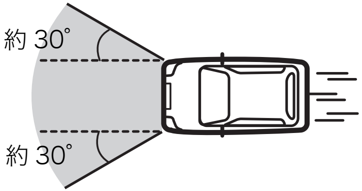
■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

- 衝突しても変形や移動をしない構造物（コンクリートの壁など）に、約25 km/h以上の速度で正面衝突したとき



80J097

- 車両の前方約 30゜以内の方向から、上図と同等の強い衝撃を受けたとき



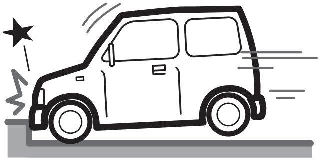
80J098

こんなとき作動することがあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

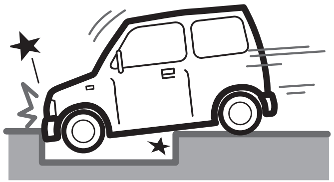
車体下部に強い衝撃を受けると、多くの場合作動します。

- 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



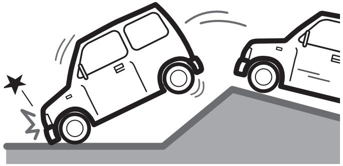
80J099

- 深い穴や溝などに落ちたとき



80J100

● ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したりしたとき



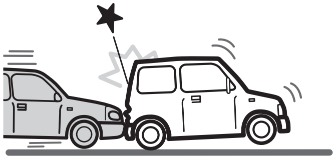
80J101

こんなとき、衝撃が強いと作動する場合もあります

■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

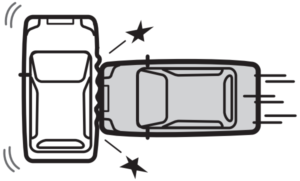
後方、横方向からの衝突、横転などでは基本的に作動しませんが、衝撃が強いとまれに作動する場合があります。

● 後方からの衝突



80J120

● 横方向からの衝突



80J119

● 横転や転覆をしたとき

80J110

こんなとき作動しないことがあります

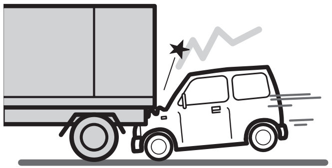
■ 運転席・助手席SRSエアバッグ

衝突の相手が移動したり、車体が大きく変形したりして衝撃が吸収されたときや、衝突の角度が前方約 30°を超えるとき、多くの場合は作動しません。

- 停車している同程度の重さの車に、50 km/h 程度、もしくはそれ以下の速度で正面から衝突したとき

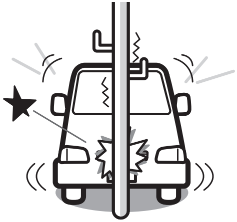
80J102

- トラックの荷台の下などへもぐり込んだとき



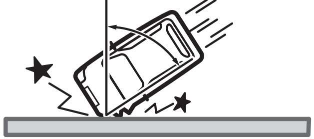
80J103

- 電柱や立木などに衝突したとき



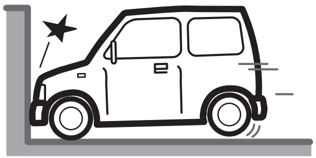
80J104

- 前方約30°を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



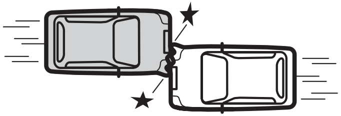
80J105

- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約 25 km/h 以下のとき



80J106

- 衝突の方向が車両の中心からずれたとき（オフセット衝突）



80J107

SRSエアバッグシステムの廃棄や廃車

作動していないエアバッグを廃棄するときは、決められた手順で作動させてから廃棄する必要があります。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

80J112

⚠注意

エアバッグを廃棄するときや、装備車を廃車するときに正しく取り扱わないと、エアバッグが思いがけないときにふくらんで、けがのおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

いつもより慎重に安全を確保し、スピードを控えめに安全運転を心がけましょう。

お子さまは後席に乗せる

51K0188

- できるだけ大人が隣にすわり、お子さまを見守ってください。
- 助手席に乗せるとお子さまの不意の動作が気になったり、お子さまがいたずらしたりして、運転のさまたげになるおそれがあります。
- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
  →お子さま用シートの選択について P.**2-52**

⚠警告

- **後席のお子さまが走行中にドアを開けないように、チャイルドプルーフをご使用ください。**
  →チャイルドプルーフ P.**2-12**
- **お子さま用シートを必要としないお子さまをやむをえず助手席に乗せるときは、次のことをお守りください。**
  ≫助手席を一番後ろに下げてください。助手席を前に出していると、助手席SRS エアバッグが作動したときの強い衝撃で重大な傷害を受けるおそれがあります。
- **お子さまがアームレストやシート下のレール部など車内の可動部に手や足などを近付けないように注意してください。はさまれてけがのおそれがあります。**

ドアやウインドーの開閉、シートの調節は大人が行なう

お子さまの手足や首をはさまないように、大人が開閉や調節を行なってください。

⚠警告

パワーウインドーは、お子さまが自分で操作しないように、ウインドーロックスイッチをご使用ください。

→ウインドーロックスイッチ P.**2-21**

61M0024

窓から顔や手を出さない

⚠警告

お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。急ブレーキで重大な傷害を受けたり、転落したりするおそれがあります。また、車外のものなどに当たって重大な傷害を受けるおそれがあります。

61M0025

車から離れるときは

⚠警告

車から離れるときは、お子さまだけを車内に残さないでください。

- **お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。**
- **炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱射病にかかるおそれがあります。エアコンをつけていても、車内にお子さまだけを残さないでください。**

61M0026

お子さまを荷室に乗せない

⚠警告

荷室は人が乗る構造になっていません。お子さまを乗せないでください。

急ブレーキなどで思わぬ事故につながるおそれがあります。

道路上での停車中も、お子さまを荷室で遊ばせないでください。

61M0027

お子さま用シートの選択について

お子さま用シートは、この項目をよく読んだうえで、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。

- 「お子さまを乗せるときは」(→P.**2-50**)もよくお読みください。
- この車は、2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具(ISOFIXアンカーおよびテザーアンカー)を装備しています。

  →ISOFIX対応お子さま用シートの固定 P.**2-60**

お子さま用シートの使用について

- お子さま用シートは、助手席で使用することができません。後席に取り付けてください。
- 助手席サンバイザーの両面には、助手席SRS エアバッグ装備車にお子さま用シートを取り付ける場合の禁止事項などを示した警告ラベルが貼られています。お子さま用シートをご使用の前に、「助手席SRSエアバッグに関する警告ラベル」(→P.**2-43**)を必ずお読みください。
- この車には、次のタイプのお子さま用シートを取り付けることができます。

  ≫シートベルトで固定するタイプのお子さま用シート →P.**2-58**

  ≫ISOFIXタイプのお子さま用シート →P.**2-60**

- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けられないものがあります。使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書をよく読み、取り付け方法や取扱いなどについてご確認ください。

- お子さま用シートには、スズキ純正品をおすすめします。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- お子さま用シートを使用していても、お子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。

⚠警告

- **助手席には、お子さま用シートが必要なお子さまを乗せないでください。後ろ向き前向きにかかわらず、お子さま用シートを適切に取り付けることができません。**

61M0241

- **走行する前に、お子さま用シートが確実に固定され、ガタつき、ゆるみなどがないことを確認してください。**
- **お子さま用シートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。お子さま用シートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **万一の事故でお子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用しないでください。いざというときに性能を十分発揮できないおそれがあります。**

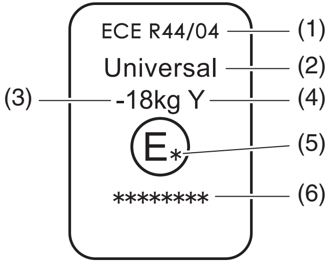
⚠注意

お子さま用シートは、使用していないときでもしっかりとシートに取り付けるか、荷室に収納してください。
シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員やものに当たるおそれがあります。

UN(ECE)R44の基準に適合するお子さま用シートの認証マークについて

UN(ECE)R44（※1）の基準に適合するお子さま用シートには、次のような認証マークが表示されています。

― 代表例 ―



51K1022

(1) 法規番号
(2) お子さま用シートのカテゴリー（※2）
(3) 対象となるお子さまの体重範囲
(4) 装置の仕様
(5) お子さま用シートを認可した国番号
(6) お子さま用シートの認可番号

※1 UN(ECE)R44 とは、お子さま用シートに関する国際法規です。
※2 上図の「**Universal**」は、汎用カテゴリーの認可であることを表します。

アドバイス

この車のスズキ純正お子さま用シートは、UN(ECE)R44の基準に適合しています。

UN(ECE)R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表の見かた

→UN(ECE)R44 の基準に 適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表 P.**2-55**

■ 質量グループについて

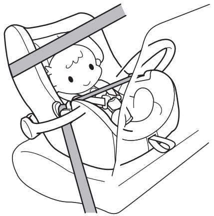
- UN(ECE)R44の基準に適合するお子さま用シートは、次の5種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループ I	9～18kg
グループ II	15～25kg
グループ III	22～36kg

- 代表的なお子さま用シートには、次のようなものがあります。

〔ベビーシート〕

後ろ向き、または横向き装着のお子さま用シートで、首がすわっていないお子さま、ひとりすわりのできないお子さまに使用します。UN(ECE)R44 基準のグループ **0**、**0+**に相当します。



64L30810

〔チャイルドシート〕

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。UN(ECE)R44 基準のグループ **I** に相当します。

64L30820

〔ジュニアシート〕

前向き装着のお子さま用シートで、シートベルトが首やあごにかかるときや、腰骨にかからないようなお子さまに使用します。UN(ECE)R44基準のグループ **II**、**III**に相当します。

64L30830

■ISOFIX タイプのお子さま用シートの、サイズ等級について

サイズ等級は、お子さま用シートに表示される分類記号です。次の一覧表をご覧ください。

サイズ等級		説明
A	ISO/F3	全高前向き幼児用 チャイルドシート
B	ISO/F2	低型前向き幼児用 チャイルドシート
B1	ISO/F2X	低型前向き幼児用 チャイルドシート （ISO/F2とは別形状）
C	ISO/R3	大型後ろ向き幼児用 チャイルドシート
D	ISO/R2	小型後ろ向き幼児用 チャイルドシート
E	ISO/R1	後ろ向き乳児用 チャイルドシート
F	ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）
G	ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット※）

※キャリコットとは、お子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることができるベビーシートの一つです。
詳しくは、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。

UN(ECE)R44の基準に適合するお子さま用シートの、座席位置別適合性一覧表

アドバイス

- 表に記載されていないお子さま用シートを使用する場合は、お子さま用シートの製造元または販売店にご相談ください。
- 取り付けるときは、お子さま用シートに付属の取扱説明書をあわせてお読みください。

■ シートベルトによる固定

質量グループ	着席位置		
	助手席	後席外側	後席中央
グループ0（10kgまで）	X	U	X
グループ0+（13kgまで）	X	U	X
グループⅠ（9〜18kg）	X	U	X
グループⅡ（15〜25kg）	X	UF	X
グループⅢ（22〜36kg）	X	UF	X

〔上表に記入する文字の説明〕

U　：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのお子さま用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きお子さま用シートに適しています。

X　：お子さま用シートの取り付けには適していません。

- シートベルトを使用してお子さま用シートを取り付けるときは、「お子さま用シートの シートベルトによる固定」（→P.**2-58**）をお読みください。
- ISOFIX タイプのお子さま用シートの種類によっては、上表の質量グループでの使用に適していても、取り付けができない場合があります。詳しくは、次の「ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定」をお読みください。

■ISOFIX対応チャイルドシート固定専用金具による固定

質量グループ	サイズ等級		チャイルドシート固定専用金具の位置		
			助手席	後席外側	後席中央
キャリコット	F	ISO/L1	N.A.	X	N.A.
	G	ISO/L2	N.A.	X	N.A.
グループ0（10kgまで）	E	ISO/R1	N.A.	IL	N.A.
グループ0+（13kgまで）	E	ISO/R1	N.A.	IL	N.A.
	D	ISO/R2	N.A.	IL	N.A.
	C	ISO/R3	N.A.	IL	N.A.
グループⅠ（9〜18kg）	D	ISO/R2	N.A.	IL	N.A.
	C	ISO/R3	N.A.	IL	N.A.
	B	ISO/F2	N.A.	IUF	N.A.
	B1	ISO/F2X	N.A.	IUF	N.A.
	A	ISO/F3	N.A.	IUF	N.A.
グループⅡ（15〜25kg）			N.A.	X	N.A.
グループⅢ（22〜36kg）			N.A.	X	N.A.

〔上表に記入する文字の説明〕

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX対応前向きお子さま用シートに適しています。

IL　：この質量グループでの使用を許可された準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの「スズキ純正ベビーシート」に適しています。

X　：ISOFIX 対応お子さま用シートの取り付けには適していません。固定専用金具を使わずにシートベルトを使用して固定してください。「お子さま用シートの シートベルトによる固定」(→P.**2-58**)をお読みください。

N.A.：この位置にはチャイルドシート固定専用金具が装備されていないため、ISOFIX　タイプのお子さま用シートを取り付けることはできません。

- チャイルドシート固定専用金具を使用してお子さま用シートを取り付けるときは、「ISOFIX 対応お子さま用シートの固定」（→ P.**2-60**）をお読みください。

お子さま用シートのシートベルトによる固定

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
  →お子さま用シートの選択について P.**2-52**
- ISOFIXタイプのお子さま用シート（別売り）を取り付けるときは、「ISOFIX対応お子さま用シートの固定」（→ P.**2-60**）をお読みください。

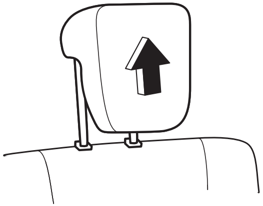
⚠警告

助手席には、お子さま用シートが必要なお子さまを乗せないでください。後ろ向き前向きにかかわらず、お子さま用シートを適切に取り付けることができません。

61M0241

固定のしかた

1. ヘッドレストは、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。
   →ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け P.**2-29**



61M0029

⚠警告

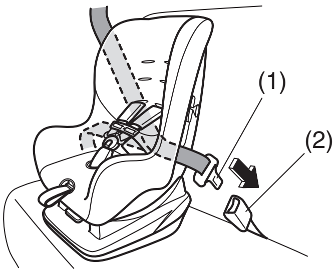
ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ヘッドレストを取り外した場合は、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員やものなどに当たって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

2. お子さま用シートと背もたれの間にすきまができないように背もたれの角度を調節します。
3. 座席が確実に固定されているか確認します。
4. お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、シートベルトをねじれやたるみがないように所定の部位に通します。
5. カチッと音がするまで、タングプレートをバックルにしっかりと差し込みます。

— 代表例 —

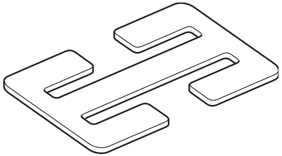


61M0030

(1) タングプレート
(2) バックル

6. お子さま用シートに付属のシートベルト固定機構またはロッキングクリップを使用してしっかりと固定します。
   ≫お子さま用シートに上記の装備が付属していない場合は、別売りのロッキングクリップを使用してください。

— 代表例 —



72M00172

⚠警告

シートベルト固定機構またはロッキングクリップでお子さま用シートを確実に固定しないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

7. お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に固定されているか確認します。

≫確実に固定できない場合は、お子さま用シートに付属の取扱説明書をご確認いただくか、お子さま用シートを購入された販売店にご相談ください。

⚠警告

お子さま用シートは、確実に固定してください。急ブレーキをかけたときや衝突時に、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX対応お子さま用シートの固定

後席には、UN(ECE)R44（→ P.**2-53**）の基準に適合したISOFIX（※1）タイプのお子さま用シート（別売り）を固定するための専用金具が装備されています。

- 座面と背もたれのすきまにある金具が、ISOFIX 対応チャイルドシート固定用アンカー（以下ISOFIXアンカーと略す）です。
- 背もたれ裏側にある金具が、チャイルドシート固定用テザーアンカー（以下テザーアンカーと略す）です。

※1 ISOFIX とは、お子さま用シートの固定装置の大きさや取り付け方法を統一した国際標準化機構【ISO（※ 2)】の規格です。

※2 ISO とは、International Organization for Standardization（インターナショナル オーガニゼイション フォー スタンダーディゼイション）の略です。

〔スズキ純正用品の場合〕

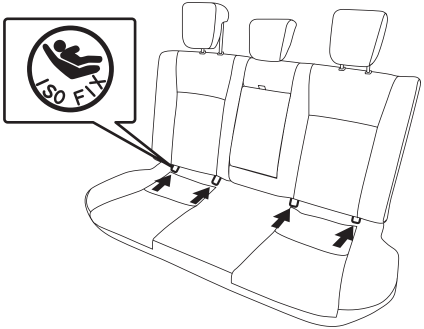
お子さま用シートのタイプ	ISOFIXアンカー	テザーアンカー
ISOFIXタイプのベビーシート（後ろ向きに固定）	使用	使用
ISOFIXタイプのチャイルドシート（前向きに固定）	使用	使用

- お子さま用シートは、お子さまの年齢や体格にあった適切なものを選んでください。
  →お子さま用シートの選択について P.**2-52**
- ISOFIX タイプのお子さま用シートは、シートベルトで固定する必要がありません。
- シートベルトで固定するお子さま用シートを取り付けるときは、「お子さま用シートの シートベルトによる固定」（→P.**2-58**）をお読みください。

固定のしかた

1. ISOFIXアンカーの位置を確認します。
≫座面と背もたれのすきまにあります。

— 代表例 —



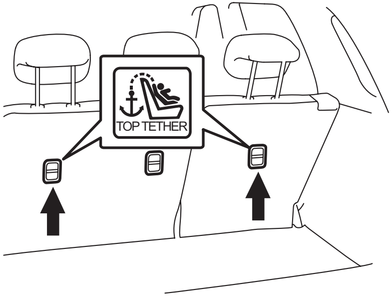
61MM0A007

アドバイス

ISOFIXアンカーがある付近には、上図のようなマークがついています。

2. テザーアンカーの位置を確認します。
≫背もたれ裏側にあります。

— 代表例 —

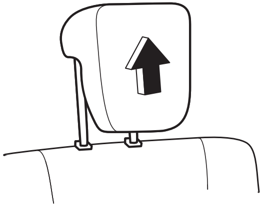


61M0031

アドバイス

中央のテザーアンカーは使用しません。

3. 後席のヘッドレストは、お子さま用シートに当たらない高さに調節するか取り外します。
→ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け P.**2-29**



61M0029

⚠警告

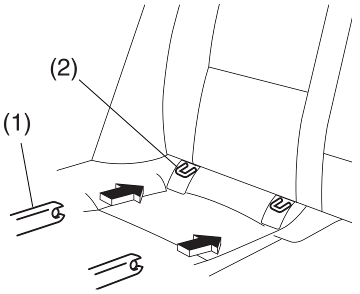
ヘッドレストを調節してもお子さま用シートに当たる場合は、ヘッドレストを取り外してください。ヘッドレストに当たった状態ではお子さま用シートが確実に固定されないため、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ヘッドレストを取り外した場合は、客室内に放置しないでください。急ブレーキをかけたときなどに乗員やものなどに当たって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

4. 背もたれを後方に倒し、確実に固定されているか確認します。
→シートの調節 P.**2-29**
5. お子さま用シートに付属の取扱説明書にしたがって、お子さま用シートのコネクターをISOFIX アンカーへ差し込みます。

― 代表例 ―

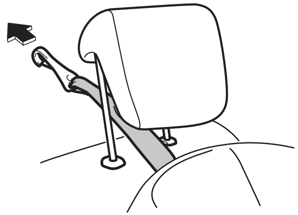


61M0032

(1) お子さま用シートのコネクター
(2) ISOFIXアンカー

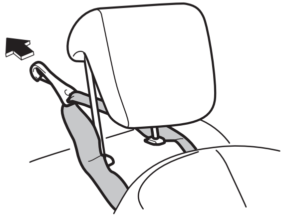
6. テザーベルトを使用する場合、次のようにしてテザーアンカーへ取り付けます。
≫ヘッドレストを取り付けているときは、図（代表例）のように持ち上げたヘッドレストと背もたれの間を通す

〔テザーベルト1本の場合〕



80J4034

〔テザーベルト2本の場合〕



80J4035

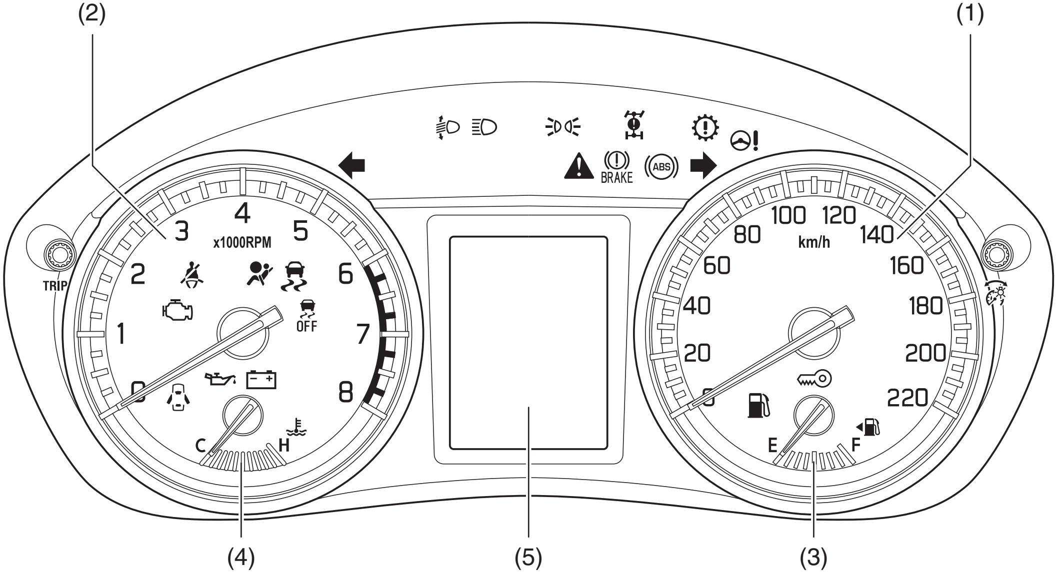
7. お子さま用シートを前後左右にゆすって、確実に取り付けられているか確認します。

⚠警告

- **お子さま用シートを取り付けるときは、ISOFIX アンカーやテザーアンカー周辺に異物やシートベルトなどがないか確認してください。シートベルトなどがかみ込むと、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**
- **荷物の固定などに、ISOFIX アンカーやテザーアンカーを使用しないでください。アンカーが曲がったり損傷したりすると、お子さま用シートが正しく固定されず、衝突のときなどにお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。**

メーターの見かた

イラストは代表例です。お車のタイプにより、このイラストと異なることがあります。



61M0356

(1) スピードメーター（速度計）
(2) タコメーター（エンジン回転計）
(3) 燃料計
(4) 水温計
(5) インフォメーションディスプレイ

スピードメーター（速度計）

走行速度がkm/hで示されます。

タコメーター（エンジン回転計）

1分間あたりのエンジン回転速度（回転数）が示されます。

注記

- **エンジン保護のため、指針がレッドゾーン（※）に入らないように運転してください。**
  ※エンジンの許容回転を超えていることを示す赤色表示範囲
- **シフトダウンすると、エンジン回転が上がります。とくに注意してください。**

燃料計

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量の目安が示されます。

- 燃料残量警告灯が点灯したときは、すみやかに給油してください。
  →燃料残量警告灯 P.**1-15**

アドバイス

- 給油後は、エンジンスイッチを“ON”にしてから指針が正しい量を示すまでに、少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が変わることがあります。
- ⛽ の左にある ◀ 印は、給油口（フューエルリッド）が助手席側の車両後方にあることを示します。

水温計

エンジンスイッチが“ON”のときに、エンジン冷却水の温度が示されます。

注記

指針が“H”側に近づいたときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。
→オーバーヒート P.**6-28**

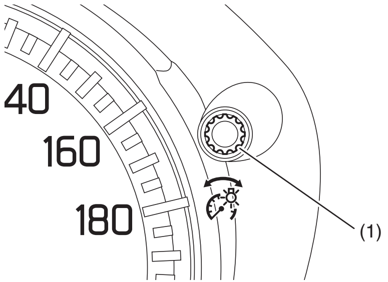
メーターの照明

メーターの照明は、エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、“ACC”または“OFF”にすると消灯します。

■ メーターの明るさ調節

ライト点灯時と消灯時のそれぞれで調節できます。

- エンジンスイッチが“ON”のときに、メーター右側の表示切替えノブを左右にまわします。調節の状態は、インフォメーションディスプレイに表示されます。
- 連続して調節するときは、ノブをまわしたままにします。



61MM0A156

(1) 表示切替えノブ

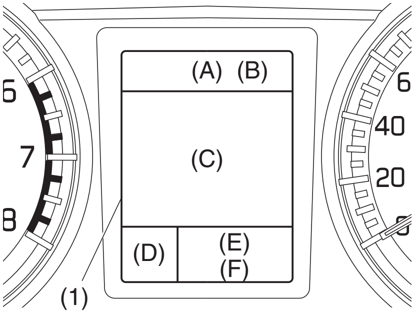
警告

走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

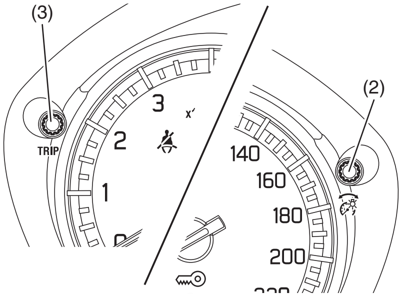
アドバイス

- 調節中に、表示切替えノブを5秒以上まわさないでいると、インフォメーションディスプレイはもとの表示にもどります。
- 鉛バッテリーを外すと記憶が消去され初期状態にもどりますので、明るさ調節をやり直す必要があります。

インフォメーションディスプレイ



61M0160



61MM0A158

(1) インフォメーションディスプレイ
(2) 表示切替えノブ
(3) トリップノブ

- エンジンスイッチを“ON”にすると、インフォメーションディスプレイに少しの間、次のメッセージが表示されます。またそのあと各表示位置に、次の表のいずれかが表示されます。

57L30068

表示位置	表示される内容
(A)	ALL GRIP（4WD）モード表示 →P.**2-66**
(B)	外気温 →P.**2-67**
(C)	● メッセージ →P.**2-73** ● 燃費、航続可能距離、平均車速 →P.**2-67**
(D)	セレクトレバー位置、 ギヤポジション、Mモード表示 →P.**2-70**
(E)	トリップメーター →P.**2-70**
(F)	オドメーター →P.**2-70**

アドバイス

メッセージの種類によっては、エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときでも表示される場合があります。

ALL GRIP（4WD）モード表示（4WD車のみ）

エンジンスイッチが“ON”のときに、表示位置（A）に現在のALL GRIP（4WD）モードが表示されます。

→ALL GRIP（4WD）モードの切替え（4WD車のみ）P.**3-34**

外気温

エンジンスイッチが“ON”のときに、表示位置（B）に外気温が℃単位で表示されます。

- 外気温が氷点下近くになると、次のメッセージが表示されます。路面が凍結しているおそれがありますので、とくに慎重に運転してください。
  →雪道を走行するとき P.**5-12**

61M0242

アドバイス

停車中や低速走行中に外気温が上昇すると、センサーがエンジンの熱の影響を受けていると判断して値を更新せず、正しい外気温を表示できない場合があります。

燃費、航続可能距離、平均車速

メッセージがない場合は、エンジンスイッチが“ON”のときに、表示位置（C）に次のいずれかが表示されます。また、表示切替えノブを押すごとに、番号の順に表示が切り替わります。

①瞬間燃費
②平均燃費
③航続可能距離
④平均車速
⑤表示なし

- ⑤表示なしのときに表示切替えノブを押すと、①瞬間燃費にもどります。

警告

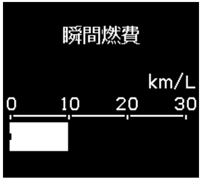
走行中は、表示の切替え操作をしないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 表示は、スイッチを離したときに切り替わります。
- 表示される次の値は目安です。実際とは異なる場合があります。
  ①瞬間燃費
  ②平均燃費
  ③航続可能距離
- 走行中にメーター内のエンジン警告灯が点灯すると、燃費や航続可能距離が正しく表示されない場合があります。
  →エンジン警告灯 P.**1-16**

■ 瞬間燃費

— 代表例 —



61M0243

走行中の瞬間燃費が表示されます。

アドバイス

- 停車中は値が表示されません。
- 最大表示値は30です。下り坂などで燃料カット制御が作動しているときでも、それ以上の値は表示されません。
- 燃費が大きく変化する走行をすると、表示に遅れが発生します。

■ 平均燃費

— 代表例 —

61M0244

表示をリセットしてからの平均燃費が表示されます。

アドバイス

- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- 鉛バッテリーを外すと、平均燃費の表示はリセットされます。

- リセット方法は、セッティングモードで次の３つから選択できます。
→セッティングモード P.**2-70**

〔給油連動〕

給油するごとに自動的にリセットされます。

アドバイス

給油量が少ないと、自動的にリセットされない場合があります。

〔TRIP A連動〕

トリップメーター“A”のリセットと連動してリセットされます。
→トリップメーター（区間距離計）P.**2-70**

〔非連動〕（工場出荷時）

平均燃費の表示中に表示切替えノブを長押しするとリセットされます。

アドバイス

手動によるリセットは、「給油連動」、「Trip A連動」を選択しているときでも可能です。

■ 航続可能距離

— 代表例 —

61M0245

現在の燃料残量で走行できるおよその距離が表示されます。

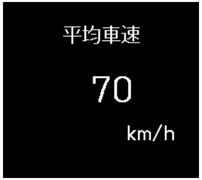
- 航続可能距離は過去の平均燃費をもとに算出される目安であるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 給油すると表示が更新されます。ただし、給油量が少ないと、表示が更新されない場合があります。

アドバイス

- 算出に使用される過去の平均燃費は、表示される平均燃費とは異なります。
- 鉛バッテリーを外すと過去の平均燃費の記憶が消去されますので、外す前までとは異なる値が表示される場合があります。
- エンジンスイッチを“ON”のままにして給油すると、正しい値が表示されない場合があります。
- 次のような場合は値が表示されません。
  ≫バッテリー接続後しばらくの間
  ≫燃料残量警告灯の点灯中 →P.**1-15**

■ 平均車速

— 代表例 —



61M0246

表示をリセットしてからの平均車速が表示されます。

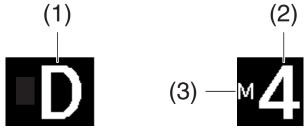
- リセットするときは、平均車速の表示中に表示切替えノブを長押しします。

アドバイス

- リセット後しばらくは、値が表示されません。
- 鉛バッテリーを外すと、平均車速の表示はリセットされます。

セレクトレバー位置／ギヤポジション／Mモード表示

— 代表例 —



61M0301

(1) セレクトレバー位置表示
(2) ギヤポジション表示
(3) Mモード表示

エンジンスイッチが“ON”のときに、表示位置（D）に走行状況にあわせて表示されます。

■ セレクトレバー位置表示

セレクトレバーの位置が表示されます。（マニュアルモード時を除く）

→セレクトレバーの各位置のはたらきと、動かしかた
P.**3-13**

■ ギヤポジション／M（マニュアル）モード表示

マニュアルモードのときに、Mモード表示と現在のギヤポジションが表示されます。

→マニュアルモードの使いかた P.**3-16**

トリップメーター（区間距離計）

エンジンスイッチが“ON”のときに、表示位置（E）に、リセット後の走行距離がkm単位で表示されます。（次にリセットするまで距離計測は継続されます）

- “A”および“B”の２種類の走行距離を同時に計測できます。

〔使いかたの例〕

“A”： 出発時にリセットして、出発後の距離を計測

“B”： 給油時にリセットして、給油後の距離を計測

- リセットするときは、表示が「0.0」になるまでトリップノブを長押しします。

アドバイス

トリップメーターの最大値は9999.9で、そのあと0.0にもどります。（距離計測は継続されます）

オドメーター（積算距離計）

エンジンスイッチが“ON”のときに、表示位置（F）に新車時（またはメーター交換時）からの走行距離の累計がkm単位で表示されます。（リセットはできません）

セッティングモード

セッティングモードでは、次の内容ができます。

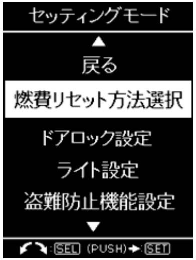
- 平均燃費のリセット方法切替え
- アンサーバック機能の車外ブザーによる合図の設定切替え
- 足元照明の設定切替え
- レーンチェンジ機能の設定切替え
- セキュリティアラームのモード設定切替え
- 設定の初期化（工場出荷状態にもどす）

■セッティングモードへの切替えのしかた

切替えは、エンジンスイッチが“ON”のときの停車中にできます。（走行中はできません）

- 平均燃費または平均車速の表示中にセッティングモードにすると、同時に現在の値がリセットされてしまいます。リセットしたくないときは、先に表示切替えノブを短押ししてほかの表示に切り替えてください。
  →燃費、航続可能距離、平均車速 P.**2-67**
- 表示切替えノブを 3 秒以上長押しします。インフォメーションディスプレイ全体がセッティングモードに切り替わります。

— 代表例 —



61M0302

■セッティングモードの終了のしかた

表示切替えノブをまわして「戻る」を選択し、ノブを短押しします。

- 次のような操作でも終了できます。
  ≫エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にする
  ≫走行を開始する

■平均燃費のリセット方法切替え

→平均燃費 P.**2-68**

1. セッティングモードに切り替えます。
2. 表示切替えノブを左右にまわして、「燃費リセット方法選択」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
3. ノブを左右にまわして、「給油連動」、「TRIP A連動」、「非連動」からリセット方法を選択します。ノブを短押しすると、切替えが完了します。

アドバイス

現在選択されているリセット方法は、文字が枠で囲まれて表示されます。

■アンサーバック機能の車外ブザーによる合図の設定切替え

→アンサーバック機能 P.**2-9**

1. セッティングモードに切り替えます。
2. 表示切替えノブを左右にまわして、「ドアロック設定」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
3. ノブを左右にまわして、「車外ブザー設定」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
4. ノブを左右にまわして、「ON」（ブザーあり）または「OFF」（ブザーなし）を選択します。ノブを短押しすると、切替えが完了します。

アドバイス

現在選択されている設定は、文字が枠で囲まれて表示されます。

■ 足元照明の設定切替え

1. セッティングモードに切り替えます。
2. 表示切替えノブを左右にまわして、「ライト設定」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
3. ノブを左右にまわして、「足元照明設定」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
4. ノブを左右にまわして、次の 3 つからお好みの設定を選択します。

〔OFF〕

点灯しません。

〔ドア連動〕（工場出荷時）

室内灯スイッチが DOOR 位置にあるときと同様に点灯します。（アンサーバック機能の設定切替え時の室内灯 2 回点滅を除く）

〔イルミ連動〕

- ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。
- 室内灯スイッチが DOOR 位置にあるときと同様に点灯します。（アンサーバック機能の設定切替え時の室内灯2回点滅を除く）
  →室内灯 P.**4-4**
  →アンサーバック機能 P.**2-9**

5. ノブを短押しすると、切替えが完了します。

アドバイス

現在選択されている設定は、文字が枠で囲まれて表示されます。

■ レーンチェンジ機能の設定切替え

→レーンチェンジ機能 P.**2-86**

1. セッティングモードに切り替えます。
2. 表示切替えノブを左右にまわして、「ライト設定」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
3. ノブを左右にまわして、「レーンチェンジ設定」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
4. ノブを左右にまわして、「ON」（点滅あり）または「OFF」（点滅なし）を選択します。ノブを短押しすると、切替えが完了します。

アドバイス

現在選択されている設定は、文字が枠で囲まれて表示されます。

■ セキュリティアラームのモード設定切替え

→セキュリティアラーム（警報装置）P.**2-14**

1. セッティングモードに切り替えます。
2. 表示切替えノブを左右にまわして、「盗難防止機能設定」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
3. ノブを左右にまわして、「モード選択」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
4. ノブを左右にまわして、「Aモード」（警報なし）または「Dモード」（警報あり）を選択します。ノブを短押しすると、切替えが完了します。

アドバイス

現在選択されている設定は、文字が枠で囲まれて表示されます。

■ **設定の初期化**

工場出荷時の設定にもどせます。

- 平均燃費のリセット方法
  ･･･非連動
- アンサーバック機能の車外ブザーによる合図の設定
  ･･･ON（ブザーあり）
- 足元照明の設定
  ･･･ドア連動
- レーンチェンジ機能の設定
  ･･･ON（点滅あり）
- セキュリティアラームのモード設定
  ･･･Dモード（警報あり）

1. セッティングモードに切り替えます。
2. 表示切替えノブを左右にまわして、「工場出荷状態」を選択します。ノブを短押しすると、次に進めます。
3. ノブを左右にまわして、「YES」を選択します。ノブを短押しすると「successful」と表示され、工場出荷状態にもどります。
   ≫「NO」を選択してノブを短押しすると、初期化を途中でやめることができます。

アドバイス

鉛バッテリーを外すと、平均燃費のリセット方法が工場出荷時の設定にもどりますので、設定切替えをやり直す必要があります。

インフォメーションディスプレイのメッセージ

システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メッセージが表示されます。

- メッセージの種類によっては、同時にメーター内のマスターウォーニングが点滅したり、室内ブザーが鳴ったりする場合があります。
- メッセージが表示されたときは、その指示にしたがってください。

アドバイス

- メッセージの要因が解消されると、表示が消えます。
- メッセージの表示中に、別のメッセージが追加されると、割り込み表示されます。そのあとは、約5秒ごとに表示が切り替わります。
- メッセージが表示されているときに、表示切替えノブを2秒以上長押しすると、もとの画面にもどります。ただし、メッセージの種類によっては、要因が解消されるまでは、約5秒後にふたたび表示される場合があります。

■インフォメーションディスプレイのメッセージ一覧

下記機能の作動中は、次の表以外のメッセージが表示される場合があります。

- 4WD
  →ALL GRIP（4WD）モードの切替え（4WD車のみ）P.**3-34**

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
 （停車中は※）	 （走行中のみ） 点滅	（走行中のみ） ● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	いずれかのドアが完全に閉まっていません。 ● 安全な場所に停車して、ドアを完全に閉めてください。 →半ドア警告灯 P.**1-18**
 （※）	消灯	なし	電源の状態が“ACC”のときに表示されます。 →電源の切替えのしかた P.**3-4**

※印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
	消灯	なし	ブレーキペダルを踏んでいます。 ● エンジンをかけるときは、エンジンスイッチを押してください。 →エンジンのかけかた P.**3-8**
	消灯	なし	次の状況でエンジンスイッチを押しています。 ● セレクトレバー位置が“P”“N”以外 ● ブレーキペダルを踏んでいない エンジンをかけるときは、メッセージの指示にしたがってください。 →エンジンのかけかた P.**3-8**

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
	消灯	なし	セレクトレバー位置が“P”“N”以外でエンジンスイッチを押しています。 ● エンジンをかけるときは、メッセージの指示にしたがってください。 →エンジンのかけかた P.**3-8**
	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	ハンドルロックに異常が考えられます。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。 →エンジンスイッチをもどすときは P.**3-10**

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	キーレスプッシュスタートシステムに異常が考えられます。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。 →キーレスプッシュスタートシステム P.**3-3**

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
    	 点滅	（条件により） ● ピー、ピー、 ● 約2秒間 ● 室内／車外ブザー	携帯リモコンが車内にない、またはリモコンの電池切れが考えられます。 ● リモコンを車内にもどすか、リモコンをエンジンスイッチに当ててください。 →携帯リモコン車外持ち出し警告 P.**3-5** →エンジンのかけかた P.**3-8**

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
	 点滅	● ピーーー ● 室内ブザー	ヘッドライトや車幅灯が点灯しています。 ● ライトを消してください。 →ライト消し忘れ警告ブザー P.**2-85**
 （※）	消灯	なし	電源の状態が“ON”のときに表示されます。 →電源の切替えのしかた P.**3-4**

※印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー	説明
 （※）	消灯	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	燃料の残量が少なくなっています。 ● すみやかに給油してください。 →燃料残量警告灯 P.**1-15**
	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	ハンドルロックが解除されていません。 ● ハンドルを左右に軽く動かしながら、エンジンスイッチを押してください。 →ハンドルロック未作動警告ブザー P.**3-11**
	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	CVTフルードの過熱が考えられます。 ● 安全な場所に停車して、アイドリング状態にしてください。 →トランスミッション警告灯 P.**1-18**

※印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
 （※）	消灯	なし	路面が凍結しているおそれがあります。 ● とくに慎重に運転してください。 →雪道を走行するとき P.**5-12**
 （※）	消灯	なし	携帯リモコンの電池切れが近いです。 ● 電池を交換してください。 →携帯リモコン電池消耗警告 P.**2-4**
	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	ESP®のシステムに異常が考えられます。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。 →ESP®装備車の取扱い P.**3-47**

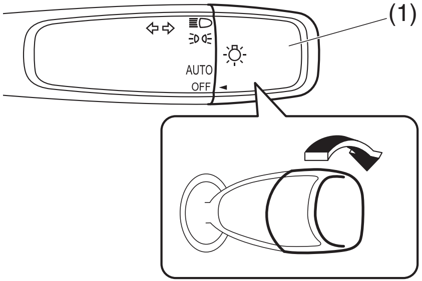
※印のメッセージは、要因が解消されない場合でも、一定時間がすぎると消えます。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	ヒルホールドコントロールのシステムに異常が考えられます。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。 →ヒルホールドコントロール P.**3-50**
	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	このメッセージが表示されたら、スズキサービス工場で点検を受けてください。

ライトスイッチ

ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく使用でき、ライトスイッチのツマミをまわすと次のように点灯・消灯します。



61M0331

(1) ツマミ

ライトスイッチの位置	ヘッドライト（前照灯）	車幅灯、尾灯、番号灯
	点灯	
	消灯	点灯
AUTO	自動点灯・消灯（※）	
OFF	消灯	

※オートライトシステムは、エンジンスイッチが“ON”のときだけ作動します。

注記

エンジン停止中に、長時間点灯させないでください。鉛バッテリーがあがる原因となります。

アドバイス

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間は、メーター内のライト点灯表示灯が点灯します。

→ライト点灯表示灯 P.**1-19**

■オートライトシステム

エンジンスイッチが“ON”のときに使用でき、車外の明るさに応じてヘッドライトや車幅灯が自動的に点灯・消灯します。

エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にすると、自動的に消灯します。

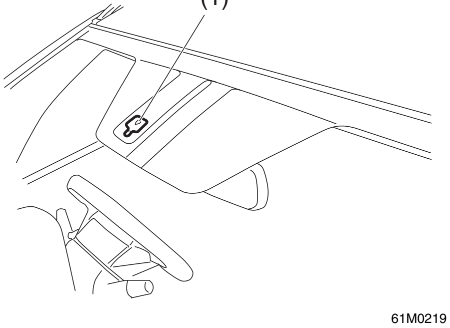
- ライトスイッチのツマミを AUTO の位置にまわすと、次のように点灯・消灯します。

車外の明るさ	ヘッドライト（前照灯）	車幅灯、尾灯、番号灯
明るいとき	消灯	
薄暗いとき	消灯	点灯
暗いとき	点灯	

注記

AUTO 位置のままエンジンスイッチを“ON”にしていると、エンジンがかかっていなくても、車外が暗くなるとともにライトや車幅灯が点灯します。そのまま長時間点灯させると、鉛バッテリーがあがる原因となりますのでご注意ください。

- 車外の明るさを感知するライトセンサーは、フロントガラスの上部にあります。このセンサーは、オートワイパーのレインセンサーの役割も果たしています。
  →オートワイパーシステム P.**2-88**



(1) ライトセンサー

注意

フロントガラスのセンサー部に、泥や氷などの異物が付着していると、車外が明るくてもライトや車幅灯が点灯する場合があります。なお、これらの異物を取り除くときはワイパースイッチを OFF にしてください。AUTOになっていると、不意にワイパーが作動することがあり、けがのおそれがあります。また、ワイパーが故障する原因となります。

アドバイス

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼って、ライトセンサーを覆わないでください。センサーの感度が低下し、正常に点灯・消灯しなくなります。

■ オートライトシステムの設定切替え

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、次のような作動タイミングに変更できます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

〔ライトセンサーの感度切替え〕

工場出荷時と比較し、次のどちらかを選択できます。

- 早めに点灯し、遅めに消灯する
- 遅めに点灯し、早めに消灯する

〔雨連動オートライト機能の変更〕

車外が明るくても、オートワイパー作動時に次のようなタイミングで作動するよう変更できます。

- レインセンサーが大雨を感知しているとき（工場出荷時）
- レインセンサーが小雨や大雨を感知しているとき（オートワイパーの作動と連動します）
- オートワイパー非連動

ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドライトや車幅灯の消し忘れを防止するため、次のようなときに運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピーーー”と連続して鳴ります。

- エンジンスイッチを“OFF”にしたあとも、ライトや車幅灯が点灯している

ライトおよび車幅灯を消すと、室内ブザーは止まります。

アドバイス

ライト消し忘れ警告ブザーの作動中は、メーター内のインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

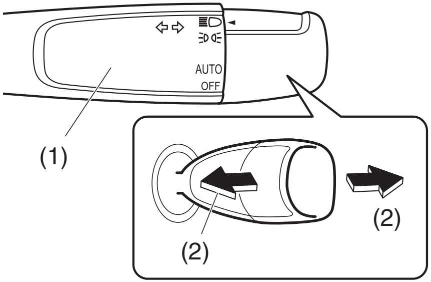
→インフォメーションディスプレイのメッセージ P.**2-73**

ライトの上向き、下向きの切替え

ヘッドライトを上向き（ハイビーム）に切り替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトが点灯しているときに、レバーを車の前方向に押すと上向きになります。もとの位置にもどすと、下向きになります。
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きにライトが点灯します。
- ライトを上向きにすると、メーター内のヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯が点灯します。

→ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯 P.**1-19**



61M0349

(1) レバー
(2) ヘッドライト上向き方向

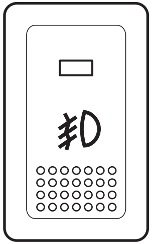
アドバイス

対向車や先行車があるときは、ライトを下向きにしてください。

フォグランプスイッチ

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、スイッチ内の表示灯も点灯します。もう一度押すと消灯します。



64J058

注記

鉛バッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。

方向指示器スイッチ

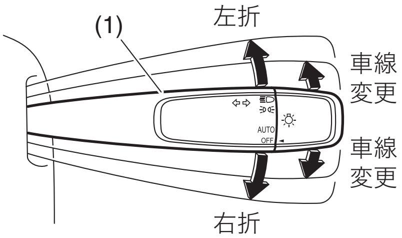
エンジンスイッチが“ON”のときに使用できます。

右折・左折をするとき

左折時：レバーを押し上げます。

右折時：レバーを押し下げます。

- 同時に方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすと、レバーが自動的にもどり、方向指示器と表示灯が消灯します。



61M0184

(1) レバー

アドバイス

ハンドルを切る角度が小さいと、レバーが自動的にもどらないことがあります。レバーを手でもどしてください。

車線変更をするとき

レバーを車線変更しようとする方向に軽く押さえます。

- 押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

■ レーンチェンジ機能

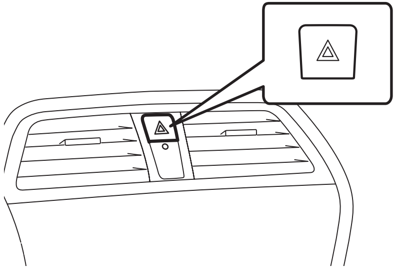
操作したレバーをすぐもどしても、方向指示器と表示灯が3回点滅します。

- インフォメーションディスプレイのセッティングモードにて、レーンチェンジ機能を停止することができます。→P.**2-70**
- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、点滅回数を変更（1回～4回）できます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

非常点滅表示灯スイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。
- もう一度押すと消灯します。



61M0163

注記

エンジン停止中に長時間点滅させないでください。鉛バッテリーがあがる原因となります。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが“ON”のときに使用できます。

注意

寒冷時は、ガラス面に吹きつけたウォッシャー液が凍結して、視界が悪くなることがあります。ガラス面をデフロスターで暖めてから、ウォッシャー液を噴射してください。

→デフロスター P.4-18

注記

- **ウインドーが乾いているときは、ウインドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。空ぶきするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつくおそれがあります。**
- **ワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。ブレード部（ゴムの部分）が傷ついたり、ワイパーが故障したりするおそれがあります。**
- **ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。**

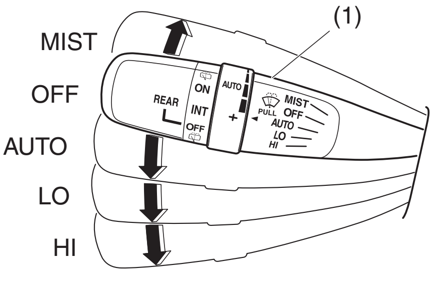
■ ワイパーが作動中に停止したときは

積雪などでワイパーに大きな負荷がかかる状態が続きワイパーモーターの温度が上がると、ワイパーモーターを保護するためにブレーカーが作動してワイパーが停止します。次の手順で対処してください。

1. 安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にします。
2. ワイパースイッチをOFFにします。
3. ワイパーの作動をさまたげる積雪などの障害物を取り除きます。
4. しばらくしてワイパーモーターの温度が下がると、ブレーカーが自動復帰してワイパーの使用が可能となります。
   ≫しばらく待ってもワイパーが使用できない場合は、別の原因が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

フロントワイパーの作動

レバーを上下に操作すると、フロントワイパーが次表のように作動します。



61M0164

(1) レバー

位置	ワイパー
MIST	レバーを押し上げている間作動
OFF	停止
AUTO	自動作動
LO	低速作動
HI	高速作動

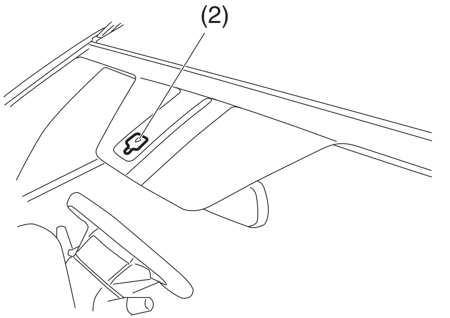
アドバイス

レバーを OFF から AUTO に操作したときは、ワイパーが1回作動したあと、自動作動になります。

■ オートワイパーシステム

ワイパースイッチを AUTO 位置にしていると、次の状況に応じてワイパーが自動で作動します。

- フロントガラスの上部にあるレインセンサーが感知した雨の程度（雪やそのほかの液体、ほこりなどを含む）
- 車速



61M0220

(2) レインセンサー

〔オートワイパーの作動の目安〕

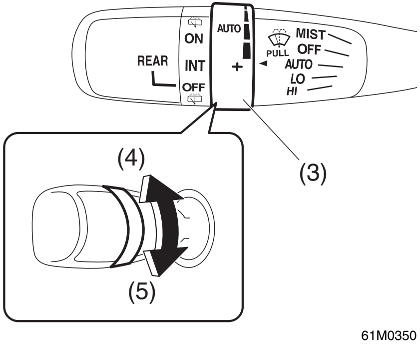
雨の程度	作動状態
なし	停止
小雨	間欠作動
普通の雨	低速作動
大雨	高速作動

次のような場合は故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

- 雨の程度が変化しても、オートワイパーの作動が変化しないとき
- 雨や雪が降っていても、オートワイパーが作動しないとき

〔レインセンサーの感度調節〕

リングをまわします。



(3) リング

リング位置	感度
（4）＋側	敏感（雨に反応しやすい）
（5）－側	鈍感（雨に反応しにくい）

⚠注意

- **ワイパースイッチが AUTO 位置でエンジンスイッチを“ON”にしているときは、次のことをお守りください。守らないと、不意にワイパーが作動することがあり、けがのおそれがあります。また、ワイパーが故障する原因となります。**
  - **≫フロントガラスのセンサー部にふれたり、布などでふいたりしない**
  - **≫フロントガラスやセンサーに衝撃をあたえない**
- **自動洗車機を使うときや、フロントガラスのお手入れをするときは、ワイパースイッチをOFFにしてください。**

アドバイス

次のような状況では、レインセンサーが雨や雪を正確に感知できず、正常に作動しない場合があります。

- フロントガラスのセンサー部に、雨や雪が当たらないとき、もしくは当たっても感知しにくい種類の雪のとき
- センサー部に、泥や氷などの異物が付着しているとき
- ワイパーを作動させる前からフロントガラスに雨滴が付着しているとき
- センサーの温度が炎天下で 80 ℃以上のとき、または寒冷時で－10℃以下のとき
- フロントガラスに撥水加工をしているとき（雨滴が流れやすいため雨量が多いと判断し、作動回数が多くなる場合があります）
- フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼って、センサーを覆っているとき
- ワイパーブレードのゴム部が傷ついているとき

■オートワイパーシステムの設定切替え

設定の切替え（カスタマイズ）をすると、AUTO 位置での作動を次のように変更できます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

〔セミオートモード〕

間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。（停止しません）

〔間欠ワイパーモード〕

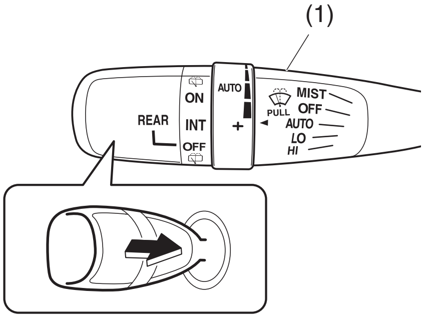
間欠作動だけします。作動間隔は、リングで調節できます。

〔フルオートモード〕（工場出荷時）

停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

フロントウォッシャーの作動

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射されワイパーが数回動きます。

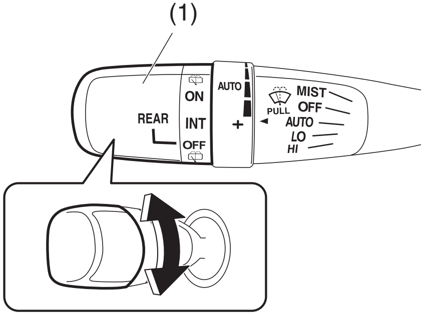


61M0332

(1) レバー

リヤワイパー／ウォッシャーの作動

ツマミをまわすと、リヤワイパー／ウォッシャーが次表のように作動します。



61M0351

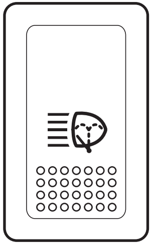
(1) ツマミ

位置	ワイパー	ウォッシャー
（上側）	ツマミをまわしている間作動	
ON	連続作動	停止
INT	間欠作動	停止
OFF	停止	
（下側）	ツマミをまわしている間作動	

ヘッドライトウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが“ON”位置で、ヘッドライトが点灯中に使用できます。

● スイッチを押すごとに、ヘッドライトに向けてウォッシャー液が2回噴射されます。



64J059

アドバイス

ヘッドランプが点灯している状態で、ワイパー／ウォッシャースイッチのフロントウォッシャーを複数回作動させた場合、最初の作動に連動してヘッドライトウォッシャーが作動します。

→フロントウォッシャーの作動 P.**2-90**

ホーンスイッチ

エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。ハンドルのホーンマークがついている部分を押すと、ホーンが鳴ります。

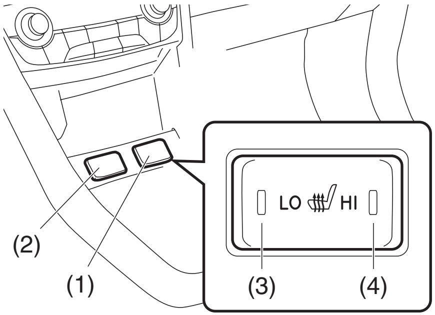
70K188

前席シートヒータースイッチ（タイプ別装備）

シート内にあるヒーターで座面をあたためることができます。

● エンジンスイッチが“ON”のときにスイッチを操作すると、ヒーターが作動します。

― 代表例 ―



61M0266

(1) 運転席シートヒータースイッチ
(2) 助手席シートヒータースイッチ
(3) LO側
(4) HI側

- 早くあたためたいときは、スイッチのHI側を押します。
- HI側ではあたたかすぎるときや保温したいときは、スイッチのLO側を押します。
- シートが適温になったときや使用しないときは、スイッチを中立の位置へもどしてください。

注意

- **長時間ヒーターを使用すると、低温やけど（水ぶくれなど）の原因になります。**
- **毛布や座ぶとんなど、保温性の高いものをシートにかけないでください。過熱の原因となります。**

注記

- **シートの上に重い荷物を置いたり、針や釘などをシートに刺したりしないでください。**
- **シートをお手入れするときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの溶剤を含む洗浄液を使用しないでください。シート表面やヒーターが損傷する原因となります。**
  →内装のお手入れ P.**5-6**
- **水やジュースなどをこぼしたときは、やわらかい布などでふき取り、十分に乾かしてからご使用ください。**
- **鉛バッテリー保護のため、エンジンがかかっているときに使用してください。**

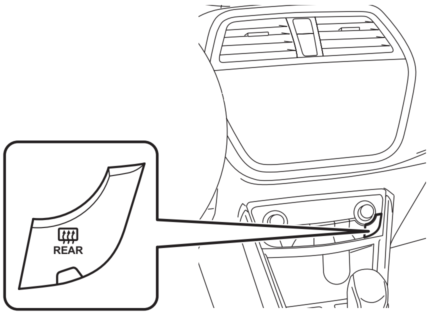
アドバイス

ヒーターは自動停止しません。スイッチがHI側／LO側に押されていると、作動し続けます。

リヤデフォッガースイッチ

エンジン回転中に使用でき、バックウインドーガラスの内側のくもりを取ります。

- スイッチを押すとバックウインドーガラスが暖められて、スイッチ内の表示灯が点灯します。
  もう一度押すとスイッチが切れます。
- 約15分連続で使用すると、自動的にスイッチが切れます。
- 使用中にエンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にすると、エンジンを再始動しても自動的にスイッチは入りません。
- ドアミラーヒーター装備車では、同時にドアミラーも暖められ、ミラーについたくもりを取ります。
  →ドアミラーヒーター（タイプ別装備）P.**2-25**



61M0060

注記

- **鉛バッテリー保護のため、くもりが取れたらすみやかにスイッチを切ってください。また、雪を溶かしたり、雨水を乾燥させたりする目的で使用しないでください。**
- **バックウインドーガラスの室内側をふくときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布で熱線に沿ってふいてください。**

アドバイス

エンジン停止中はスイッチが入りません。

3. 運転するときは

エンジン始動・停止

エンジンスイッチの各位置のはたらき 3-1
イモビライザーシステム 3-2
キーレスプッシュスタートシステム 3-3
エンジンをかけるときは 3-7
エンジンのかけかた 3-8
エンジンの止めかた 3-10

パーキングブレーキ

パーキングブレーキの操作 3-11

オートマチック車

セレクトレバーの操作 3-13
オートマチック車を運転するときは 3-18

安全・快適なドライブのために

走行するときは.. 3-24
エコドライブをしましょう 3-30
駐車するときは.. 3-32

4WD 車

ALL GRIP（4WD）モードの切替え（4WD 車のみ）... 3-34
4WD 車を運転するときは............................ 3-41

クルーズコントロール

クルーズコントロール 3-41

ABS

ABS 装備車の取扱い................................. 3-44

ESP®

ESP® 装備車の取扱い................................ 3-47

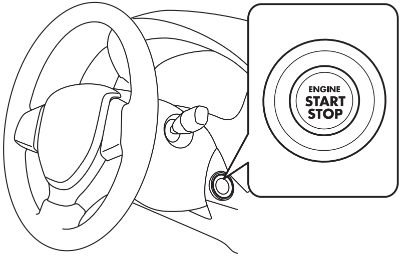
ヒルホールドコントロール

ヒルホールドコントロール 3-50

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRS エアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

エンジンスイッチの各位置のはたらき



61MM0B001

エンジンスイッチの位置（※1）	エンジンの状態	はたらき
“OFF”	停止	駐車するときの位置です。エンジンスイッチを“OFF”にもどして、いずれかのドアを開閉すると、ハンドルロックがかかります。
“ACC”	停止	エンジンをかけずにドアミラーやオーディオまたはナビゲーション、アクセサリーソケットなどの電装品を使用するときの位置です。（※2）
“ON”	停止	エンジンをかけずにパワーウインドーやワイパーなどの電装品を使用するときの位置です。（※2）
	回転中	すべての電装品が使えます。通常運転中の状態です。
“START”	始動	エンジンを始動するときの位置です。 →エンジンのかけかた P.**3-8**

※1 エンジンスイッチ位置の切替えについては、「キーレスプッシュスタートシステム」（→P.**3-3**）をお読みください。

※2 インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。→P.**2-73**

注記

エンジンを止めているときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたままにしないでください。また、その状態で長時間ナビゲーション、またはオーディオなどを使用しないでください。鉛バッテリーがあがる原因となります。

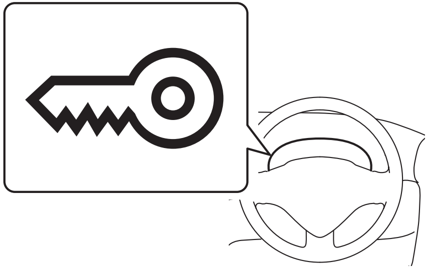
アドバイス

- ハンドルロックが解除されなくて、エンジンが始動できない場合があります。
  →ハンドルロックが解除できないときは P.**3-9**
- 強い電波やノイズの影響を受けると、インフォメーションディスプレイに「リモコンを検知できません」と表示され、電源の切替えやエンジンの始動ができない場合があります。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムは盗難防止のため、携帯リモコンが電波で車両と通信することによって、あらかじめ登録されたリモコン以外ではエンジンを始動できないようにするシステムです。

- エンジンの始動が可能な場合は、エンジンをかけるときに、メーター内のイモビライザー警告灯が約2秒間点灯したあと消灯します。点滅または約5秒間点灯すると、エンジンがかからない場合があります。携帯リモコンの場所を確認し、エンジンスイッチを“OFF”にもどしてから、操作をやり直してください。
  →イモビライザー警告灯 P.**1-18**
  →マスターウォーニングが点滅してエンジンがかからないときは P.**3-9**



81M40141

- イモビライザー警告灯は携帯リモコン車外持ち出し警告が作動したときにも点滅します。
  →携帯リモコン車外持ち出し警告 P.**3-5**

キーレスプッシュスタートシステム

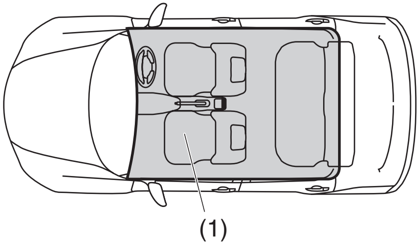
所持している携帯リモコンが、車内の作動範囲に入っていると、エンジンスイッチによる始動（→P.**3-8**）および電源の切替え（→P.**3-4**）が可能となります。

- また、そのほかに次の機能があります。
  - ≫リクエストスイッチによるドアの施錠・解錠 →P.**2-6**
  - ≫キーレスエントリー →P.**2-9**
  - ≫イモビライザー（車両盗難防止装置）→P.**3-2**

エンジン始動／電源切替え／携帯リモコン車外持ち出し警告の作動範囲（車内）

車内の作動範囲は、インパネの上や荷室などを除く車室内です。

― 代表例 ―



(1) 車内の作動範囲

アドバイス

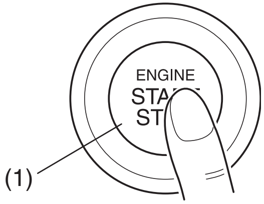
- 車内の作動範囲に携帯リモコンがあっても、次のような状況にあるとリモコンが検知されず、エンジン始動や電源切替えができない場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動する場合があります。
  - ≫携帯リモコンの電池が消耗している
  - ≫携帯リモコンが強い電波やノイズの影響を受けている
  - ≫携帯リモコンが金属製のものと接していたり、覆われたりしている
  - ≫携帯リモコンが奥まったところや収納スペースなどにある
    →ドリンクホルダー・収納スペース P.**4-8**
    →そのほかの装備 P.**4-13**
  - ≫携帯リモコンがメーターの手前やサンバイザー、床にある
- 車内の作動範囲に携帯リモコンがなくても、次のような状況にあるとリモコンが検知され、エンジン始動や電源切替えができる場合があります。また、携帯リモコン車外持ち出し警告が作動しない場合があります。
  - ≫車外に携帯リモコンがあっても、ドアに近づきすぎている
  - ≫携帯リモコンがインパネの上や荷室にある

電源の切替えのしかた

エンジンをかけずに電装品の使用やメーターの確認をしたいときは、次のようにしてエンジンスイッチの位置を切り替えます。

なお、この切替えのことを「**電源の切替え**」といいます。

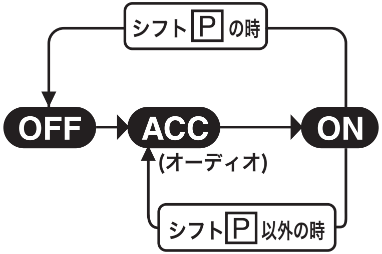
1. 携帯リモコンを所持して運転席にすわります。
2. ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押します。



82K254

(1) エンジンスイッチ

≫押すごとに次のようにエンジンスイッチの位置が切り替わり、“ACC”または“ON”の位置になるとメーター内の表示灯が点灯します。



61M0304

アドバイス

- セレクトレバーが“P”以外に入っていると、“OFF”にはもどせません。
- セレクトレバーの故障などで、エンジンスイッチを“OFF”にもどせないことがあります。
  →エンジンスイッチをもどすときは P.**3-10**

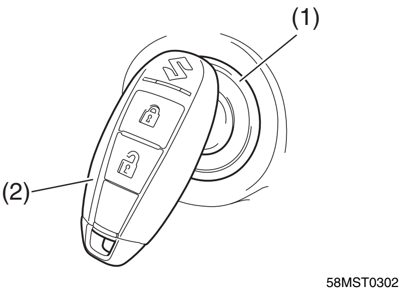
■ ⚠（マスターウォーニング）が点滅して電源が切り替わらないときは

携帯リモコンが車内の作動範囲（→P.**3-3**）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでも切り替わらないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順で切り替えてください。

1. ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押します。

2. メーター内の⚠（マスターウォーニング）が点滅している約10秒以内に、携帯リモコンの先端（ロックスイッチ側）をエンジンスイッチに約2秒間当てます。

≫⚠の点滅中に、イモビライザー警告灯が約5秒間点灯します。また、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。→P.**2-73**



(1) エンジンスイッチ
(2) 携帯リモコン

※前記の手順を行なっても切り替わらないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

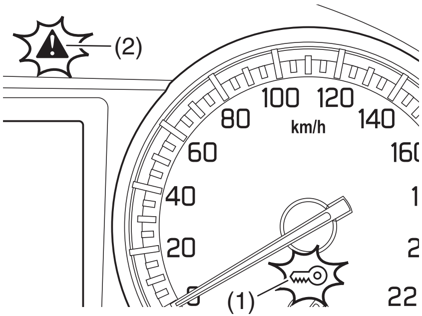
アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを“ON”にしたときに、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
  →携帯リモコン電池消耗警告 P.**2-4**
  →携帯リモコンの電池交換 P.**2-4**

携帯リモコン車外持ち出し警告

次のような場合、室内／車外ブザーが約2秒間断続的に鳴るとともに、メーター内のイモビライザー警告灯およびマスターウォーニングが点滅し、携帯リモコンの車外持ち出しを警告します。

- エンジン回転中、またはエンジンスイッチが“ACC”または“ON”位置にある状態で、いずれかのドアを開け、そのあとすべてのドアを閉めたときに携帯リモコンが車内の作動範囲（→P.**3-3**）にない場合
- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”位置にある状態で、エンジンを始動しようとしたときに携帯リモコンが車内の作動範囲にない場合



61MM0A182

(1) イモビライザー警告灯
(2) マスターウォーニング

警告が作動したときは、すみやかに携帯リモコンを車内にもどしてください。

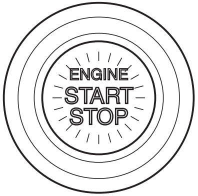
- 警告の作動中は、エンジンの再始動ができません。また、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。→P.**2-73**
- イモビライザー警告灯およびマスターウォーニングの点滅は、通常、携帯リモコンが車内にもどってきてから少しすると消灯します。消灯しない場合は、一度エンジンスイッチを“OFF”にもどしてください。

アドバイス

携帯リモコンは運転者が所持し、管理してください。

エンジンスイッチ照明

- エンジン停止中に、運転席ドアが開いていると点灯します。運転席ドアを閉めると約 15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。
- エンジン停止中に、車幅灯が点灯している間、点灯します。ライトを消すと消灯します。
- エンジン回転中に、ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。ライトを消すと消灯します。



82K253

アドバイス

鉛バッテリー保護のため、次の条件をすべてみたすと、エンジンスイッチ照明が自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

- ヘッドライトや車幅灯が消灯
- 運転席ドアを開けたまま約15分が経過

エンジンをかけるときは

窓越しのエンジンスイッチ操作はしない

運転席にすわり、ブレーキペダルを踏んでからエンジンを始動してください。

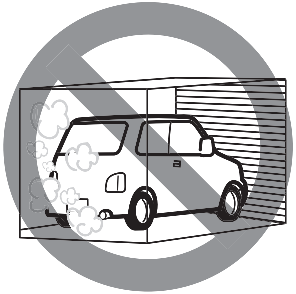
⚠警告

窓越しのエンジンスイッチ操作はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

61M0061

換気が悪いところでエンジンをかけたままにしない

⚠警告

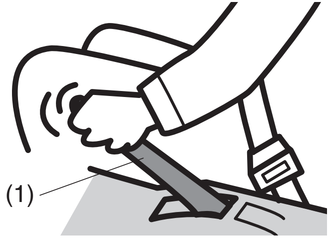


61M0062

- **車庫の中など、換気が悪いところでエンジンをかけたままにすると、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **エンジンをかけた状態で、バックドアを開けたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入します。**
- **車内で排気ガスのにおいがしたときは、すべての窓を全開にし、エアコン、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切り替え、ファンを強にして換気します。換気してもにおいが消えないときは、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。**

エンジンのかけかた

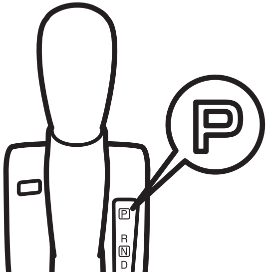
1. パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認します。



80J1037

(1) パーキングブレーキ

2. セレクトレバーが“P”に入っていることを確認します。

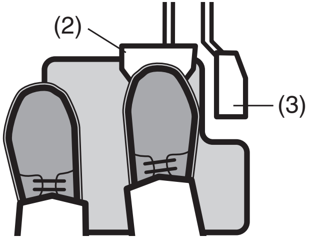


71L20010

アドバイス

セレクトレバーが“N”位置でもエンジンがかかりますが、安全のため“P”でエンジンをかけてください。

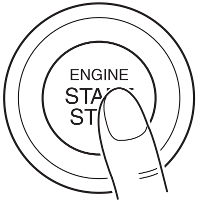
3. 右足でブレーキペダルをしっかり踏み続けます。
   ≫アクセルペダルは踏まないでください。



64L40060

(2) ブレーキペダル
(3) アクセルペダル

4. メーター内のインフォメーションディスプレイに、「 スタートスイッチを押して下さい」が表示されたら、エンジンスイッチを押します。エンジンがかかったら、スターターは自動的に停止します。
   ≫エンジンがかからなくても、スターターはしばらくすると自動的に停止します。自動停止後またはシステム異常時は、エンジンスイッチを押している間だけ、スターターがまわります。



60M0006

アドバイス

- エンジンをかけるときは、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。→P.**2-73**
- ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- ハンドルロックが解除できなくて、エンジンの始動ができない場合があります。→P.**3-9**

ハンドルロックが解除できないときは

ハンドルロックは通常、エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”または“ON”にすると解除されますが、解除されないとエンジンの始動ができません。このようなときは、ハンドルを左右に軽く動かしながら、エンジンスイッチを押してください。

64L40180

■ ハンドルロック未解除警告

エンジンスイッチが“ON”のときに、ハンドルロックが未解除の場合、メーター内のインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。→P.**2-73**

⚠（マスターウォーニング）が点滅してエンジンがかからないときは

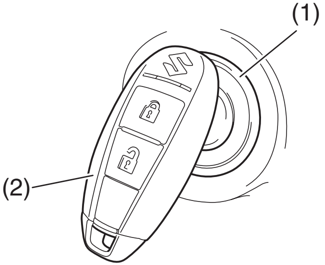
携帯リモコンが車内の作動範囲（→P.**3-3**）で検知されていないことが考えられます。運転者は携帯リモコンを身につけ、操作をやり直してください。それでもエンジンがかからないときは、携帯リモコンの電池切れのおそれがあります。次の手順を行なってください。

1. セレクトレバーが“P”に入っていることを再確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み続けます。

2. メーター内のインフォメーションディスプレイに、「 スタートスイッチを押して下さい」が表示されたら、エンジンスイッチを押します。

3. メーター内の⚠（マスターウォーニング）が点滅している約10秒以内に、携帯リモコンの先端（ロックスイッチ側）をエンジンスイッチに約２秒間当てます。

≫ ⚠の点滅中に、イモビライザー警告灯が約5秒間点灯します。また、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。→P.**2-73**



58MST0302

(1) エンジンスイッチ
(2) 携帯リモコン

※前記の手順を行なってもエンジンがかからないときは、鉛バッテリーあがりなどの別の原因が考えられます。スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

アドバイス

- 設定の切替え（カスタマイズ）をすると、携帯リモコン検出範囲外警告ブザー（室内ブザー）を1回鳴らすことができます。設定の切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 携帯リモコンの電池切れが近いと、エンジンスイッチを“ON”にしたときに、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
→携帯リモコン電池消耗警告 P.**2-4**
→携帯リモコンの電池交換 P.**2-4**

エンジンの止めかた

エンジンを止めるときは

車両の状態	エンジン停止方法
停車中	エンジンスイッチを押す
走行中（緊急時）	エンジンスイッチを3連打以上、または2秒以上長押しする

停車中にエンジンを停止できないときは、エンジンスイッチを３連打以上、または２秒以上長押ししてください。この場合、システムの異常が考えられますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

緊急時以外は、走行中にエンジンを止めないでください。

- **ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むときに強い力が必要になります。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、ハンドルが重くなります。**
- **SRSエアバッグやABSなどの安全装備が作動しません。**

注記

走行中にエンジンを止めると、オートマチックトランスミッションが損傷するおそれがあります。

エンジンスイッチをもどすときは

1. セレクトレバーを“P”に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。
→セレクトレバーの操作 P.**3-13**

2. エンジンスイッチを押して“OFF”にもどします。

≫エンジンスイッチを“OFF”にもどして、いずれかのドアを開閉すると、ハンドルロックがかかります。

≫誤操作防止のため、次のようなときは、エンジンスイッチを“OFF”にもどせません。

＞セレクトレバーの位置が“P”以外

＞セレクトレバーの位置が“P”に入っていても、セレクトレバーのボタンを押しているとき
→駐車 P.**3-23**

≫セレクトレバーの故障などで、エンジンスイッチを“OFF”にもどせないことがあります。スズキサービス工場で点検を受けてください。なお、点検前には次の作業をしてください。

＞盗難を防ぐため、エマージェンシーキーでドアを施錠してください。（リクエストスイッチや携帯リモコンでは施錠できません）

＞鉛バッテリーあがりを防ぐため、バッテリーのマイナス端子を外してください。（10 mmスパナなどの市販工具が必要です）

■エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー

エンジンスイッチのもどし忘れを防止するためのブザーです。

- エンジンスイッチを“ACC”にしたまま運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピー、ピー、”と断続的に鳴ります。
- セレクトレバーを“P”に入れ、セレクトレバーのボタンから手を離します。エンジンスイッチを2回押して“OFF”にもどすと、室内ブザーが止まります。
- “OFF”にもどさないと、リクエストスイッチや携帯リモコンでドアが施錠できません。

■ハンドルロック未作動警告ブザー

故障などで、エンジンスイッチを“OFF”にもどして、いずれかのドアを開閉してもハンドルがロックされない場合、運転席ドアを開けると、室内ブザーが“ピッ、ピッ、”と断続的に鳴ります。スズキサービス工場で点検を受けてください。

パーキングブレーキの操作

パーキングブレーキは後輪にかかります。駐車するときはパーキングブレーキをしっかりとかけてください。

⚠警告

パーキングブレーキを解除したときは、メーター内のブレーキ警告灯が消灯しているか確認してください。万一、パーキングブレーキをかけたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

→ブレーキ警告灯 P.**1-14**

⚠注意

パーキングブレーキをかけると、ヒルホールドコントロールが作動しません。

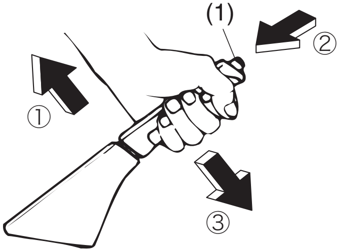
→ヒルホールドコントロール P.**3-50**

駐車するときは

パーキングブレーキレバー先端のボタンは押さずに、レバーをいっぱいに引き上げます。

解除するときは

- レバーを少し引き上げながら（①）レバー先端のボタンを押し込み（②）、そのまま下まで完全におろします（③)。
- 坂道発進するときは、パーキングブレーキをかけたまま右足でアクセルペダルを慎重に踏み、車が動き出す感触を確認しながらパーキングブレーキを解除してください。



(1) ボタン

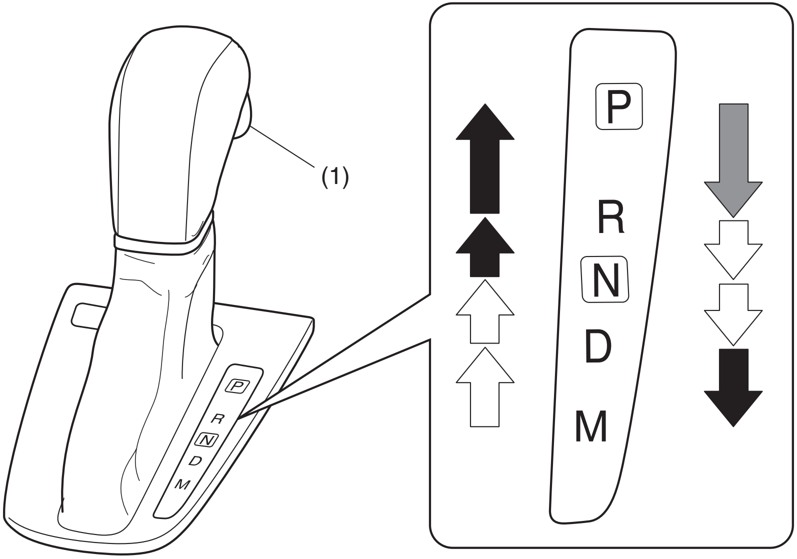
パーキングブレーキ解除忘れ警告ブザー

パーキングブレーキを解除し忘れたまま走行すると、室内ブザーが“ピピピッ、ピピピッ”と鳴り続けます。

セレクトレバーの操作

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

セレクトレバーの各位置のはたらきと、動かしかた



(1) ボタン

P	“P”（パーキング） ● 駐車するとき、エンジンを始動・停止するときの位置です。駆動輪（前輪）が固定されます。
R	“R”（リバース） ● 車を後退させるときの位置です。室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが“R”に入っていることを知らせます。 →“R”（リバース）ポジション 警告ブザー P.**3-19**
N	“N”（ニュートラル） ● エンジンの動力が伝わらない状態の位置です。この位置でもエンジンを始動できますが、安全のため“P”位置で始動してください。
D	“D”（ドライブ） ● 通常走行の位置です。車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速され走行できます。
M	“M”（マニュアル） ● マニュアルモードで走行するときの位置です。マニュアル感覚で走行したいとき、坂道や山間路を走行するときなどに使用します。 →マニュアルモードの使いかた P.**3-16**

⬇ ・・・ブレーキペダルを踏み、ボタンを押したままレバーを動かします。

⇧⇩ ・・・ボタンを押さずにレバーを動かします。

⬆⬇ ・・・ボタンを押したままレバーを動かします。

⚠注意

運転席および助手席にお乗りの方の乗車姿勢によっては膝などが当たって、セレクトレバーを動かしてしまうことがあります。

注記

完全に停車させてから、セレクトレバーを“R”に入れてください。車が動いていると、トランスミッションが故障する原因となります。なお、トランスミッション保護のため、前進車速が約10 km/h以上のときは変速されません。（ニュートラルのまま）

アドバイス

⇧⇩の操作は、セレクトレバーのボタンを押さない習慣をつけてください。常にボタンを押して操作していると、間違って“P”“R”“M”へ入れてしまうおそれがあります。

■ シフトロックシステム

発進するときなどに、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- エンジンスイッチが“ON”でブレーキペダルを踏んでいるときだけ、セレクトレバーを“P”からほかの位置に動かせます。
- エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときは、ブレーキペダルを踏んでいても、セレクトレバーを“P”からほかの位置に動かせません。
- セレクトレバーのボタンを押してから、ブレーキペダルを踏まないでください。シフトロックが解除されないことがあります。
- 万一、エンジンスイッチを“ON”にして、ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーを“P”からほかの位置へ動かせない場合は、「シフトロックの解除のしかた」（→P.**3-16**）の手順でシフトロックを解除してください。
  この場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにスズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

セレクトレバー可動部に飲み物などをこぼしたり、内部に異物が入ったりした場合、そのまま使用を続けるとシフトロックシステムが正常に機能しなくなるおそれがありますので、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠注意

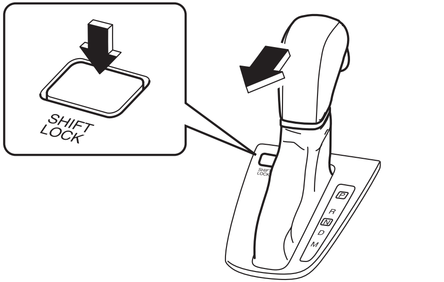
発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままセレクトレバーを操作してください。

■ シフトロックの解除のしかた

シフトロックシステムの故障や鉛バッテリーあがりなどで、セレクトレバーを“P”からほかの位置へ動かせないときは、次の手順でシフトロックを解除します。

1. 安全のため、エンジンスイッチを“ACC”にしてパーキングブレーキをしっかりとかけ、ブレーキペダルを踏み続けます。

2. セレクトレバーパネルにあるシフトロック解除ボタンを押しながら、セレクトレバーを操作します。

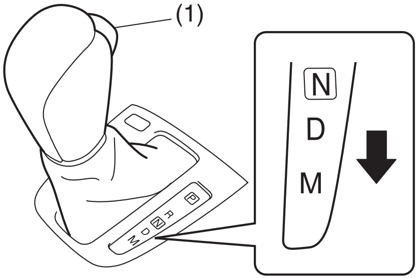


71L40141

マニュアルモードの使いかた

CVT 車は自動的に無段階に変速しますが、マニュアルモード（手動変速モード）にすると、任意に変速することができます。マニュアルモードにするときは、セレクトレバーのボタンを押したまま“D”から“M”に動かします。

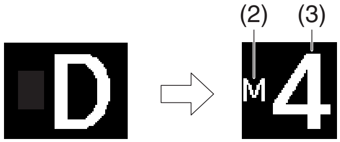
- インフォメーションディスプレイに、M（マニュアル）モード表示と現在のギヤポジションが表示されます。
- セレクトレバーを“D”から“M”に動かした直後のギヤポジションは、“D”のときに自動的に選択されていたギヤポジションです。



61M0334

(1) ボタン

— 表示例 —



61M0335

(2) M（マニュアル）モード表示
(3) ギヤポジション

- セレクトレバーを“M”に動かさなくても、走行中“D”のままパドルシフトスイッチを手前に引くと、一時的にマニュアルモードにすることができます。
  →一時的にマニュアルモードにするときは P.**3-18**

■ マニュアルモード時のシフト操作

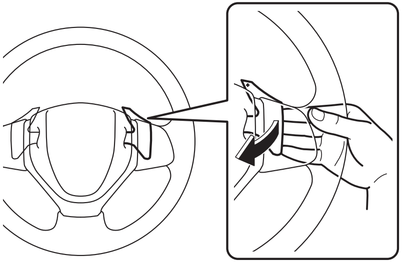
ギヤポジションは、走行速度に応じて1速から7速まで選択できます。

- エンジンおよびトランスミッション保護のため、シフト操作をしなくてもエンジンが高回転になると、自動的にシフトアップします。
- シフト操作をしなくても車のスピードが低下すると、自動的にシフトダウンし、停車するとギヤポジションは**1**になります。

- アクセルペダルを大きく踏み込むと、マニュアルモード時でもキックダウンすることがあります。
  →急加速走行（キックダウン）P.**3-21**

〔シフトアップしたいとき〕

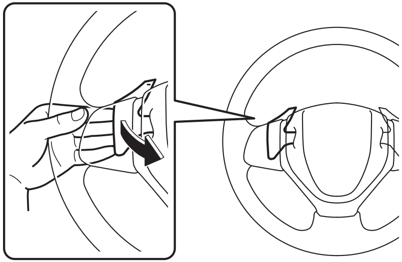
- ハンドルの右側にあるパドルシフトスイッチ（**＋**側）を手前に引きます。手を離すと、スイッチは自動的にもとの位置にもどります。



78MN027

〔シフトダウンしたいとき〕

- ハンドルの左側にあるパドルシフトスイッチ（**－**側）を手前に引きます。手を離すと、スイッチは自動的にもとの位置にもどります。



78MN028

アドバイス

- 連続して変速したいときは、パドルシフトスイッチから手を離してから、スイッチを引き直す必要があります。スイッチを引いた状態のままでは、連続して変速できません。
- 左右のパドルシフトスイッチを同時に操作すると、変速しないことがあります。

■マニュアルモードシフト警告

走行性能を確保するため、またはトランスミッションの保護のため、シフト操作をしても希望するギヤポジションに変速されない場合があります。

このようなときは、警告ブザーが“ピピッ”と鳴ります。

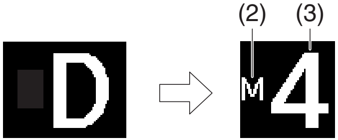
■マニュアルモードを解除するときは

セレクトレバーを“M”から“D”にもどすと、マニュアルモードが解除されます。

■一時的にマニュアルモードにするときは

“D”で走行中（低車速時を除く）に、パドルシフトスイッチを手前に引きます。インフォメーションディスプレイに、M（マニュアル）モード表示と現在のギヤポジションが表示されます。

― 表示例 ―



61M0335

(2) M（マニュアル）モード表示
(3) ギヤポジション

- 次のような操作または状況になると、マニュアルモードが自動的に解除され、もとの制御にもどります。
  - ≫変速しないで、一定時間アクセルペダルを踏み続けたとき
  - ≫低車速になったとき

オートマチック車を運転するときは

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車特有の現象や操作上の注意があります。
「セレクトレバーの操作」（→ P.**3-13**）もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

※本書で「オートマチック車」と記載されている場合、「CVT車」を示しています。

クリープ現象に注意して

エンジンをかけて停車しているとき、セレクトレバーが“P”“N”以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動きます。これをクリープ現象といいます。

注意

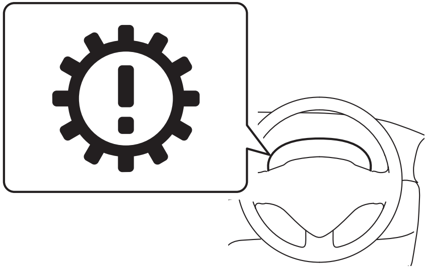
- **セレクトレバーを“P”“N”以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。**
- **エンジン始動直後やエアコン作動時は、クリープ現象が強くなることがあります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。**

アドバイス

CVT車もクリープ現象があります。

トランスミッション警告灯

CVTのシステムに異常があると、エンジンスイッチが“ON”のとき、メーター内のトランスミッション警告灯が点灯します。点灯した場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
→トランスミッション警告灯 P.**1-18**



81M40161

“R”（リバース）ポジション警告ブザー

セレクトレバーを“R”に入れると室内で警告ブザーが鳴り、セレクトレバーが“R”に入っていることを運転者に知らせます。

アドバイス

“R”（リバース）ポジション警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

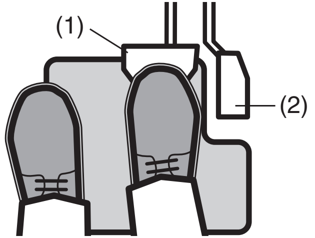
運転前の確認

■ 正しい運転姿勢

正しい運転姿勢が取れるようにシートやハンドルを調節し、シートベルトを着用してください。
→正しい運転姿勢 P.**2-26**
→前席シート P.**2-26**
→ハンドル P.**2-26**
→シートベルトの着用のしかた P.**2-36**

■ ペダルの踏み間違いに注意

ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンをかける前にアクセルペダルとブレーキペダルを実際に右足で踏んで、位置を確認してください。



64L20140

(1) ブレーキペダル
(2) アクセルペダル

⚠警告

アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ブレーキペダルは右足で踏む

左足では適切なブレーキ操作ができません。ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

■ エンジンの始動

「エンジンのかけかた」（→P.**3-8**）をお読みください。

■ セレクトレバーを操作するときは

- セレクトレバーは、エンジン始動時や降車時は“P”、前進時は“D”、後退時は“R”に入っていることを目で確認してください。
- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを“R”に入れたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに“R”から“N”に入れる習慣をつけてください。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときは、完全に停車してからセレクトレバーを操作してください。

⚠警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進して事故を起こすおそれがあります。

発進

■ 通常の発進

1. パーキングブレーキがしっかりとかかっていることを確認し、ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。

2. 前進時は“D”、後退時は“R”にセレクトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。

3. パーキングブレーキを解除し、メーター内のブレーキ警告灯の消灯を確認します。

4. ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、アクセルペダルをゆっくり慎重に踏んで発進します。

■ 急な上り坂での発進

1.から2.は「**通常の発進**」と同じ操作です。

3. ブレーキペダルからゆっくりと右足を離し、アクセルペダルを慎重に踏みます。

4. 車が動き出す感触を確認しながら、パーキングブレーキをもどして発進します。

80J255

⚠注意

パーキングブレーキをかけると、ヒルホールドコントロールが作動しません。

→ヒルホールドコントロール P.**3-50**

走行

■ 通常走行

セレクトレバーを“D”に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、自動的に変速しながら走行できます。

⚠注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを“N”に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思いがけない事故の原因となります。

■ 急加速走行（キックダウン）

走行中（低車速時を除く）にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的にシフトダウンしてエンジン回転が上昇し、力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越しなどで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでください。

⚠注意

通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。いっぱいに踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速をするおそれがあります。

■ 坂道走行（登降坂変速制御）

セレクトレバーが“D”位置で作動する制御です。

〔上り坂走行のときは〕

登坂中と判断するとシフトダウンしてエンジン回転数を高く保ち、少ないアクセル操作でなめらかな走行ができます。

- スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。

〔下り坂走行のときは〕

降坂中と判断するとシフトダウンし、エンジンブレーキがかかります。

- エンジンブレーキの効きが弱くてスピードが出すぎてしまうことがあります。

≫坂の勾配に応じて、あらかじめパドルシフトスイッチ（－側）を操作して適切なギヤポジションにし、エンジンブレーキを併用します。
→マニュアルモードの使いかた
P.3-16

警告

急な下り坂や長い下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

注意

坂道などで、セレクトレバーを前進の位置（“D”“M”）にしたまま惰性で後退したり、後退の位置（“R”）にしたまま惰性で前進したりしないでください。エンストしてブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因になります。

一時停止

1. セレクトレバーは走行位置のままで停車し、ブレーキペダルをしっかり踏み続けます。
   ≫急な坂道で一時停止するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
   ≫停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを“N”に入れます。
2. 再発進するときに間違えないよう、セレクトレバーの位置とパーキングブレーキの解除を目で確かめます。

警告

一時停止中に、空ぶかしをしないでください。万一、セレクトレバーが“P”“N”以外に入っていると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

注記

一時停止中に、次のような操作をしないでください。トランスミッション故障の原因となります。
- **車が少しでも動いているときに、セレクトレバーを“P”に入れる**
- **上り坂などで、アクセル操作でバランスをとるなどして車を停止させようとする。トランスミッションフルードが過熱します。**

後退

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、完全に停車させてから、次の前進あるいは後退の操作を行なってください。

アドバイス

前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを“R”に入れていたことを忘れることがあります。車を後退させたあとは、すぐに“R”から“N”に入れる習慣をつけてください。

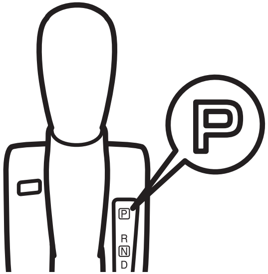
車を少し移動させるとき

少しだけ移動するときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。

→正しい運転姿勢 P.**2-26**

駐車

1. 車を完全に止めます。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。
3. セレクトレバーを“P”に入れてからエンジンを止め、ブレーキペダルからゆっくりと足を離します。
   ≫セレクトレバーが“P”位置になっているか目で確かめます。



71L20010

⚠警告

駐車するときは、セレクトレバーを“P”に入れてからエンジンを止めてください。“P”以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

4. エンジンスイッチを“OFF”にもどします。

→エンジンスイッチをもどすときは P.**3-10**

■ 車から離れるときは

⚠警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。万一、セレクトレバーが“P”以外に入っていると、車がひとりでに動き出すおそれがあります。また、車に乗り込むときに誤ってセレクトレバーを動かしたりアクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ急発進のおそれがあります。

走行するときは

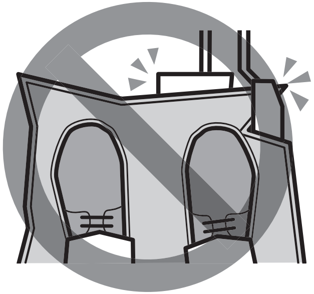
運転席の足元付近にものを置かない

61M0056

⚠警告

空き缶などを足元に放置しないでください。ペダル操作ができなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

車にあったフロアマットを適切に使用する



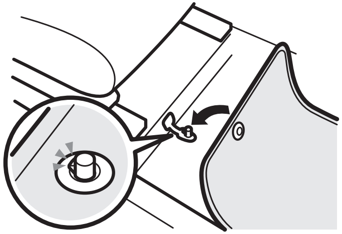
61M0057

⚠警告

ペダル操作のさまたげになって思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

- **足元の形にあわないフロアマットを使わない**
- **フロアマットを重ねて敷かない**
- **フロアマットは固定具などで確実に固定する**

〔スズキ純正フロアマットの例〕



64L20190

※運転席側のフロア（カーペット下）には、スズキ純正フロアマットに付属する固定具を取り付ける穴があります。

アドバイス

この車専用のスズキ純正フロアマットのご使用をおすすめします。

ハンドル、シート、ミラーの調節は走行前に

80J014

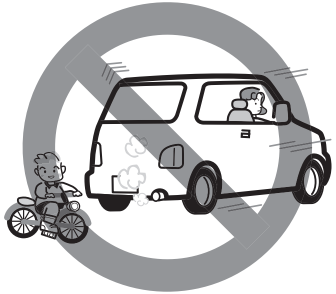
警告

- **走行中に各部の調節をしないでください。ハンドル操作を誤ったり、前方不注意となったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。**
  →各部の調節 P.**2-22**
  →シートの調節 P.**2-26**
- **背もたれを必要以上に倒さないでください。ヘッドレストやシートベルトが本来の機能を発揮できません。**

周囲をよく確認してから発進する

注意

- **周囲の安全をしっかりと確認してから発進してください。**
- **バックミラーだけでは後方の安全が十分に確認できません。車を後退させるときは、車から降りて自分の目で後方を確認してください。**



61M0068

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速をしない

エコドライブのため、空ぶかしや急発進、急加速はしないでください。
→エコドライブをしましょう P.**3-30**

注記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

61M0069

携帯電話やナビゲーションなどに気を取られないで

警告

運転者は、走行中に次のようなことをしないでください。操作に気をとられたり、前方不注意となったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 携帯電話や自動車電話などの操作
- テレビやナビゲーション、オーディオなどの操作や、画面の注視

61M0070

ハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない

警告

ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故の原因となります。

61M0071

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しない

注意

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキ装置が過熱したりして、効きが悪くなるおそれがあります。

走行中はニュートラルにしない

注意

緊急時以外は、走行中にセレクトレバーを“N”（ニュートラル）に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故の原因となります。

61M0072

こんなときどうする？

- **警告灯が点灯したら？**
- **警告メッセージが表示されたら？**

ただちに安全な場所に停車して処置をしてください。

→警告灯・表示灯の見かた P.**1-11**
→インフォメーションディスプレイのメッセージ P.**2-73**

- **床下に強い衝撃を受けたら？**

ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料が漏れていないか、排気管などに異常がないか点検してください。異常が見つかったときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

- **タイヤが突然パンクしたら？**

ハンドルをしっかり握り、慎重にブレーキをかけて徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。

→パンク P.**6-1**

- **ブレーキペダルが重く感じたら？**

車には、エンジンの負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減するブレーキ倍力装置がついています。エンジンの負圧が低下していると、ブレーキペダルを踏んだときに重く感じることがありますが、異常ではありません。そのままペダルを強く踏んでください。

- **ブレーキから金属音（キーキー音）が聞こえたら？**

すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。ディスクブレーキのパッド（スズキ純正部品）には、走行中に金属音が発生することで使用限度（交換時期）近くまで摩耗したことを警報する機能があります。

⚠警告

金属音が発生したまま走行を続けないでください。ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

長い下り坂ではエンジンブレーキを使用する

長い下り坂ではエンジンブレーキ（※）を併用してください。アクセルペダルから足を離し、走行速度にあわせて、次のようにシフトダウンします。

- パドルシフトスイッチ（－側）を操作して適切なギヤポジションにシフトダウンします。

→マニュアルモードの使いかた P.**3-16**

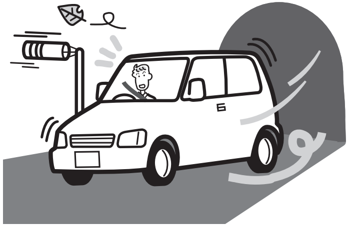
※エンジンブレーキとは、走行中にアクセルペダルから足を離したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。エンジンブレーキは低速ギヤほどよく効きます。

80J1003

⚠警告

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。

横風が強いときは



72J20330

トンネルの出口や橋の上、大型トラックが通りすぎるときなどに、横風を受けて車が横に流されることがあります。あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。

滑りやすい路面ではゆっくり走る

⚠注意

濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。スリップ事故につながるおそれがあります。

61M0073

水たまりを高速で通り抜けない

⚠注意

水たまりや濡れた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。これをハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったく効かなくなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

61M0074

水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認

72J20360

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置を乾かしてください。

冠水した場所は走行しない

注記

冠水した場所や、深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品のショート、エンジン破損などの原因になります。

61M0075

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますのでオイル交換が必要です）
- ベアリング、ジョイント部などの潤滑不良

段差などに注意して

注記

次のような場合は、バンパーまたは車両下部が破損するおそれがあります。十分注意してください。

- **路肩など段差がある場所への乗り入れ**
- **わだちやくぼみなどがある道路の走行**

スタック（立ち往生）したときは

ぬかるみや砂地などで、駆動輪が空転して脱出できなくなることをスタックといいます。

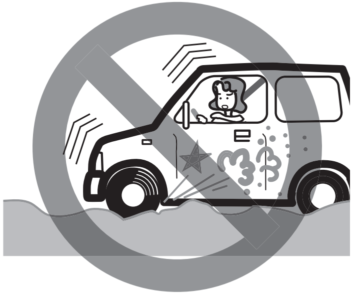
- 前進と後退を繰り返すときは、駆動装置などが損傷するおそれがあるため、次のことに注意してください。
  ≫セレクトレバーを確実に入れてからアクセルを軽く踏んでください。
  ≫数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。
- タイヤの下に石や木を入れると脱出しやすくなります。
- ESP® 装備車では、トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。そのようなときは、ESP® OFF スイッチを操作してトラクションコントロールを作動停止の状態にしてください。
  →ESP®装備車の取扱い P.**3-47**
- 4WD車は、ALL GRIP（4WD）モードをLOCKモードに切り替えてください。
  →ALL GRIP（4WD）モードの切替え（4WD車のみ）P.**3-34**

⚠警告

脱出しようとする前に、周囲の安全を十分に確認してください。勢いよく発進して事故を起こすおそれがあります。

ⓘ注記

- **4WD車は、ALL GRIP（4WD）モードをLOCKモードに切り替えてください。LOCK モード以外で脱出しようとすると、駆動装置などが損傷するおそれがあります。**
- **タイヤを高速で空転させないでください。タイヤが異常に過熱して破損したり、駆動装置が損傷したりするおそれがあります。**

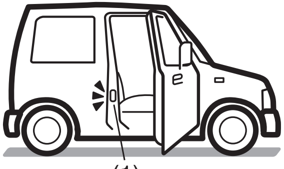


61M0076

エコドライブをしましょう

タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認のうえ、調整してください。



70K115

(1) 空気圧ラベル

不要な荷物は積まない

燃費が悪化したりタイヤが早く摩耗したりするなど、車に悪影響があります。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行なってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（− 10 ℃以下を目安）にあるとき

前記以外の場合はエコドライブのため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

ⓘ注記

エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

アドバイス

状況によって異なりますが、一般的に暖機運転によって、5分間で160 mL程度の燃料を消費するといわれています。

急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない

61M0077

空ぶかしをしない

61M0069

燃料を消費するだけで、何の効果もありません。

車速に応じたギヤで走行する

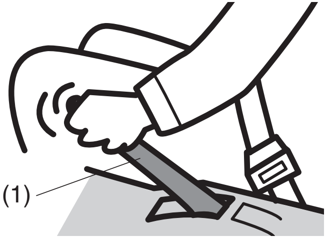
低速ギヤを使って高いエンジン回転で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。

駐車するときは

パーキングブレーキをしっかりとかけて

■ 平らな場所に駐車するときは

1. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。



(1) パーキングブレーキレバー

2. セレクトレバーを“P”に入れます。

≫ブレーキペダルからゆっくりと足を離し、車が動き出さないことを確認してください。

→セレクトレバーの操作 P.**3-13**

⚠ 注意

- **平らな場所に少しの間駐車するときでも、安全のため、セレクトレバーを“P”に入れてください。**
- **寒冷時にパーキングブレーキをかけると、凍結して解除できなくなるおそれがあります。坂道を避け、平らな場所に駐車してください。**

→パーキングブレーキ P.**5-13**

■ 坂道に駐車するときは

1.から2.は、平らな場所に駐車するときと同じ操作です。

3. 市販品の輪止めや石などでタイヤを固定し、車が動き出さないようにしてください。

⚠ 警告

急な坂道には駐車しないでください。

無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車を移動するときはエンジンをかけて

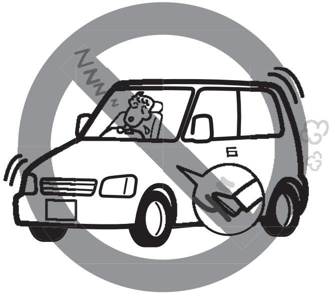
⚠ 注意

エンジンをかけずに、坂道を利用して惰性で車を移動しないでください。ハンドルをまわすときやブレーキペダルを踏むときに強い力が必要となって、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンをかけたまま仮眠しない

警告

- **周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。**
- **無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が過熱して火災のおそれがあります。**



61M0078

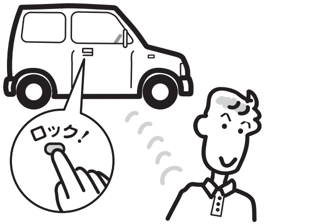
燃えやすいものの近くに駐車しない

警告

枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの可燃物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスが高温になるため、火災のおそれがあります。

61M0079

車から離れるときはエンジンを止めてドアを施錠



80J3093

少しの間でも車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難のおそれがあります。

警告

エンジンをかけたまま車から離れないでください。火災や盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内にパソコンや携帯電話などを放置しない

盗難にあったり、水分や湿気または温度変化などにより故障したりするおそれがあります。

ライターやメガネなどを放置しない

⚠警告

- **炎天下で駐車するときは、車内にライター やスプレー缶、プラスチック製品（メガネやカード、CDケースなど）や炭酸飲料缶を放置しないでください。車内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れ、炭酸飲料缶の破裂を起こすおそれがあります。**

61M0080

- **操作部が露出しているライターやスプレー缶をグローブボックスや小物入れなどに入れたり、床やシートのすきまに落としたままにしたりしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。**

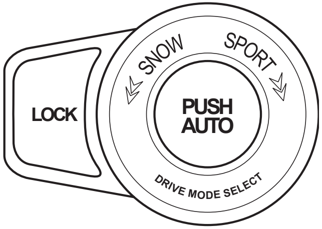
ALL GRIP（4WD）モードの切替え（4WD車のみ）

「4WD 車を運転するときは」（→ P.**3-41**）もあわせてお読みいただき、ALL GRIP（4WD）車の特性や操作上の注意を十分理解して正しい取扱いをしてください。

- ALL GRIP（4WD）とは、走行状況に応じて任意のモードをスイッチ操作で選択できるシステムです。

ALL GRIPモードスイッチ

エンジンスイッチが“ON”のときに ALL GRIP モードスイッチを操作すると、ALL GRIP（4WD）モードの切替えができます。



61M0081

- ALL GRIP モードスイッチを操作して切り替えた ALL GRIP（4WD）モードは、メーター内のインフォメーションディスプレイに表示されます。
  →ALL GRIP（4WD）モード表示（4WD車のみ）P.**2-66**

ALL GRIPモードスイッチの各位置のはたらき

■ AUTOモード

通常はこのモードを選択してください。

乾燥した舗装路では前輪駆動に近い状態とすることで経済性を高めます。滑りやすい路面では、前輪のスリップを検知し、自動的に4WDに切り替わることで、走行安定性を補助します。

■ SPORTモード

このモードは、AUTO モードと比較して、状況に合わせて積極的に4WDに切り替わるため、ハンドル操作や速度変化が多くなるカーブの多い道や山道などの走行に適しています。また、エンジン回転数をより高く保つため、高速道路での合流や追い越しなどにも適しています。

■ SNOWモード

凍結路や雪道などの滑りやすい路面で走行安定性を確保したい場合は、このモードを選択してください。前後輪に適切な駆動力を発生させることで、カーブ走行時でも挙動が乱れることを抑制します。

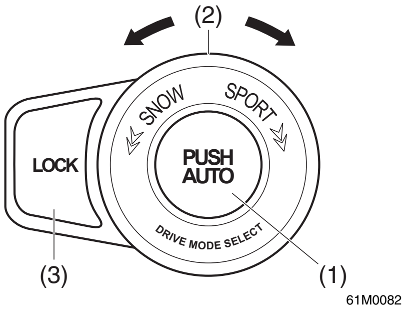
■ LOCKモード

ぬかるみや砂地、雪道などでの立ち往生（スタック）から脱出する場合に、このモードを選択してください。

空転している車輪以外に駆動力を再配分することで、脱出しやすくなります。

ALL GRIPモードスイッチの操作

停車中でも走行中でもALL GRIP（4WD）モードの切替えは可能です。走行中に切り替える場合は、ハンドルを直進状態にします。



(1) AUTOスイッチ
(2) ダイヤル
(3) LOCKスイッチ

■AUTOモード

AUTOスイッチを押します。

■SPORTモード

ダイヤルを時計方向（SPORT側）にまわします。

■SNOWモード

ダイヤルを反時計方向（SNOW側）にまわします。

■LOCKモード

車速約60 km/h以下で切替えできます。

1. ダイヤルを反時計方向（SNOW側）にまわして、SNOWモードに切り替えます。
2. LOCKスイッチを押します。

⚠注意

- **走行中の切替え操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行なってください。**
- **雪道などで前輪を空転させたまま、スイッチ操作をしないでください。**
  車両が思わぬ方向に飛び出すおそれがあります。

ⓘ注記

- **スタックしたときは、LOCKモードに切り替えてください。LOCKモード以外でスタックから脱出しようとすると、駆動装置などが損傷するおそれがあります。また、ESP®OFFスイッチを操作して、トラクションコントロールを作動停止の状態にしてください。**
  →ESP®装備車の取扱い P.**3-47**
- **タイヤの摩耗程度が4輪で著しく異なると、駆動装置に悪影響をあたえるおそれがあります。タイヤがかたよって摩耗するのを防ぐために、タイヤのローテーションを行なってください。**
  →タイヤのローテーション P.**5-8**

アドバイス

- 一度エンジンを止め、再始動するとAUTOモードにもどります。
- LOCKモードで走行中、車速約60 km/h以上になると自動的にSNOWモードに切り替わります。そのあと減速しても、自動的にLOCKモードにもどりません。
- 次のような操作をすると、ショックが発生することがありますが異常ではありません。
  ≫ブレーキや加速、旋回のときなどにスイッチを操作する
  ≫エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にする

4WD警告灯

57L30042

メーター内にあります。
→警告灯・表示灯の見かた P.**1-11**

- 4WD システムに異常があると、エンジンスイッチが“ON”のときに点灯します。このとき、システムは作動停止し、2WD 状態になります。スズキサービス工場で点検を受けてください。
- 次のような状況になると点滅します。このとき、システムは作動停止し、2WD状態になります。
  ≫異径タイヤの装着またはタイヤの空気圧不足の状態で、一定時間走行したとき
  ≫スタックなどで駆動輪が空転し、駆動系部品が過熱したとき。同時にメーター内のインフォメーションディスプレイに「4WD システム高温 2WD(強制)」と表示された場合は、駆動系部品保護のため、すみやかに安全な場所に停車し、アイドリング状態にしてください。しばらくしてシステムが正常な状態にもどると、警告灯が消灯し、メッセージが消えます。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを“ON”にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

注意

点灯したときは、4WD のシステムに異常が考えられます。高速走行を避けてスズキサービス工場に行き、すみやかに点検を受けてください。

アドバイス

点灯または点滅すると、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。→P.**3-37**

インフォメーションディスプレイのメッセージ（4WD車のみ）

→インフォメーションディスプレイ P.**2-65**

4WD システムの異常など、お知らせしたい情報があると、メッセージが表示されます。

- 同時にマスターウォーニング（→P.**1-20**）が点滅し、室内ブザー（ポーン、1回）が鳴ります。
- メッセージが表示されたときは、その指示にしたがってください。

アドバイス

- メッセージの要因が解消されると、表示が消えます。
- メッセージの表示中に、別のメッセージが追加されると、割り込み表示されます。そのあとは、約5 秒ごとに表示が切り替わります。
- メッセージが表示されているときに、メーター右側の表示切替えノブを 2 秒以上長押しすると、もとの画面にもどります。ただし、メッセージの種類によっては、要因が解消されるまでは、約 5秒後にふたたび表示されます。

メッセージ	マスター ウォーニング	ブザー	説明
 61M0267	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	4WDのシステムに異常が考えられます。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。
 61M0268	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	異径タイヤの装着またはタイヤの空気圧不足が考えられます。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。
 61M0269	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	駆動系部品の過熱が考えられます。 ● 安全な場所に停車して、アイドリング状態にしてください。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
 61M0270	点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	このメッセージが表示されたら、スズキサービス工場で点検を受けてください。
 61M0271	点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	車速約60 km/h以上でLOCKモードを選択しようとしています。 ●「ALL GRIPモードスイッチの操作」（→P.**3-36**）をお読みください。
 61M0272	点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	AUTO モード、SPORT モードのときに、LOCK スイッチを押しています。 ●「ALL GRIPモードスイッチの操作」（→P.**3-36**）をお読みください。

メッセージ	マスターウォーニング	ブザー	説明
 61M0273	 点滅	● ポーン ● 1回 ● 室内ブザー	ALL GRIPモードスイッチに異常が考えられます。 ● スズキサービス工場で点検を受けてください。

4WD車を運転するときは

路面の状況に注意して走行する

⚠注意

4WD 車は、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありません。次のことをお守りください。

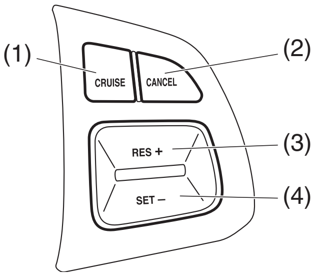
- **砂地やぬかるみなど、タイヤが空転しやすいところでは連続走行しないでください。**
- **ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がありません。滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も、2WD車と同様に慎重に行なってください。**
- **渡河走行や水中走行をしないでください。**

61M0075

クルーズコントロール

アクセルペダルから足を離しても、設定した車速で走行できます。加減速の繰り返しの少ない高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

- セレクトレバーが“D”または“M”位置で使用できます。ただしマニュアルモード時は、ギヤポジションが**3**以上のときだけ使用できます。
  →セレクトレバーの操作 P.**3-13**
- 目標車速は、約45～100 km/hの間で設定できます。
- ハンドル右側のクルーズコントロールスイッチで設定します。



61M0323

(1) クルーズスイッチ
(2) キャンセルスイッチ
(3) RES ＋スイッチ
(4) SET －スイッチ

⚠警告

次のような場所では使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **交通量の多い道や急カーブのある道**
- **凍結や積雪などで滑りやすい路面**
- **急な下り坂。エンジンブレーキが十分に効かず、設定した車速を超えることがあります。**

車速設定のしかた

1. クルーズスイッチを押します。
≫インフォメーションディスプレイ内のクルーズ表示が表示されると、目標車速が設定できる状態（待機状態）になります。

2. アクセルペダルの加減で、目標車速（約45～100 km/hの間）に調節します。

3. SET －スイッチを押します。
≫セット表示が表示されると、アクセルペダルから足を離しても定速走行ができます。

61MS418

(5) クルーズ表示
(6) セット表示

⚠警告

クルーズコントロールを使用しないときは、クルーズスイッチを押してシステムを停止し、クルーズ表示が消えたことを確認してください。誤ってクルーズコントロールを作動させると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

一時的に加減速したいときは

■加速したいとき

アクセルペダルを踏みます。通常走行と同様に加速できます。

- アクセルペダルから足を離すと、自動的にもとの定速走行にもどります。

■減速したいとき

ブレーキペダルを踏みます。定速走行が解除され、セット表示が消えます。（待機状態）

- 車速が約45 km/h以上でSET －スイッチを押すと、セット表示が表示され、自動的にもとの定速走行にもどります。

⚠注意

マニュアルモード時は、シフトダウンしてもギヤポジションが3以上のときは定速走行が解除されないため、エンジンブレーキが効きません。ブレーキペダルまたは車速設定スイッチ操作で減速してください。

目標車速の変えかた

■アクセルペダルを使って
目標車速まで加速し、SET －スイッチを押します。

■ブレーキペダルを使って
目標車速まで減速し、SET －スイッチを押します。

アドバイス

ブレーキペダルを踏んでから再設定するまでは、セット表示が表示されません。(待機状態)

■RES ＋／SET －スイッチを使って
- 加速するときは、RES ＋スイッチを押し続けます。
- 減速するときは、SET －スイッチを押し続けます。

目標車速になったら、スイッチから手を離します。

アドバイス

スイッチを短押しすると、目標車速の微調整（約1.6 km/h）ができます。

定速走行の解除のしかた

■一時的な解除
次のいずれかの操作をするか、または車両がいずれかの状態になると、セット表示が消え、待機状態になります。
- キャンセルスイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む
- 上り坂を走行しているときなどで、目標車速より車速が 2 割程度以上低下したり、約40 km/h以下になったりしたとき
- ESP® 装備車の場合、車が横滑りしそうになったとき（ESP®作動時を含む）

一時的な解除になったときの状況が解消されてから、車速が約45 km/h以上でRES ＋スイッチを押すと、セット表示が表示され、自動的にもとの定速走行にもどります。

■システムの解除
- クルーズスイッチを押してクルーズ表示を消します。
- メーター内のエンジン警告灯が点灯または点滅すると、クルーズ表示が消えてシステムが解除されます。
→エンジン警告灯 P.1-16

アドバイス

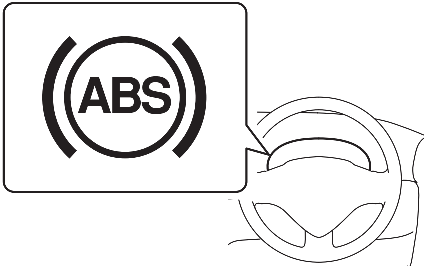
クルーズ表示が消えてシステムが解除されると、設定した目標車速はリセットされます。

ABS装備車の取扱い

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ブレーキをかけたときのタイヤのロックを自動的に防止することで、走行安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

- メーター内のABS警告灯は、エンジンスイッチが“ON”のときに、ABSの電子制御システムに異常があると点灯します。点灯した場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  →ABS警告灯 P.**1-16**



81M40171

⚠警告

- **常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ABSによる制御には限界があります。**
- **ABS は、タイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（※）が起こったりした場合は効果を発揮できません。**
  ※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

制動距離について

ABS は制動距離を短くするものではありません。

⚠注意

- **急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABS がついていない車と同等です。**
- **次のようなときは、ABS のついていない車より制動距離が長くなることがあります。スピードを控えめにして、車間距離を十分にとってください。**
  ≫凸凹道や石だたみなどの悪路
  ≫じゃり道、新雪路
  ≫道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  ≫マンホールなど鉄板の上を通過するとき
  ≫タイヤチェーンの装着時

次のページに続く→

- **急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ（※）をせずに、ブレーキペダルを思い切り強く踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。**
  ※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけかた
- **路面の状況によりますが、約 10 km/h 以下ではABSが作動しません。**

ABS作動時の振動や音

ブレーキペダルを強く踏むと、ブレーキペダル、ハンドル、車体の小刻みな振動を感じることがあります。これはABSの作動によるもので、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

アドバイス

エンジンをかけて発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で、異常ではありません。

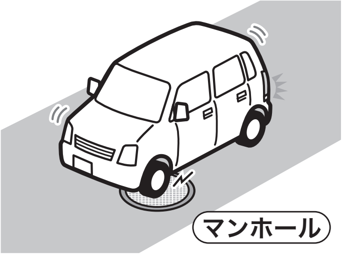
タイヤについて

⚠警告

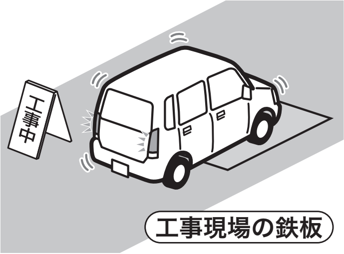
ABS は、各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は、指定のサイズで、4輪ともサイズ、メーカー、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着してください。また、著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しないでください。正確な回転速度が検出できなくなって ABS が正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ABSは、こんな場合にもブレーキをかけると作動することがあります

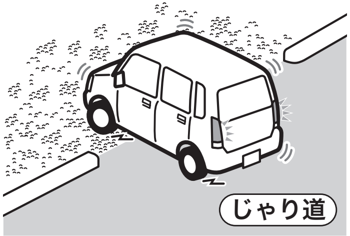
● 滑りやすい路面を走行しているとき



80J1040

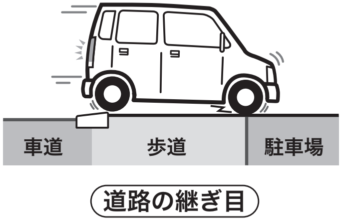


80J1041

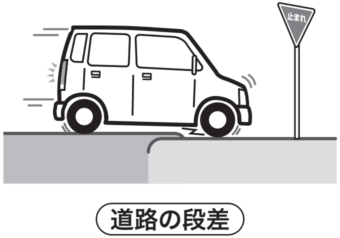


80J1042

● 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき



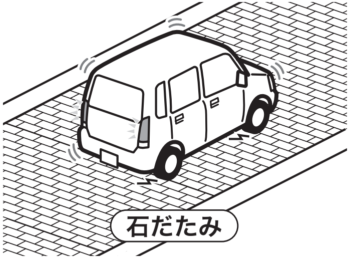
80J1043



80J1044

● 悪路を走行しているとき

80J1045



80J1046

ブレーキアシスト

ブレーキ踏力を補助する装置です。急ブレーキをかけたときに、ABSの効果が十分に発揮されるまでの時間を短縮します。

- しっかりとブレーキペダルを踏まないと、ブレーキアシストは作動しません。
- ブレーキアシストは、本来のブレーキ性能を超えた制御をする装置ではありません。

ESP®装備車の取扱い

ESP®（※）は、ABS、ブレーキアシスト、トラクションコントロール、スタビリティコントロール（横滑り防止機能）などを総合的に制御して、車両の走行安定性を補助しようとするシステムです。

※ESP®は、Electronic Stability Program（エレクトロニック スタビリティ プログラム）の略で、Daimler AG の登録商標です。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

「ABS 装備車の取扱い」（→ P.**3-44**）をお読みください。

■ ブレーキアシスト

ABSのブレーキアシストと同様です。

■ トラクションコントロール

滑りやすい路面での発進時や加速時に起こる駆動輪の過度の空転を、ブレーキ制御およびエンジン出力制御により防ぎ、適切な駆動力を確保しようとする補助機能です。

■ スタビリティコントロール（横滑り防止機能）

急激なハンドル操作をしたり、滑りやすい路面で旋回したりするときの車の横滑りなどを抑制することで、車両の走行安定性を補助しようとする機能です。

⚠警告

常に周囲の状況を確認して、安全運転に努めてください。ESP®による制御には限界があります。

⚠注意

- **次のことをお守りください。**
  守らないと ESP® が正常に作動しなくなったり、誤作動につながったりするおそれがあります。
  - **≫タイヤの空気圧を指定空気圧に調整する**
    →タイヤの空気圧 P.**7-5**
  - **≫タイヤ交換時は指定のサイズで、４輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のものを装着する**
  - **≫著しく摩耗状態の異なるタイヤを使用しない**
  - **≫サスペンションやブレーキを改造しない（車高やサスペンションの硬さ変更など）**
  - **≫サスペンションやブレーキを著しく劣化した状態で走行しない**
  - **≫エンジンを改造しない（マフラーの改造など）**
  - **≫LSD（リミテッドスリップデフ）を装着するなどの改造をしない**
- **タイヤチェーンやスペアタイヤ（市販品）を装着したときなどには、ESP®が正常に作動しない場合があります。**

アドバイス

- 次のような操作をすると、一時的にモーター音やカチッという音が聞こえることがあります。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。
  - ≫エンジンスイッチを“ON”にしたとき
  - ≫ブレーキペダルを踏んだ状態でエンジンスイッチを“ON”にし、最初にブレーキペダルから足を離したとき
  - ≫エンジンをかけたとき
  - ≫エンジンをかけ、最初の発進時
- エンジン回転が高いときにESP®が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。

ESP®作動表示灯

79K019

メーター内にあります。
→警告灯・表示灯の見かた P.**1-11**

- ESP® の電子制御システムに異常があると、エンジンスイッチが“ON”のときに点灯します。点灯中は次のようになりますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。
  - ≫トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しません。
  - ≫ABSは作動します。
  - ≫ブレーキアシストは、故障状況によっては作動しない場合があります。
  - ≫ヒルホールドコントロールは作動しない場合があります。
    →ヒルホールドコントロール P.**3-50**

● 次のような状況になると、0.2 秒間隔で小刻みに点滅します。
≫発進時や加速時にトラクションコントロールが作動している
≫急ハンドル時や旋回時にスタビリティコントロールが作動している

● システムが正常な場合はエンジンスイッチを“ON”にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

注意

小刻みに点滅したときは、滑りやすい路面で、車がスタックまたは横滑りしやすい状態になっています。とくに慎重に運転してください。

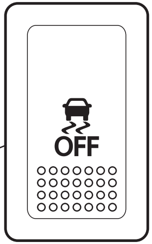
アドバイス

● 点灯すると、メーター内のインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。→P.**2-73**
● 点灯中はトラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しませんが、ABSは使用することができます。

ESP® OFFスイッチ

● 次のようなときは、メーター内の ESP® OFF表示灯が点灯するまでESP® OFFスイッチを押し続けてください。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動しなくなります。
≫車検を受けるときなどテスターに乗せる場合。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールを作動停止の状態にする必要があります。
≫スタックからの脱出などの場合。トラクションコントロールが脱出に適さないときがあります。

● 次のような操作をすると、ESP® OFF表示灯が消灯し、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールが作動可能な状態にもどります。
≫もう一度ESP® OFFスイッチを押す
≫一度エンジンを止め、再始動する

(1)


61MM0A197

(1) ESP® OFFスイッチ

● スタックからの脱出などのあとに通常走行するときは、ESP® OFFスイッチを再度押して ESP® OFF 表示灯を消灯させ、もとの状態にもどしてください。トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは自動復帰しません。（一度エンジンを止め、再始動したときを除く）

アドバイス

安全のため、ESP® OFFスイッチを操作しても、ABS は作動停止の状態になりません。

ESP® OFF表示灯

57L30045

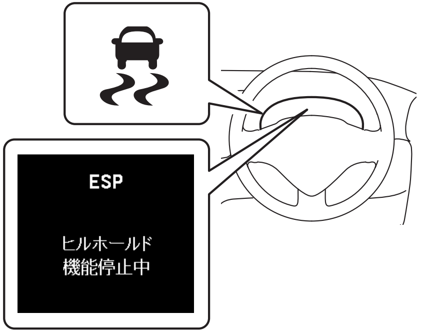
メーター内にあります。
→警告灯・表示灯の見かた P.**1-11**

- エンジンスイッチが“ON”のときに、ESP® OFFスイッチを長押しすると点灯します。
  ≫点灯中は、トラクションコントロールおよびスタビリティコントロールは作動しません。
- システムが正常な場合はエンジンスイッチを“ON”にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

ヒルホールドコントロール

ヒルホールドコントロールは、急な上り坂での発進時に、パーキングブレーキを使用せずにブレーキペダルからアクセルペダルへ踏み替える間、車が後退することを一時的に（約2秒間）防ぎ、スムーズな発進を補助するシステムです。

- ヒルホールドコントロールは、坂道で車を停止させるシステムではありません。
- パーキングブレーキをかけていると作動しません。
- 本システムに異常があると、メーター内のESP®作動表示灯が点灯し、「ヒルホールド機能停止中」のメッセージが表示されます。このとき、ヒルホールドコントロールは作動しません。スズキサービス工場で点検を受けてください。
  →警告灯・表示灯の見かた P.**1-11**
  →インフォメーションディスプレイのメッセージ P.**2-73**



61M0336

警告

- **常に周囲の状況を確認して、必要に応じてブレーキペダルを操作して安全運転に努めてください。ヒルホールドコントロールによる制御には限界があります。**
- **極端に急な坂道、凍結路、泥道を上るときや、積載重量によっては、発進時に車両が後退する場合があります。**
- **ブレーキペダルから足を離したら、すみやかに発進操作を行なってください。ブレーキペダルから足を離したまま2秒以上たつとヒルホールドコントロールが解除されるため、勾配によっては自重で坂道を下り、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、エンストしてブレーキを踏むときに強い力が必要になったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。**

ヒルホールドコントロールの作動条件

ヒルホールドコントロールは、次の条件をすべてみたしているときに、ブレーキペダルから足を離すと約2秒間、車が後退することを防ぎます。

- セレクトレバーが前進または後退の位置に入っている
- パーキングブレーキを解除している
- 進行方向が坂の上りである

アドバイス

作動中にエンジンルームから機械音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

4. 装備の取扱い

主な装備

ボンネット....................................4-1
サンバイザー....................................4-3
室内灯....................................4-4
アクセサリーソケット 4-7
ドリンクホルダー・収納スペース 4-8
そのほかの装備.................................... 4-13
ルーフ.................................... 4-17

エアコン、ヒーター

エアコンの吹出し口 4-18
オートエアコン.................................... 4-19
エアコンの上手な使いかた 4-25

オーディオ

アンテナ.................................... 4-27
オーディオ機能について 4-28
ステアリングオーディオスイッチ 4-29

ボンネット

警告

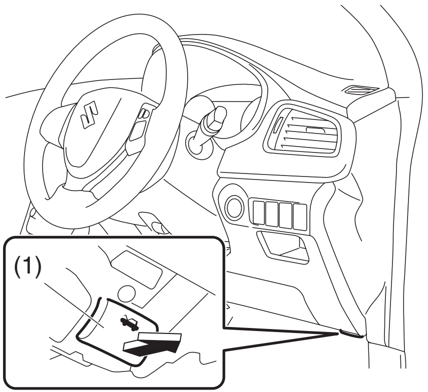
- **お子さまにはボンネットを開閉させないでください。ボンネットは重いため、けがのおそれがあります。また、エンジンルーム内は高温になるため、やけどのおそれがあります。**
- **ボンネットを開けているときは、お子さまを近づけないでください。**
- **点検や清掃に使用した工具や布などは、エンジンルーム内に置き忘れないでください。故障の原因となったり、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながったりするおそれがあります。**

注意

動いているドライブベルトや冷却ファンに近づかないでください、手や髪、衣類などが巻き込まれると、けがのおそれがあります。

開けかた

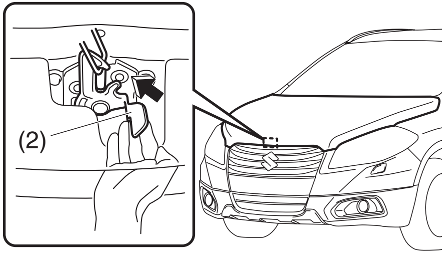
1. 運転席足元のボンネットオープナーを引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。



61M0312

(1) ボンネットオープナー

2. 浮き上がったボンネットのすきまに手を入れ、ロックレバーを左側へ押し付けながら、ボンネットを持ち上げます。



61M0337

(2) ロックレバー

注意

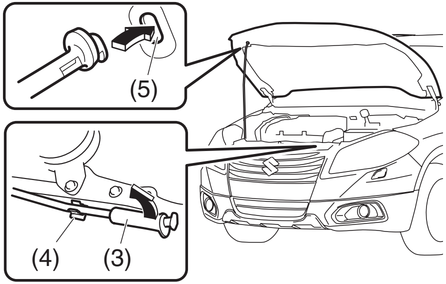
エンジン回転中や停止直後は、ロックレバーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ロックレバーを操作する前に確認してください。

注記

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。ワイパーアームやボンネットが傷つくおそれがあります。

3. ボンネットを固定します。

≫車体側にあるステーをホルダーから外し、ボンネット側の固定穴に差し込みます。



61M0171

(3) ステー
(4) ホルダー
(5) 固定穴

⚠注意

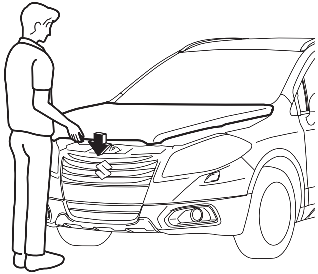
- **エンジン回転中や停止直後は、ステーが熱くなっていることがあります。やけどのおそれがありますので、ステーを持つ前に確認してください。**
- **ステーは固定穴に確実に差し込んでください。ステーが外れると、ボンネットに身体がはさまれることがあります。**
- **ボンネットが風にあおられて、ステーが外れることがあります。とくに風の強い日は注意してください。**

閉めかた

1. ボンネットを片手でささえながら、ステーを外してもとのホルダーに固定します。

2. ボンネットを閉めます。

≫ボンネットを 20 cm ぐらいの高さまでゆっくりと下げて、手を離します。



61M0172

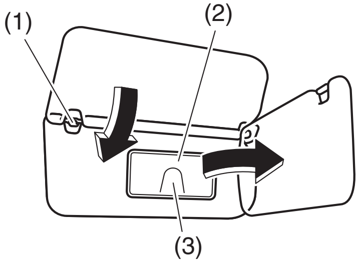
⚠注意

- **ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように気をつけてください。また、強く押さえると、ボンネットがへこむおそれがあります。**
- **ボンネットが完全に閉まっているか確認してください。完全に閉まっていないと、走行中に開くおそれがあります。**

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。

- ミラーカバーの外側にはチケットホルダーがあります。有料道路の通行券などがはさめます。

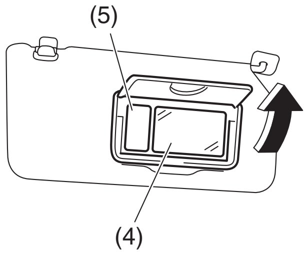


81M50080

(1) フック
(2) ミラーカバー
(3) チケットホルダー

バニティーミラー

ミラーカバーを開けた場所にあります。



61M0173

(4) バニティーミラー
(5) 照明

警告

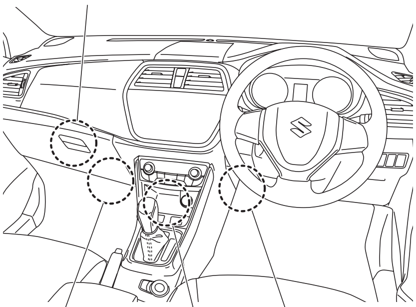
- **走行中はバニティーミラーを使用しないでください。前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。**
- **バニティーミラーを使用するときは、SRS エアバッグの収納場所に近づいたり、寄りかかったりしないでください。SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受けるおそれがあります。**

注記

エンジン停止中にミラーカバーを開けたまま放置しないでください。照明が点灯したままとなり、鉛バッテリーがあがる原因となります。

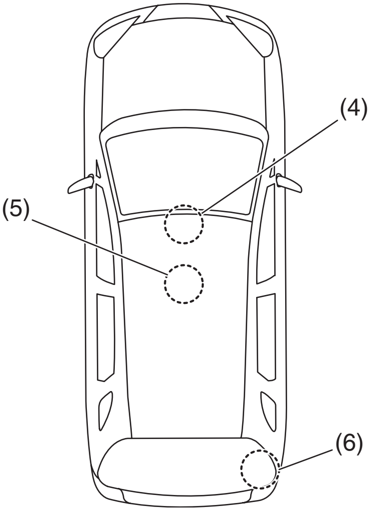
室内灯

— 代表例 —



(1) グローブボックスランプ
(2) 足元照明
(3) インパネポケットランプ

— 代表例 —



(4) 前席室内灯
(5) 後席室内灯
(6) ラゲッジルームランプ

注記

エンジン停止中に長時間点灯させないでください。鉛バッテリーがあがる原因となります。

グローブボックスランプ

グローブボックスを開けている間、点灯します。

→グローブボックス P.**4-13**

足元照明（前席のみ）

点灯方法は、次の3つから選択できます。

- 設定切替えは、インフォメーションディスプレイのセッティングモードで行ないます。→P.**2-70**

■ OFF

点灯しません。

■ ドア連動

室内灯スイッチがDOOR位置にあるときと同様に点灯します。（アンサーバック機能の設定切替え時の室内灯2回点滅を除く）

■ イルミ連動

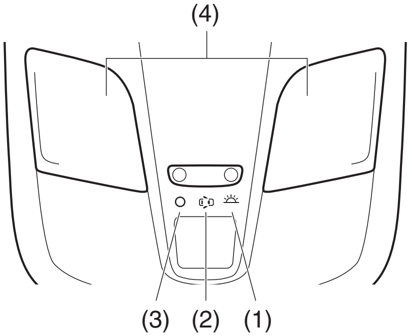
- ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。
- 室内灯スイッチが DOOR 位置にあるときと同様に点灯します。（アンサーバック機能の設定切替え時の室内灯2回点滅を除く）
→アンサーバック機能 P.**2-9**

インパネポケットランプ

ヘッドライトや車幅灯が点灯している間、点灯します。

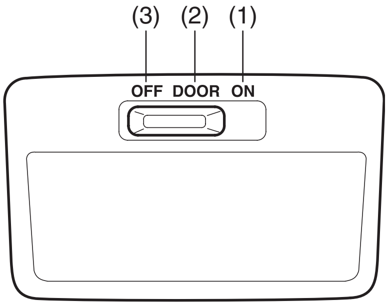
前席／後席 室内灯・ラゲッジルームランプ

〔前席室内灯〕



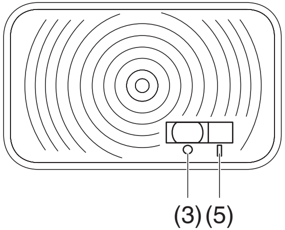
61M0338

〔後席室内灯〕



60M0010

〔ラゲッジルームランプ〕



61M0090

スイッチの位置	点灯のしかた
(1) ON	● ドアの開閉に関係なく点灯します。 ● 鉛バッテリー保護のため、エンジンスイッチが“OFF”の位置で15 分点灯し続けると、自動的に消灯します。(バッテリーセーバー機能)
(2) DOOR	● いずれかのドアを開けると点灯します。 ≫すべてのドアを閉めると約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 ≫15秒間の点灯中に次のような操作をすると、徐々に減光しながら消灯します。 ＞エンジンスイッチを“ACC”または“ON”の位置にする ＞携帯リモコン、リクエストスイッチまたはエマージェンシーキーによる施錠 ● すべてのドアを閉めているときでも、エンジンスイッチを“ON”から“OFF”の位置にすると約15秒間点灯し、徐々に減光しながら消灯します。 ● 鉛バッテリー保護のため、エンジンスイッチが“OFF”の位置で15分点灯し続けると、自動的に消灯します。(バッテリーセーバー機能) ● アンサーバック機能が作動すると、点灯または点滅します。 →アンサーバック機能 P.**2-9**
(3) OFF	ドアの開閉に関係なく消灯します。
(4) スポット	● 室内灯スイッチがDOORまたはOFF位置のときに押すと点灯します。 ≫もう一度押すと消灯します。 ● 鉛バッテリー保護のため、次の状態で15分点灯し続けると、自動的に消灯します。(バッテリーセーバー機能) ≫エンジンスイッチが“OFF”の位置 ≫非常点滅表示灯が点滅していない
(5) バックドア	バックドアを開けると点灯します。 ● バックドアを閉めると消灯します。

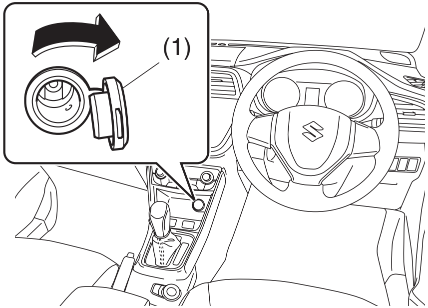
アクセサリーソケット

インパネポケット内と荷室右側の2か所にあります。

- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、電気製品の電源として使用できます。使用できる電気製品の規定容量は12 V 10 A（120 W）以下です。
- 使用するときは、ふたを開けます。

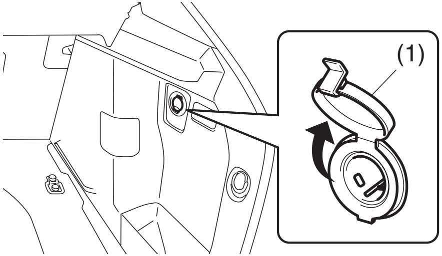
〔インパネポケット内〕

— 代表例 —



61M0275

〔荷室右側〕



61M0092

(1) ふた

警告

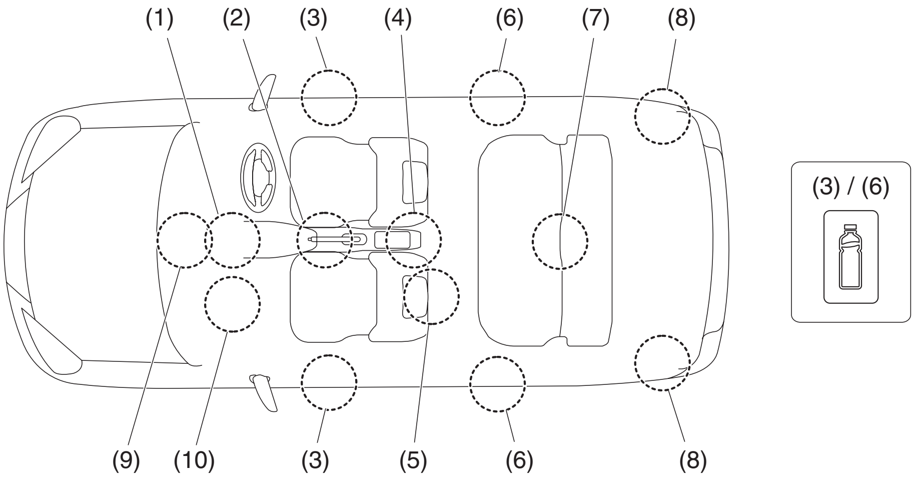
- **使わないときは、ふたを閉めてください。ソケット内に異物が入ると、故障やショートの原因となります。**
- **事故防止のため、スズキ純正用品以外の電気製品を使用しないでください。**

注記

- **規定容量は、両方のソケット合計で120 W以下です。規定容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れることがあります。**
- **エンジン停止中に長時間使用すると、鉛バッテリーがあがる原因となります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。**

ドリンクホルダー・収納スペース

— 代表例 —



(1) インパネポケット
(2) 前席ドリンクホルダー
(3) ペットボトルホルダー（前席）
(4) コンソールボックス付アームレスト（前席）
(5) シートバックポケット（助手席）
(6) ペットボトルホルダー（後席）
(7) ドリンクホルダー付アームレスト（後席）
(8) ラゲッジポケット
(9) オーバーヘッドコンソール
(10) グローブボックス

アドバイス

携帯リモコンをいずれかのドリンクホルダー・収納スペースに置いた場合、検知できないことがあります。

ドリンク／ペットボトルホルダーの取扱い

- 前席ドリンクホルダー
- ペットボトルホルダー（前席／後席）
- ドリンクホルダー付アームレスト（後席）

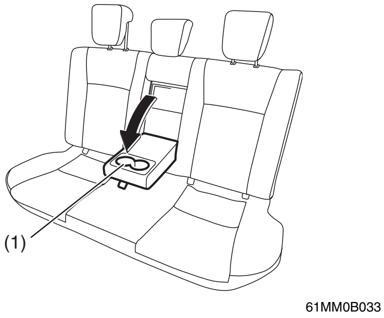
警告

- **飲み物には、ふたを閉めるなどしてこぼさないように注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどのおそれがあります。また、飲み物が次のような部品にかかると、火災や故障の原因になったり、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったりするおそれがあります。**
  - **≫ナビゲーション、またはオーディオやスイッチ類**
  - **≫フロア下の配線、電気部品やセレクトレバーなどの可動部**
- **前席ドリンクホルダーに、缶ジュースやカップ以外のものを置かないでください。走行中に落ちてけがをしたり、運転のさまたげになったりするおそれがあります。**

■ドリンクホルダー付アームレスト（後席）

手前に倒して使用します。

- 使用後は、持ち上げて収納します。



(1) ドリンクホルダー

警告

シートベルトは、アームレストの下を通してください。アームレストにシートベルトがかかっていると、シートベルトが本来の効果を発揮できません。

— 代表例 —

注意

- **アームレストに腰をかけたり、荷物を載せたりしないでください。アームレストが破損するおそれがあります。**
- **お子さま用シートを取り付けるときにアームレストが当たる場合は、背もたれに収納してください。**

ふたがない収納スペースの取扱い

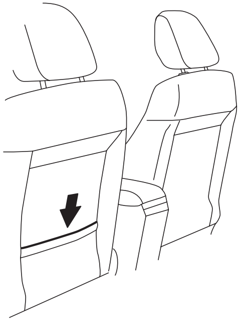
- インパネポケット
- シートバックポケット（助手席）

警告

ふたがない収納スペースの場合、走行中に転がり落ちるようなものを入れないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

■ シートバックポケット（助手席）

雑誌や手荷物などの収納にご使用ください。



60M0012

注記

シート表皮を破損するような鋭利なものや、重たいものを収納しないでください。

ふた付収納スペースの取扱い

- コンソールボックス付アームレスト（前席）
- ラゲッジポケット
- オーバーヘッドコンソール
- グローブボックス

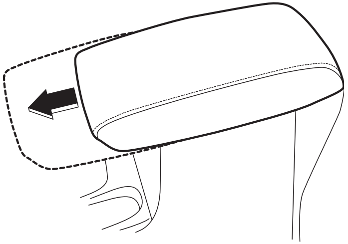
注意

ふた付収納スペースの場合、ふたを開けたまま走行しないでください。（ラゲッジポケットを除く）ブレーキや加速、衝突のときなどに、身体がふたに当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあります。

■コンソールボックス付アームレスト（前席）

〔アームレスト〕

前方にスライドできます。

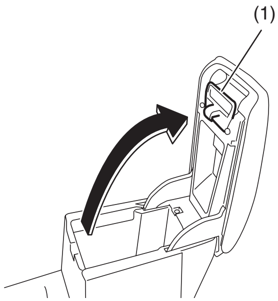


61MM0B029

〔コンソールボックス〕

手回り品や小物などの収納にお使いください。

- 開けるときは、レバーを引き上げたまま、ふたを持ち上げます。
- ものを出し入れするとき以外は、ふたを閉めてください。



61MM0B030

(1) レバー

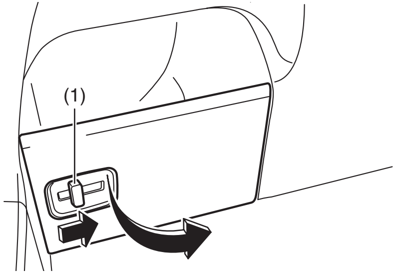
■ラゲッジポケット

荷室の左右側面にあります。手回り品などの収納にお使いください。

- 仕切り板を外すと、より長い荷物が横方向に積めます。

〔仕切り板の外しかた〕

レバーを車の前方向にスライドさせて固定を解除してから外します。



61MM0B034

(1) レバー

〔もとにもどしたときは〕

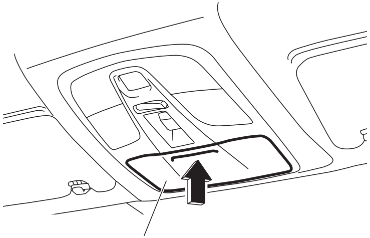
レバーを車の後ろ方向にスライドさせて固定します。

- もどしたら軽くゆすって、しっかりと固定されているか確認してください。

■ オーバーヘッドコンソール

手回り品や小物などの収納にお使いください。

- 開けるときは、ふたの矢印部分を押します。
- 閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。



(1) ふた

⚠警告

炎天下で駐車するときは、オーバーヘッドコンソール内にライターやスプレー缶、熱に弱いプラスチック製品（メガネやカード、CD ケースなど）や精密機器を入れないでください。ボックス内が高温になるため、ライターやスプレー缶の自然発火や爆発による火災、メガネやカード、CD ケースなどの変形やひび割れを起こすおそれがあります。

⚠注意

次のことをお守りください。

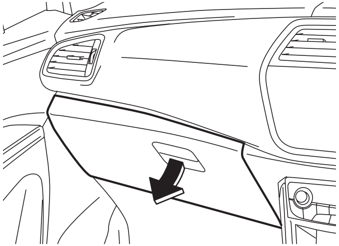
守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- **ふたを開けたまま走行しない**
- **走行中にふたの開閉をしない**
- **オーバーヘッドコンソールの中に堅いものや鋭利なものを入れない**

ⓘ注記

- **オーバーヘッドコンソールの最大収納重量は250 gです。この重量以下でご使用ください。収納可能重量を超えると、オーバーヘッドコンソールボックスが損傷するおそれがあります。**
- **ふたを開けた状態からさらに開く方向へ力をかけないでください。オーバーヘッドコンソールが破損するおそれがあります。**

■ グローブボックス

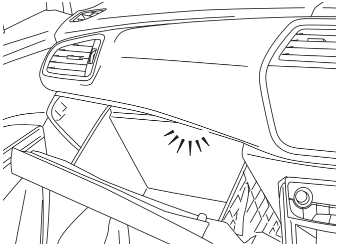


61M0324

- レバーを手前に引いてふたを開けます。
- 閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

〔グローブボックスランプ〕

ふたを開けている間、点灯します。



61M0325

注記

エンジン停止中に、ふたを開けたまま放置しないでください。ランプが点灯したままとなり、鉛バッテリーがあがる原因となります。

アドバイス

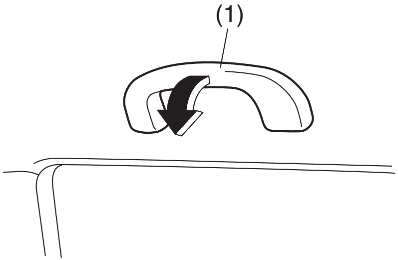
鉛バッテリー保護のため、次の条件をみたすと、自動的に消灯します。（バッテリーセーバー機能）

- エンジンスイッチが“OFF”の位置
- 非常点滅灯スイッチがOFF位置
- ヘッドライトや車幅灯が消灯
- 点灯したまま15分が経過

そのほかの装備

可倒式アシストグリップ

手前に倒して使用します。

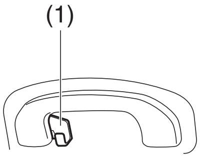


80J1233

(1) アシストグリップ

コートフック

後席左右のアシストグリップの内側にあります。洋服など軽いものをかけるときにご使用ください。



61M0097

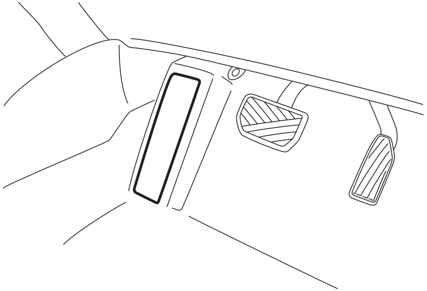
(1) コートフック

注記

フックにかけるものは、2kg以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

フットレスト

左足のささえとして使用します。

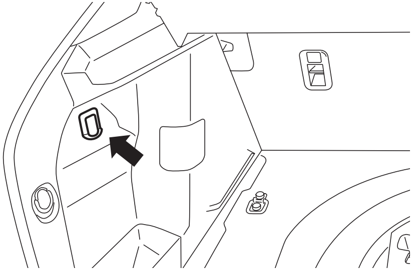


61M0223

荷室フック

■ ショッピングフック

買い物袋などをひっかけるときにご使用ください。



61MM0B106

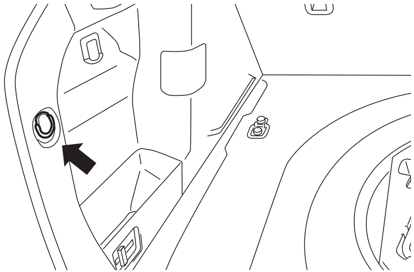
注記

フックにかけるものは、2 kg 以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

■ ネットフック

ネット（別売り）などで荷物を固定するときにご使用ください。

- バックドア開口部側面に2個あります。
- 使用するときは、フックを引き出します。
- 使用しないときは、フックを格納してください。



61MM0B107

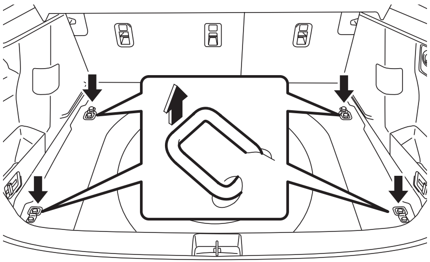
注記

フックにかける荷物は、ネットを含めて10 kg以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

■ ロープフック

ラッシングベルト（別売り）などで荷物を固定するときにご使用ください。

- 荷室床面に計4個あります。
- 使用するときは、フックを引き出します。
- 使用しないときは、フックを格納してください。



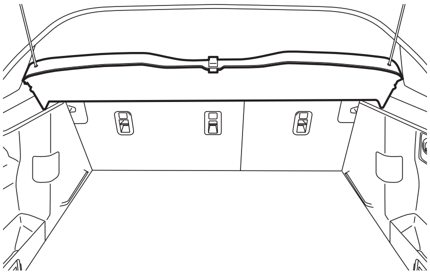
61MM0B108

注記

フックに固定する荷物は、40 kg以下としてください。フックが破損するおそれがあります。

ラゲッジシェルフ（荷室カバー）

後席の後ろにあります。



61MM0B109

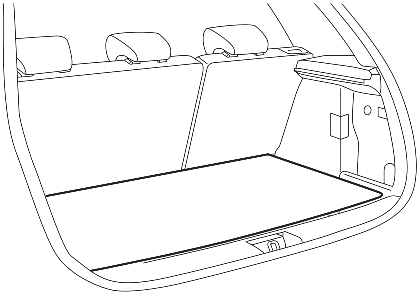
注意

ラゲッジシェルフにものを載せないでください。後方視界をさまたげるばかりでなく、急ブレーキのときなどにものが飛び出して、身体に当たるおそれがあります。

ラゲッジボード

荷室にあります。

- ボードの下にも荷物が収納できます。
- ボードを取り外すと、背の高い荷物が積めます。



61MM0B035

注意

- **後席よりも高い位置に荷物を積み重ねないでください。後方視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキのときなどに荷物が飛び出して、身体に当たるおそれがあります。**

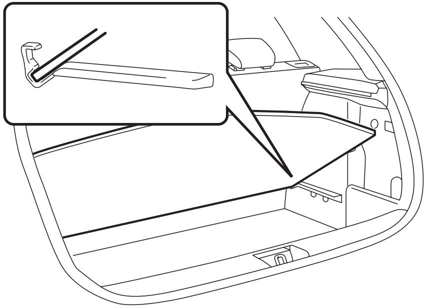
61M0316

- **バックドアを閉めるときに、ドアに当たらないように荷物を積んでください。ドアや荷物が破損するおそれがあります。**

■持ち上げたままにするときは

ボード下の荷物を出し入れするときに便利です。

- ボードを荷室前方の両側にある溝に沿って差し込みます。



61MM0B036

注記

持ち上げたボードに無理に力をかけたり、持ち上げたまま走行したりしないでください。ボードや内装が破損するおそれがあります。

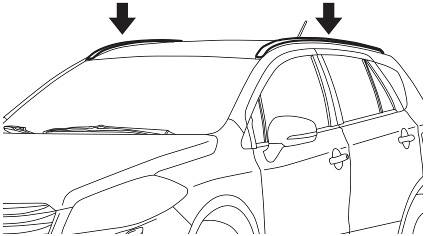
ルーフ

スズキ純正のベースキャリアおよびアタッチメント（別売り）の場合、ルーフに積載できる最大重量は 30 kg（ベースキャリアおよびアタッチメントの重量を含む）です。取り付けおよび使用上の注意についての詳細は、ベースキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書をお読みください。

注記

ルーフパネルの上に荷物を直接積まないでください。パネルが損傷するおそれがあります。

ルーフレール

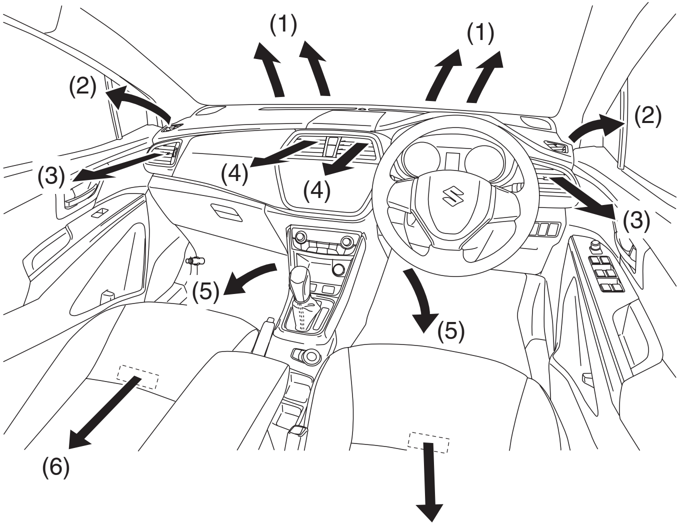


61MM0B037

ルーフレールに別売りのベースキャリヤおよびアタッチメントを装着すると、ルーフの上にスキーや自転車などの荷物が積めます。

エアコンの吹出し口

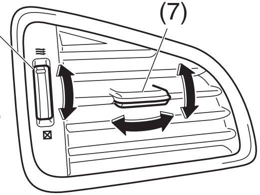
— 代表例 —



61M0317

(1) デフロスター
(2) サイドデミスター
(3) サイド吹出し口
(4) 中央吹出し口
(5) 足元吹出し口
(6) 後席足元吹出し口（リヤヒーターダクト）（タイプ別装備）

〔サイド吹出し口〕

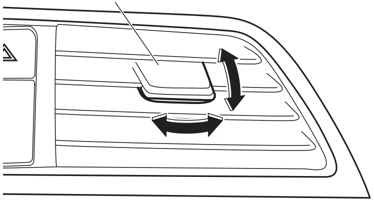


61M0339

(7) ノブ
(8) ダイヤル

- ノブを上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。
- ダイヤルを上下に動かすと、吹き出し口の開閉ができます。

〔中央吹出し口〕

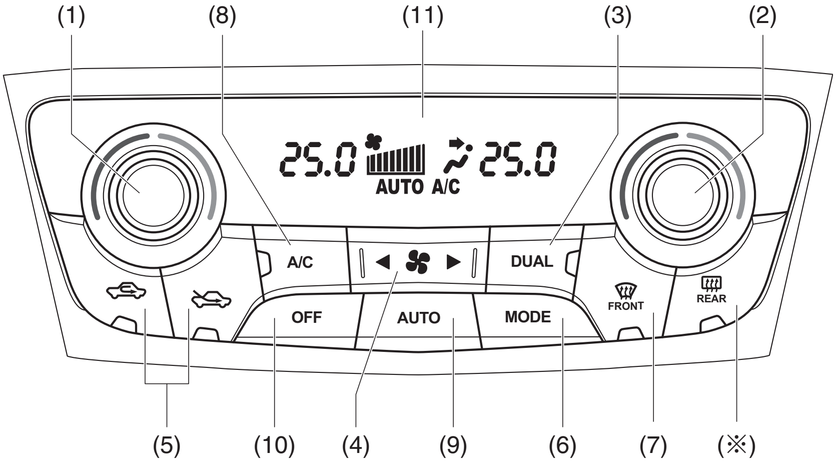


61M0340

(9) ノブ

- ノブを上下左右に動かすと、風の向きが調節できます。

オートエアコン



(1) 助手席側温度調節ダイヤル
(2) 運転席側温度調節ダイヤル
(3) DUALスイッチ
(4) ファン(風量)調節スイッチ
(5) 内外気切替えスイッチ
(6) モード（吹出し口）切替えスイッチ
(7) デフロスタースイッチ
(8) エアコンスイッチ
(9) オートスイッチ
(10) OFFスイッチ
(11) ディスプレイ

※「リヤデフォッガースイッチ」（→P.**2-92**）をお読みください。

オートエアコンの使いかた

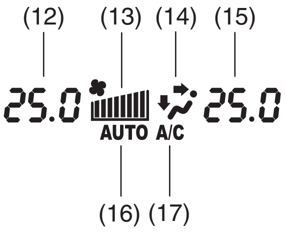
■通常の使いかた（自動で使うとき）

次の手順で希望の温度を設定すると、各機能が自動で制御されます。ただし、デフロスター位置へは自動で切り替わりません。

→オートスイッチ P.**4-23**

1. エンジンをかけ、オートスイッチを押します。ディスプレイに次のように表示されます。

— 代表例 —



60M0016

(12) 助手席側設定温度
(13) 風量
(14) 吹出し口
(15) 運転席側設定温度
(16) **AUTO**表示
(17) **A/C**表示

≫冷房や除湿をしないときは、エアコンスイッチを押してエアコンを止めてください。エンジンへの負荷が軽減され、燃費の向上につながります。ただし、エアコンを止めると、室内温度を外気温度以下にはできません。

≫フロントガラス、運転席・助手席ドアガラスがくもったときは、デフロスタースイッチを押すか、モード（吹出し口）切替えスイッチを押して「デフロスター／足元」位置へ切り替えてください。

→モード（吹出し口）切替えスイッチ P.**4-22**
→デフロスタースイッチ P.**4-24**

2. 運転席側温度調節ダイヤルをまわして希望の温度を設定します。設定温度はLO、18℃～32℃、HIの間で、0.5℃間隔で設定できます。

≫25 ℃を基準に、希望の温度に設定してください。ただし、冷房能力や暖房能力を超える場合は、希望の設定温度にならないことがあります。

アドバイス

独立モードにすると、運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節できます。

→DUALスイッチ P.**4-23**

3. 作動を停止するときは、OFFスイッチを押します。

アドバイス

- エンジンを停止しても設定温度を記憶しています。
- AUTO作動中に、ファン（風量）調節スイッチ、モード（吹出し口）切替えスイッチのいずれかを押すと、押したスイッチの機能が優先されて **AUTO** 表示が消えます。ただし、押したスイッチ以外は自動制御となります。
- AUTO作動中に、デフロスタースイッチを押すと **AUTO** 表示が消えて風量が増加し、外気導入となってエアコンが作動します。ただし、外気温が低いと、エアコンが作動しないこともあります。
- 外気温が低くエンジンが冷えているときや、外気温が高いときは、冷風や熱風が吹き出すのを防ぐため、しばらくの間、風が少量しか吹き出さないことがあります。
- エンジンスイッチが“ON”のときに **AUTO**表示が点滅したときは、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

■ 手動で使うとき

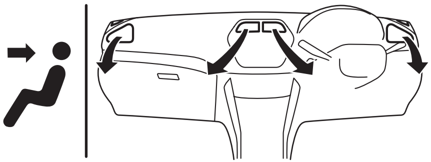
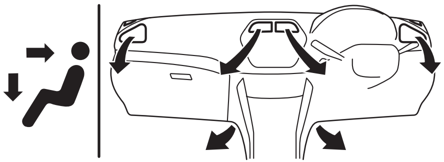
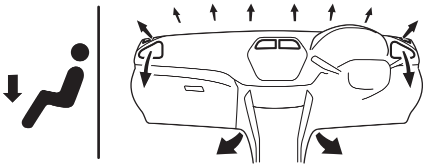
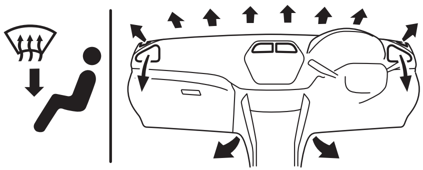
好みにあわせてダイヤルやスイッチを操作してください。

- AUTO作動中でも、操作したスイッチの機能が優先され、操作したスイッチ以外は自動制御されます。
- すべての作動を AUTO にもどすときは、オートスイッチを押します。
- 止めるときは、OFF　スイッチを押します。

各スイッチ、ダイヤルの使いかた

■ モード（吹出し口）切替えスイッチ

モード（吹出し口）切替えスイッチを押すごとに吹出し口が切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。

上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
 61M0100	 61M0101
足元に送風したいとき	**足元への送風と、窓ガラスのくもりを取りたいとき**
 61M0102	 61M0103

アドバイス

運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりがとれます。

■ 内外気切替えスイッチ

対応するスイッチを押すと、内気循環／外気導入を切り替えることができます。

- 押したスイッチ側の表示灯が点灯します。

スイッチ	状態
（外気導入）	外気を導入しています。 通常はこの位置でお使いください。
（内気循環）	外気をしゃ断しています。 トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

アドバイス

- 長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。
- 外気と内気の温度差により、外気導入、内気循環のどちらかに固定される場合があります。必要に応じて、いずれかのスイッチを押して切り替えてください。
- エアコンシステムへの不快な臭いの吸着・発生を抑えるために、長時間駐車するときは「外気導入」にしておくことをおすすめします。

■ オートスイッチ

オートスイッチを押すと、ディスプレイに**AUTO A/C**が表示され、次の機能が自動制御されます。

- 吹出し風量の調節
- 吹出し口の切替え
- 内気循環／外気導入の切替え

■ DUALスイッチ

DUALスイッチを押すごとに、独立モードと連動モードが交互に切り替わります。

〔独立モード〕

スイッチ内の表示灯が点灯します。

- 運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節できます。

〔連動モード〕

スイッチ内の表示灯が消灯します。

- 運転席側温度調節ダイヤルで、運転席側と助手席側の設定温度を連動して調節できます。

アドバイス

連動モードのときに、助手席側温度調節ダイヤルをまわすと、独立モードに切り替わります。

■ 運転席側／助手席側温度調節ダイヤル

温度調節ダイヤルをまわすと、LO、18℃～32℃、HIの間で設定温度を変更できます。運転席側と助手席側の設定温度は、ディスプレイに表示されます。

- ダイヤルを 18 ℃から反時計方向にまわすと、ディスプレイにLOが表示され、最大冷房となります。また、ダイヤルを32℃から時計方向にまわすと、ディスプレイに HI が表示され、最大暖房となります。

〔独立モードのとき〕

運転席側温度調節ダイヤルまたは助手席側温度調節ダイヤルをまわして設定します。

〔連動モードのとき〕

運転席側温度調節ダイヤルをまわして設定します。

アドバイス

LOまたはHIが表示されているときは、急に風量が最大となったり、急に吹出し温度が変化したりする場合がありますが、異常ではありません。

■ファン（風量）調節スイッチ

ファン（風量）調節スイッチを押すと、風量が調節できます。風量はディスプレイに表示されます。

- 風量を大きくするときは ▶ 側、風量を小さくするときは ◀ 側を押します。
- 連続調節するときは、長押しします。
- ファンを停止するときは、OFFスイッチを押します。

■エアコンスイッチ

ファン作動中に使用できます。

- エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房・除湿機能）の作動と停止が交互に切り替わり、ディスプレイの表示も切り替わります。
- エアコン作動中は、スイッチ内の表示灯が点灯します。

〔除湿暖房〕

暖房しているときにエアコンスイッチを入れると、除湿された温風が吹き出して、ここち良い暖房になります。

アドバイス

- 装置保護のため、エアコンの冷却器を通る空気の温度が０℃近くまで下がると、エアコンが切れます。このため、外気温が0℃近くまで下がっているときに外気導入にすると、エアコンが作動しません。
- エアコンスイッチを入れると、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これはしめった空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

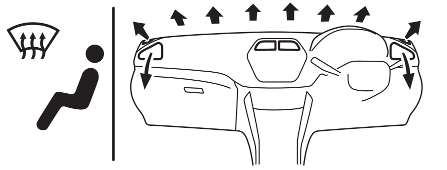
■デフロスタースイッチ

デフロスタースイッチを押すと、自動的にエアコンが作動し、吹出し口が切り替わります。同時にスイッチ内の表示灯が点灯し、ディスプレイの表示も切り替わります。

もう一度押すと、デフロスタースイッチを押す前の制御にもどります。（オート制御の場合、吹出し口や内外気、風量の状態が変わることがあります）

- 内気循環になっているときは、外気導入に切り替わります。
- 風量が自動的に増加します。ファン（風量）調節スイッチを押して、好みの風量にも調節できます。
- エアコンが必要ないときは、エアコンスイッチを押して停止してください。

窓ガラスのくもりを取りたいとき



61M0106

アドバイス

- 内気循環に切り替えると、くもりが取れにくくなります。
- 設定温度を低くすると、窓ガラスの外側に露がつくことがあります。
- 設定温度を高くすると、早くくもりが取れます。
- スイッチ内の表示灯は吹出し口表示がデフロスター位置にあると、ファンやエアコンを停止させた状態でも点灯します。
- 運転席や助手席のドアガラスがくもったときは、ドアガラスに風が直接当たるようにサイド吹出し口を調節すると、より早くくもりがとれます。

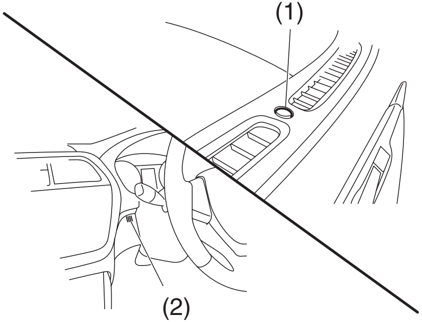
■ OFFスイッチ

OFFスイッチを押すと、ファンが停止してエアコンも止まります。

エアコンの上手な使いかた

温度感知装置

オートエアコンは、日射センサー、室温センサー、外気温センサーなどによって周囲の状況を感知し、自動制御しています。



(1) 日射センサー（デフロスター付近）
(2) 室温センサー（ハンドル付近）

アドバイス

日射センサーの上や周囲にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけたままにしたりしないでください。また、室温センサーにシールなどを貼って、ふさがないでください。センサー感度が低下し、正常に自動制御されなくなります。

エアコンガスを充填するときは

エアコンガスは、必ず冷媒 HFC134a（R134a）を使用してください。

- エアコンガスを充填するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 地球環境を守るため、エアコンガスを大気中に放出しないでください。エアコンの修理や廃車時の処理は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- 冷房性能が低下してきたと感じた場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

長期間使用しないときは

月に1 回程度はエアコンを作動させ、エアコン装置の各部にエアコンガスを循環させてください。エアコンガスには各部の潤滑に必要なオイルが含まれていますので油ぎれを防ぐことにより性能を維持します。

炎天下に駐車したときは

長時間、炎天下に駐車すると、室内が高温になります。ドアや窓を開けて室内を換気しながら、冷房をしてください。

エアフィルターを清掃、交換するときは

エアコンを快適に使用するために、エアフィルターを取り付けています。エアフィルターは定期的に清掃、交換してください。

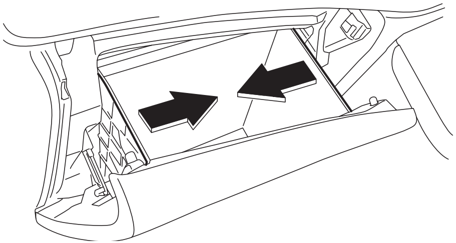
地域	清掃時期の目安	交換時期の目安
寒冷地、粉じんの多い地域	**5,000 km** ごと、または **6か月**ごと	車検ごと
上記以外の地域	**10,000 km** ごと、または **12か月**ごと	車検ごと

アドバイス

- エアフィルターを清掃または交換の際は、車内部品を破損するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での清掃／交換（有料）をおすすめします。
- 新しいエアフィルターはスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

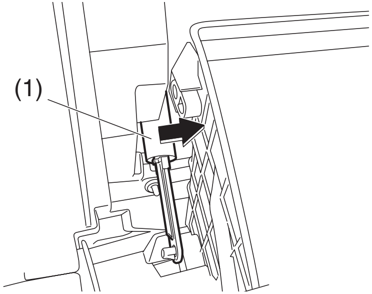
■ エアフィルターの取り外し

1. グローブボックスの側面を矢印の方向に押し込み、グローブボックス上部の固定を外します。



61M0318

2. グローブボックス下部外側にあるダンパーを矢印の方向に押して、取り外します。



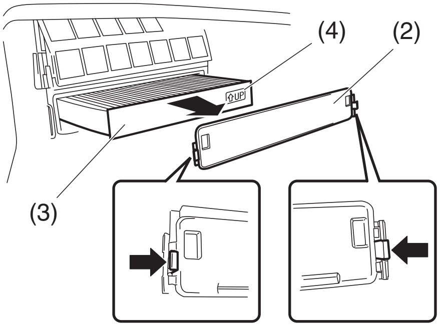
61M0109

(1) ダンパー

3. ホルダーを外し、エアフィルターを引き抜きます。

≫ホルダーは、両側のつめを矢印の方向に押して外します。

— 代表例 —



61M0110

(2) ホルダー
(3) エアフィルター
(4) 取り付け方向マーク

■ エアフィルターの取り付け

「**エアフィルターの取り外し**」と逆の手順で行ないます。

- エアフィルターは、取り付け方向マークの矢印を上向きにして挿入してください。

アンテナ

アドバイス

アンテナで受信できるラジオの電波は使用環境により変わるため、ビルの谷間などでは良好な受信状態を保てないことがあります。

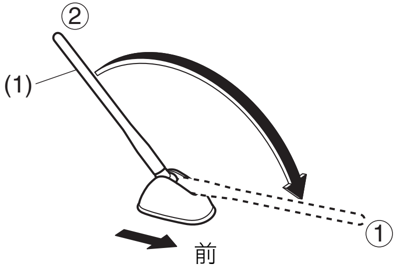
ルーフアンテナ

車両後部にあります。

■ 調節

アンテナの位置は2段階に調節できます。

- 調節はアンテナを手で動かして行ないます。
- ラジオを聞くときは、②の位置に固定してください。①の位置に倒れていると、電波の受信が正常にできないことがあります。



61M0341

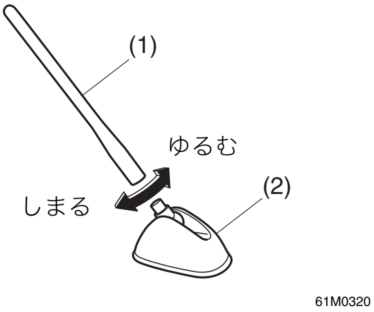
(1) アンテナ

注記

車庫の天井などにアンテナが当たるときは、①の位置に倒してください。

■ 脱着

- 取り外すときはアンテナを反時計方向にまわします。
- 再び取り付けるときは手でアンテナをベース部にねじ込み、しっかりと取り付けてください。



(2) ベース部

注記

次のようなときには、アンテナを取り外してください。アンテナを損傷するおそれがあります。

- **自動洗車機にかけるとき**
- **ボディカバーをかけるとき**
- **降雪時に長時間駐車するとき**

オーディオ機能について

安全運転のさまたげにならない音量でお聞きください

- 音楽などを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用すると、スピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。これは故障ではありません。
- ナビゲーションまたはオーディオが不法電波の影響を受けると、正常に作動しないことがあります。
- ナビゲーションまたはオーディオの機能については、付属の取扱説明書をお読みください。

警告

走行中はナビゲーションまたはオーディオを操作しないでください。操作に気を取られて、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

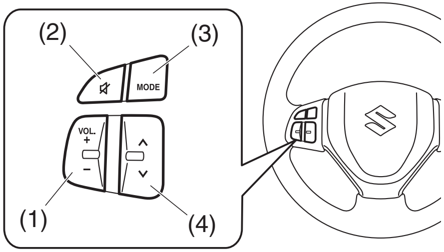
注記

エンジンを停止したまま長時間ナビゲーションまたはオーディオを使うと、鉛バッテリーがあがる原因となります。

ステアリングオーディオスイッチ

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、手元でオーディオまたはナビゲーションの操作ができます。

- ご使用のオーディオまたはナビゲーション本体による操作については、付属の取扱説明書をお読みください。
- ご使用のオーディオまたはナビゲーションによっては、操作内容が異なる場合があります。



61M0148

(1) 音量調節スイッチ
(2) ミュートスイッチ
(3) モードスイッチ
(4) 選局（選曲）スイッチ

音量調節スイッチ

音量が調節できます。

- 大きくするときは**＋**側を押します
- 小さくするときは**－**側を押します
- 連続調節するときは、**＋**または**－**側を長押しします

ミュートスイッチ

ミュートスイッチを押すと、ラジオを消音できたり、CD やUSB などの演奏を一時停止できたりします。

- もう一度押すと、消音が解除されたり、演奏が再開されたりします。

モードスイッチ

モードスイッチを押すたびに、モード（ラジオやCDなど）が切り替わります。

- オーディオまたはナビゲーション本体の電源が切れているときにスイッチを押すと、電源が入ります。

選局（選曲）スイッチ

次の表のように、各モードの操作ができます。

使用モード	スイッチの短押し	スイッチの長押し
ラジオ	プリセット選局（P.CH）（※1）	自動選局（SEEK）（※2）
CD USB（iPod®）	トラック（曲）の選択	早送り／早戻し（※3）

※1 プリセットメモリー（放送局のメモリー）については、オーディオまたはナビゲーションに付属の取扱説明書をお読みください。

※2 受信電波が弱いところでは、自動選局ができないことがあります。自動選局を取り消したいときは、選局スイッチをもう一度押してください。

※3 ご使用のオーディオまたはナビゲーションによっては、長押ししても早送り／早戻しされないことがあります。

5. 車との上手なつきあいかた

お手入れ

出発の前に（お車の確認）..........................5-1
荷物を積むときは 5-2
外装のお手入れ.................................5-3
内装のお手入れ.................................5-6
タイヤの点検・交換 5-7
エアクリーナーフィルターの交換 5-9

寒冷時の取扱い

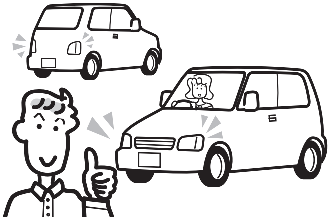
冬期に入る前の準備 5-10
出発の前に..................................... 5-11
雪道を走行するとき 5-12
駐車するとき................................... 5-13
タイヤチェーンを装着するとき 5-15

そのほか

こんなことにも注意して 5-16

出発の前に（お車の確認）

日常点検を確実に



64L20180

車の走行距離、使用状態から判断した適切な時期に実施してください。
→メンテナンスノート（日常点検）

こんな症状に気づいたときは

80J009

注意

次のような場合はスズキサービス工場で点検を受けてください。

- **地面に油や液の漏れたあとが残っている**
- **ブレーキ液が不足している**
- **いつもと違うにおい、音、振動がある**
- **ハンドルやブレーキを操作したときの感じがいつもと違う**

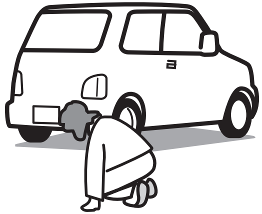
バッテリーを点検して

■ 鉛バッテリー

この車に装備されている鉛バッテリーは、メンテナンスフリータイプです。

- メンテナンスフリータイプの鉛バッテリーは、バッテリー補充液の補給は不要ですが、ときどきバッテリーの状態を点検する必要があります。詳しくは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

排気管も点検



80J011

排気管に穴やひび割れがないか、ときどき点検してください。

⚠警告

排気管に漏れがあると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒のおそれがあります。異常を感じたときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

荷物を積むときは

荷物の積みすぎは、車体や走行に悪影響をおよぼします。

⚠警告

- **燃料や薬品が入った容器、スプレー缶などを車内に持ち込まないでください。引火や爆発のおそれがあります。**

61M0112

- **インパネの上にものを置かないでください。運転視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いたりして、安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故で助手席 SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、助手席SRSエアバッグがふくらんだときに飛ばされたりして、けがのおそれがあります。**

61M0113

注意

● 車内に荷物を積み重ねないでください。視界のさまたげになるばかりでなく、急ブレーキで荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

61M0114

● 動物を乗せるときは、動きまわらないように注意してください。運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

外装のお手入れ

塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには、日頃のお手入れが大切です。

● 駐車、車の保管は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

● 次のようなときはサビや塗装の変色などの原因となります。すみやかに洗車をしてください。

≫海岸地帯や凍結防止剤を散布した道を走行したとき。とくに車体の下まわり、足まわりを洗車してください。

≫鳥のふん、虫の死がい、樹液、鉄粉、ばい煙、コールタールなどが付着したり、酸性雨に濡れたりしたとき。

≫ほこりや泥でひどく汚れたとき。

● ワックスがけは月に1回程度、または水のはじきが悪くなったら行なってください。ワックスがけのしかたは、ワックス（別売り）の容器に書かれている取扱説明にしたがってください。

80J302

● 飛び石の傷や、ひっかき傷などはサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。

注記

塗装面の傷を補修するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。不適切な塗料を使用すると、塗装がはがれる原因となります。

洗車のときのご注意

⚠注意

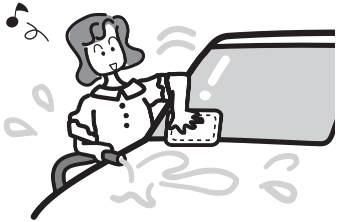
- **車体の下まわりや足まわりを洗うときは、けがをしないように気をつけてください。**
- **洗車したあとはブレーキの効きが悪くなることがあります。**
  →水たまりを走行したあとや洗車後はブレーキの効きを確認 P.3-29

注記

エンジンルームに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品が故障する原因となります。

手洗い洗車をするときは

1. 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のようなやわらかいものを使って汚れを洗い落とします。
2. 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って洗剤を落とします。
3. やわらかい布で水をよくふき取り、水滴のあとが残らないようにします。



80J303

自動洗車機を使うときは

注記

- **ドアミラーを格納し、アンテナを取り外してください。洗車機にひっかかり、ドアミラーやアンテナを損傷するおそれがあります。**
- **ルーフエンドスポイラー装備車は、自動洗車機での洗車を避けてください。洗車機にひっかかり、スポイラーを損傷するおそれがあります。**
- **自動洗車機によっては、ブラシで傷がついて塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化が早まったりすることがあります。**

高圧洗浄機を使うときは

洗車ノズルを車体から十分に離してください。

注記

- **洗車ノズルを車体に近づけすぎたり、バンパーなどの開口部に向けたりすると、車体や部品の変形や損傷の原因となります。**
- **洗車ノズルをドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に向けると、車内に水が入るおそれがあります。**

フロントガラスの手入れ

油膜などが付着してワイパーのふき残しが出たときは、ガラスクリーナー（別売り）で汚れを取ってください。

注記

フロントワイパーは運転席側から順に起こし、助手席側から順にもどしてください。助手席側を先に起こす、または運転席側を先にもどすと、ワイパー同士が当たって傷つきの原因となります。

アルミホイールの手入れ

「手洗い洗車をするときは」（→P.**5-4**）をお読みください。

注記

- **酸性、アルカリ性の洗剤、石油系溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。塗装のしみ、変色、ひび割れ、およびセンターキャップの損傷の原因となります。**
- **硬いブラシや砂入り石けんを使用しないでください。傷つきの原因となります。**

内装のお手入れ

- 砂、ほこりなどは掃除機などで吸い取るか、水またはぬるま湯を固くしぼったやわらかい布でふき取ってください。そのまま放置すると、傷つきの原因となります。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかにティッシュペーパーややわらかい布でふき取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

警告

車内に水などをかけたり、飲み物などをこぼしたりしないでください。次のような部品が故障したり、火災の原因になったりするおそれがあります。万一、飲み物などをこぼした場合は、すみやかにスズキサービス工場で点検を受けてください。

- **SRSエアバッグシステム**
- **ナビゲーションまたはオーディオ**
- **スイッチ、配線などの電気部品**
- **セレクトレバー、シートベルトバックルなどの可動部分**

注記

- **次のような成分が含まれているケミカル用品は使用しないでください。しみ、変色、変形、強度低下などの原因となります。**
  - **≫ベンジン、ガソリン、シンナー、ステッカーはがし剤などの溶剤**
  - **≫酸性、アルカリ性の洗剤**
  - **≫漂白剤や染料**
- **エアコン、オーディオまたはナビゲーションなどの電装品や各種スイッチおよびこれら周辺の清掃にはシリコンを含むケミカル用品を使用しないでください。シリコンが内部に入り、電子部品に付着すると、故障の原因となるおそれがあります。**
- **色物の革製品・毛皮・ビニールなどを長時間、放置しないでください。内装の変色や変質の原因となります。**

アドバイス

液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのもののご使用をおすすめします。

布地、ビニールレザー、樹脂部品などの手入れ

1. 中性洗剤の水溶液をやわらかい布に軽く含ませ、汚れをふき取ります。
2. 真水を含ませたやわらかい布で、残った洗剤分をふき取ります。
3. 残った水分をふき取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

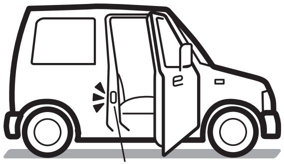
バックウインドーガラスの室内側の手入れ

熱線や端子を傷つけないように、水を含ませたやわらかい布で熱線に沿ってふいてください。

タイヤの点検・交換

タイヤの空気圧を点検

- 定期的に点検・調整してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認できます。
  →メンテナンスノート（日常点検）



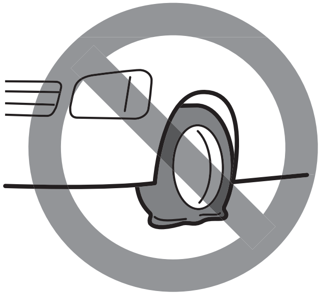
70K115

(1) 空気圧ラベル

- 空気圧が不足したまま走行すると、タイヤの両端が摩耗する原因となります。また、燃費が悪くなります。
- 偏平タイヤ（205/50R17 89V）は、見た目では空気圧の不足がわかりにくいので注意が必要です。

⚠警告

空気圧が極端に低いまま走行すると、タイヤがバースト（破裂）して思わぬ事故につながるおそれがあります。



61M0115

⚠注意

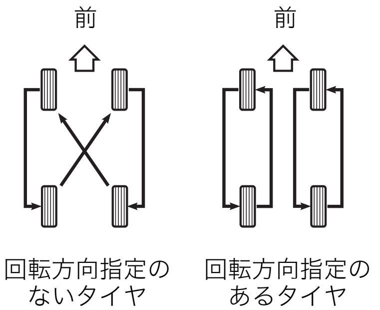
指定空気圧を守らないと車の性能が十分に発揮できず、次のようなことが起きるおそれがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因となったりするおそれがあります。

- **走行安定性が悪化する**
- **ブレーキをかけたときの制動距離が伸びる**
- **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しなくなる**
  ≫ABS
  ≫ESP®
- **4WD 車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえる**

タイヤのローテーション

タイヤのかたよった摩耗を防止して寿命をのばすために、約**5,000 km**走行ごとに行なってください。（次の図参照）

- 車載ジャッキでタイヤのローテーションを行なうときは、スペアタイヤ（市販品）などを使用して1輪ずつ交換します。→ジャッキアップ P.**6-9**
- タイヤパンク応急修理セット装備車には、スペアタイヤが装備されていないため、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



80J305

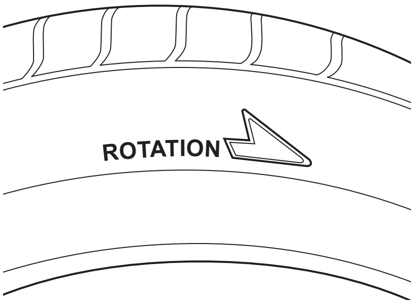
⚠注意

回転方向指定のあるタイヤをローテーションするときは、回転方向を逆にしないでください。走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバイス

回転方向指定のあるタイヤは、側面に図のような“**ROTATION**”の文字と、回転方向を示す矢印が刻印されています。

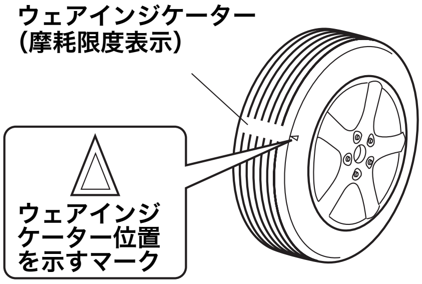
— 代表例 —



72M00185

タイヤ交換するときは

- 指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出る場合は、タイヤのバランスを点検してください。
- 取り付ける前にタイヤの摩耗状態を点検してください。ウェアインジケーター（溝の深さが1.6mm浅い部分）が現れて溝の一部が消えていたら、ほかのタイヤと交換してください。



80J306

⚠警告

指定のサイズで、4 輪ともサイズ、銘柄、トレッドパターン（溝模様）が同一のタイヤを装着してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを使用しないでください。燃費や走行安定性が悪化するだけでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。（冬用タイヤも同様です）

- **正確なタイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。**

  ≫ABS

  ≫ESP®

- **4WD車では、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。**

エアクリーナーフィルターの交換

アドバイス

- エアクリーナーフィルター交換の際、フィルターや車両の部品を損傷するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。
- 交換フィルターはスズキ純正フィルターのご使用をおすすめします。

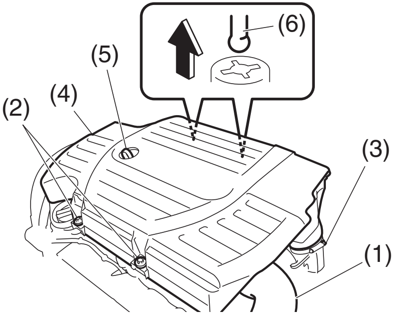
■ 外しかた

1. ボンネットを開けます。
→ボンネット P.**4-1**

2. エアクリーナーのインレットホースを外します。

3. エアクリーナー前面のボルト 2 個をプラスドライバー（市販品）などで外します。側面のホースを固定しているバンドのボルトを、マイナスドライバー（市販品）などでゆるめます。

4. エアクリーナケースを真上に引き上げ、マウントピンを引き抜きます。

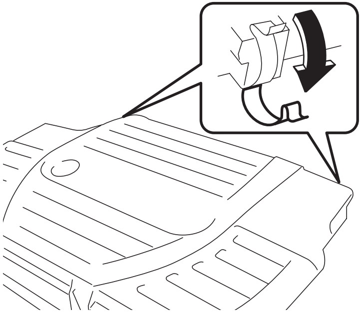


(1) インレットホース
(2) エアクリーナ前面のボルト
(3) エアクリーナー側面のホース固定ボルト
(4) エアクリーナーケース
(5) エンジンオイルレベルゲージ
(6) マウントピン

注記

エアクリーナーケースを持ち上げるときは、エンジンオイルレベルゲージに当たらないように注意してください。エンジンオイルレベルゲージが破損するおそれがあります。

5. エアクリーナーケース背面のクリップ2か所を外し、エアクリーナーフィルターを取り出します。



61MM0B064

■ 取り付けかた

「**外しかた**」と逆の手順で行ないます。

冬期に入る前の準備

ウインドーウォッシャー液

凍結を防ぐため、外気温に応じた割合で配合してください。

〔スズキ純正ウォッシャー液の場合〕

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通　常	原液1に水3	約−7℃
温暖地の冬期	原液1に水2	約−10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	約−20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	約−50℃

鉛バッテリー

鉛バッテリーの状態を点検してください。寒くなるとバッテリーの性能が下がり、弱っているバッテリーではエンジンがかかりにくくなります。

→バッテリーを点検して P.**5-1**

冷却水

エンジン内部の腐食および凍結防止のため、指定の冷却水をお使いください。

→サービスデータ P.**7-1**
→メンテナンスノート（日常点検）

アドバイス

冷却水の濃度点検および交換は、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。

スノーブレード（別売り）

スノーブレード（降雪地用ワイパーブレード）は、金属部分をゴムで覆って雪の付着を少なくするものです。標準装備のワイパーブレードでは、降雪時に雪が付着し、ふき取りにくくなることがありますので、必要に応じて交換してください。

⚠注意

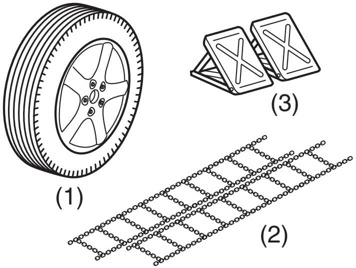
高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなることがあります。その場合には、車のスピードを落としてください。

アドバイス

雪の降らない時季は、通常のワイパーブレードのご使用をおすすめします。

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め（別売り）

雪道や凍結路を走行するために準備が必要です。



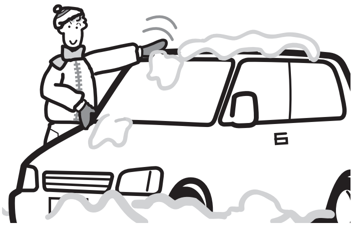
80J1242

(1) 冬用タイヤ
(2) タイヤチェーン
(3) 輪止め

出発の前に

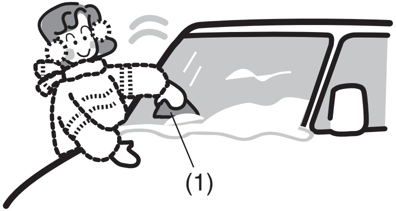
車体に積もった雪を取り除く

出発の前に取り除いてください。走行時に落下して、視界をさまたげるおそれがあります。



80J308

- ガラス面の雪や霜は、プラスチックの板を使用すると、ガラスを傷つけずに落とせます。



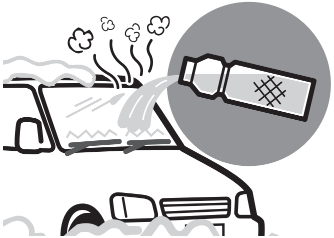
82K261

(1) プラスチックの板

各部が凍結しているときは

ぬるま湯をかけて氷を溶かします。溶かしたあとは、再び凍結しないように水分をふき取ってください。凍結したまま無理に次のような操作を行なうと、傷つきや故障の原因となります。

- ドアを開ける
- ドアミラーを動かす
- ワイパーを作動させる



65P60060

注記

ドアミラー格納スイッチの場合、ミラーを手で動かすことが可能かを確認してから、スイッチ操作を行なってください。凍結したまま操作を繰り返すと、故障の原因となります。

→ドアミラー格納スイッチ P.**2-24**

乗車するときは

靴に付着した雪をよく落としてください。そのまま乗車すると、ペダル操作時に滑ったり、車内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなったりします。

80J312

雪道を走行するとき

雪道や凍結路はゆっくり走行

注意

スピードを控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップ事故を起こすおそれがあります。

61M0073

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

- 周囲の安全を確かめてから低速でブレーキペダルを数回踏み、ブレーキの効きを確かめてください。
- ブレーキの効きが悪いときは、効きが回復するまで低速で繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキ装置を乾かしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

雪道や凍結路では、指定サイズの冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

- 走行する地区の条例などにしたがって装着してください。
→タイヤ交換するときは P.**5-8**
→タイヤチェーンを装着するとき P.**5-15**

フェンダー裏側に付着した雪を取り除く

雪道を走行すると、フェンダーの裏側に雪が付着してタイヤと接触し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検してください。雪の塊が付着しているときは、周囲の部品を傷つけないように雪を取り除いてください。

80J313

駐車するとき

パーキングブレーキ

パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

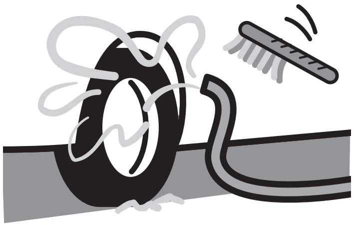
- 長時間駐車するときはパーキングブレーキをかけず、セレクトレバーを“P”に入れ、輪止め（市販品）をします。

凍結防止剤が散布してある道を走行したあとは

すみやかに凍結防止剤を洗い落としてください。とくに車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください。放置するとサビの原因となります。

凍結を防ぐため、洗車後はドアまわりなどの水分をふき取ってください。

- ドアキーの穴を避けて洗車してください。キー穴が凍結すると、ドアが解錠できなくなります。
- ドアまわりのゴム部品の水分は、とくによくふき取ってください。凍結すると、ドアが開かなくなります。



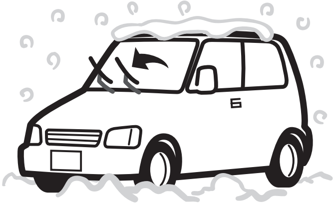
80J314

屋外に駐車するときは

注記

- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。
- ルーフアンテナの場合、降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを取り外してください。
  →ルーフアンテナ P.4-27
- 駐車するときはワイパーアームを立ててください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結したりすることがあります。

≫フロントワイパーは運転席側から順に起こし、助手席側から順にもどしてください。助手席側を先に起こす、または運転席側を先にもどすと、ワイパー同士が当たって傷つきの原因となります。



80J315

排気管のまわりが雪で覆われたときは

警告

排気管のまわりが雪で覆われたままエンジンを回転させないでください。

排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

61M0116

タイヤチェーンを装着するとき

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

⚠警告

- **適合品以外を装着しないでください。ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。**
- **走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに安全な場所に停車して点検してください。タイヤチェーンが切れたり、一部が外れたりして車体に当たると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。**

⚠注意

- **タイヤチェーンを装着して走行するときは、安全およびタイヤチェーン保護のためスピードを控えめ（30 km/h以下）にし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転をしたり、突起や穴を乗り越えたりしないでください。**
- **タイヤチェーンを装着すると、タイヤ回転速度が検出できなくなって、次の機能が正常に作動しない場合があります。**
  ≫ABS
  ≫ESP®

注記

タイヤチェーンを装着したまま、雪のない舗装路を走行しないでください。路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まったりします。また、4WD 車の場合、駆動装置に無理な力がかかり、故障の原因となります。

タイヤチェーンを装着する前に

■ タイヤチェーンは前輪に装着

この車は前輪が駆動輪、または前輪が駆動輪ベースの4WD です。後輪には装着しないでください。

■ ジャッキアップに適した安全な場所で装着

「タイヤ交換の準備」（→P.**6-7**）の手順 1. から2.をお読みください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンに付属の取扱説明書をよくお読みください。

注記

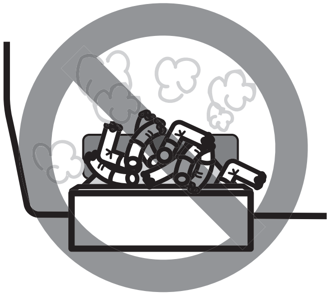
アルミホイール装備車の場合、タイヤチェーンでホイールに傷がつくおそれがあります。

こんなことにも注意して

マッチ、タバコの火は確実に消す

⚠注意

- **マッチ、タバコの火は確実に消し、吸いがらを入れた灰皿（別売り）は完全に閉めてください。**
- **灰皿（別売り）の中に吸いがらをためすぎたり、紙など燃えやすいものを入れたりしないでください。**



61M0117

車検を受けるときの注意

- ESP®装備車をテスターに乗せる場合は、ESP® OFFスイッチを操作して、次の機能を作動停止（OFF）の状態にしてください。
  →ESP® OFFスイッチ P.**3-49**

  ≫トラクションコントロールおよびスタビリティコントロール
- 4WD車の場合、ALL GRIP（4WD）モードを AUTO モードに切り替えてください。
  →ALL GRIP（4WD）モードの切替え（4WD車のみ）P.**3-34**

詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

外装部品に力をかけすぎない

注記

スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

不正改造はしない

⚠警告

- **この車に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線をしたりしないでください。思いがけない火災や事故を起こしたり、不正改造になったりすることがあります。**

61M0118

- **無線機、ナビゲーション、オーディオ、ETC車載器などの電気製品の取り付け、取り外しをするときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。また、バッテリー端子から電気製品の電源をとったり、アース線を直接つなげたりしないでください。電子部品のはたらきをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こしたりするおそれがあります。**

次のページに続く→

- ホイール、ホイールボルトは指定のスズキ純正品以外を使用しないでください。走行中にボルトがゆるんでホイールが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、燃費や走行安定性が悪化したり、故障の原因となったりします。

注記

ディスチャージヘッドライト装備車では、次のような改造をするとオートレベリング機能（自動光軸調整機能）が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- サスペンションの改造（車高やサスペンションの硬さ変更）
- 指定サイズ以外のタイヤやホイールの装着

部品の取り付け、取り外し、修理をするときは

警告

SRS エアバッグ、シートベルトプリテンショナーは、その機能に影響をあたえる部品に手を加えると、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しなかったりすることがあります。

次のような場合は、システムに悪影響をおよぼします。事前にスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- ハンドルの取り外し、ハンドルまわりの修理など
- インパネまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理
- オーディオ用品などの取り付け
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
- 前席の交換およびシートまわりの修理
- センターピラーまわりの修理

アクセサリーの取り付けに気をつけて

警告

窓ガラスにアクセサリーを取り付けないでください。アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーが飛んでけがのおそれがあります。

61M0119

6. 万一のとき

パンク

工具、ジャッキの収納場所 6-1
パンクしたときは 6-1
タイヤパンク応急修理セット 6-1
タイヤ交換の準備 6-7
ジャッキアップ..................................6-9
タイヤの取り付け・取り外し 6-11
タイヤを交換したあとは 6-12

バッテリーあがり

鉛バッテリーあがり 6-13

ヒューズ切れ

ヒューズが切れたときは 6-16
ヒューズの点検と交換 6-20

電球切れ

電球の点検.................................... 6-21
電球を交換するときは 6-22

オーバーヒート

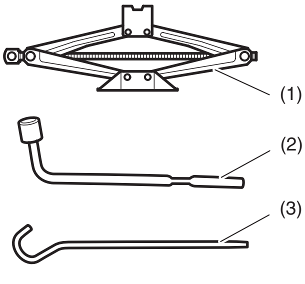
オーバーヒート 6-28

そのほか

バックドアが開かないときは 6-29
発炎筒.. 6-30
故障したときは 6-31
ロープけん引 6-32
万一、事故が起きたときは 6-36

工具、ジャッキの収納場所

荷室下にあります。
→荷室 P.**1-8**



61MM0B100

(1) ジャッキ
(2) ホイールレンチ
(3) ジャッキバー

- 使用後は、所定の位置に収納してください。
- ジャッキは、完全に縮めてから収納してください。

パンクしたときは

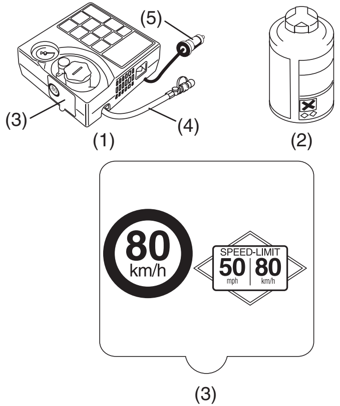
タイヤパンク応急修理セットをお使いください。

タイヤパンク応急修理セット

このセットは、標準タイヤがパンクしたときに応急的に使用するものです。パンクしたタイヤはすみやかにスズキサービス工場で修理または交換してください。

- タイヤパンク応急修理セットは、荷室下にあります。
→荷室 P.**1-8**

― 代表例 ―



61MM0A090

(1) エアコンプレッサー
(2) 修理剤ボトル
(3) 速度制限シール（※）
(4) 空気注入ホース
(5) 電源プラグ

※速度制限シールはエアコンプレッサーに貼付されています。

⚠注意

- **応急修理剤は、飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用したときは、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。**
- **応急修理剤が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。**
- **保管するときは、お子さまが誤って手を触れないように所定の位置に収納してください。**

ⓘ注記

- **エアコンプレッサーは、自動車タイヤ専用です。そのほかの目的で使用しないでください。**
- **エアコンプレッサーは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。**
- **エアコンプレッサーを使用するときは、故障を防ぐため次のことをお守りください。**
  ≫10分以上連続して使用しない
  ≫防水加工がされていないため、降雨時などは水がかからないようにする
  ≫砂やほこりなどを吸い込ませない
  ≫使用中に動作がおそくなったり、本体が熱くなったりしたときはすぐにスイッチをOFFにして、30分以上放置する
  ≫分解、改造などをしない
  ≫強い衝撃や圧力を加えない

応急修理セットの点検

定期的に点検してください。

- 応急修理剤ボトルに表示されている有効期限の確認
  ≫期限が切れる前に、新品と交換してください。
- アクセサリーソケット電源の確認
- エアコンプレッサー作動の確認
  ≫エンジンスイッチを“ACC”にし、エアコンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに差し込んで行ないます。

応急修理の可否判断

■ 次のようなとき、タイヤの応急修理ができます

タイヤ接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理できます。

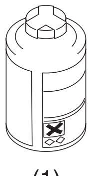
注記

タイヤに刺さった釘やネジなどは抜かないでください。タイヤの損傷が大きくなったり、そこからの空気漏れで修理時の空気充填ができなくなったりするおそれがあります。

■ 次のような場合は、タイヤの応急修理ができません

スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。（別冊の「**スズキ4輪車サービスネットワーク**」参照）

- 応急修理剤の有効期限が切れている（有効期限はボトルのラベルに記載）

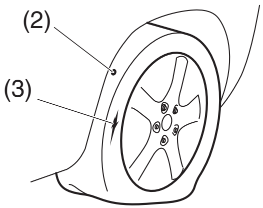


61M0120

(1) 修理剤ボトル

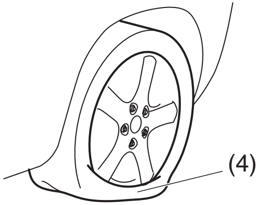
- 次のいずれかのような状態にある

— 代表例 —



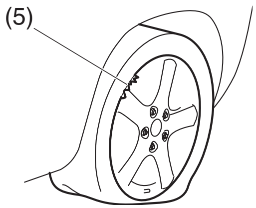
61M0121

(2) タイヤ接地面に長さ4 mm以上の切り傷や刺し傷がある
(3) タイヤの側面に傷がある



61M0122

(4) タイヤがホイールリムの外側へ完全に外れている



61M0123

(5) ホイールリムが破損または変形している

- タイヤの空気がほとんど抜けた状態で走行した
- タイヤが2本以上パンクしている（修理剤はタイヤ1本分です）

タイヤ応急修理のしかた

1. 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。

2. パーキングブレーキをしっかりとかけます。

≫セレクトレバーを“P”に入れ、エンジンを止めます。

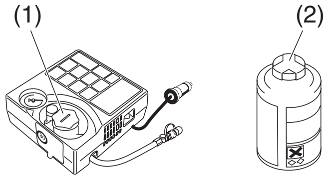
必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

≫パンクしたタイヤの状態を確認します。

→応急修理の可否判断 P.**6-3**

3. 同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。
タイヤパンク応急修理セットを取り出します。

4. エアコンプレッサーと修理剤ボトルのふたを開けます。

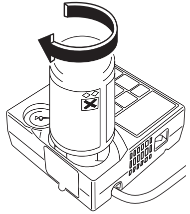


61M0124

(1) エアコンプレッサーのふた
(2) 修理剤ボトルのふた

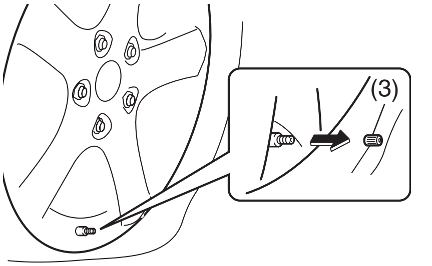
5. 修理剤ボトルをコンプレッサーに取り付けます。

≫時計方向にまわしてねじ込むと、ボトルの栓が破れます。



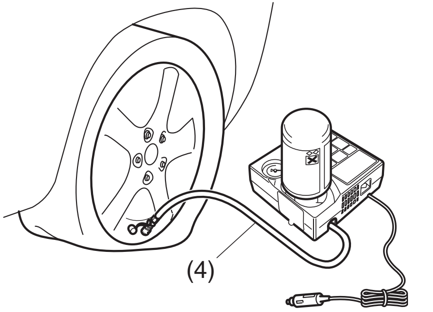
61M0125

6. タイヤバルブからキャップを反時計方向にまわして外します。



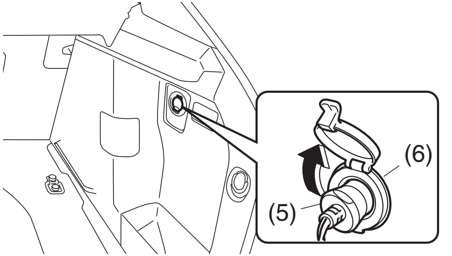
(3) キャップ

7. 空気注入ホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込みます。



(4) 空気注入ホース

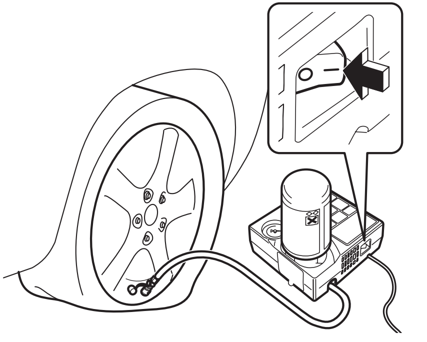
8. エアコンプレッサーのスイッチが OFF（○側）になっていることを確認します。電源プラグをアクセサリーソケットに差し込み、エンジンスイッチを“ACC”にします。



(5) 電源プラグ
(6) アクセサリーソケット

≫アクセサリーソケットは、インパネポケット内にもあります。→P.**4-7**

9. エアコンプレッサーのスイッチをON（Ⅰ 側）にし、修理剤とともに空気を入れます。タイヤ空気圧が指定空気圧になるまで昇圧させます。



≫タイヤがホイールリムから外れている場合は、空気が漏れないようにリムとタイヤのすきまをなくすようにしてから、コンプレッサーを作動させます。（すきまがなくなれば空気圧が上がります。）

≫指定空気圧まで昇圧するには、10 分程度が必要です。10 分以内に指定空気圧まで昇圧しないときは、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理セットによる応急修理ができません。スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

≫空気を入れすぎたときは、空気注入ホース先端の口金をゆるめて、空気を抜きます。

注意

- **コンプレッサーを作動させているときは、タイヤの近くに立たないでください。万一バーストなどした場合に、けがのおそれがあります。**
- **タイヤがふくらむと、タイヤがリム部にはまり込みます。指などをはさまないように注意してください。**

注記

- **コンプレッサーの起動・停止は、コンプレッサー本体のスイッチで行なってください。**
- **コンプレッサーは 10 分以上連続して作動させないでください。故障につながるおそれがあります。**

アドバイス

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで確認できます。

10. 指定空気圧まで昇圧できたら、修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、応急修理セットを収納し、ただちに走行します。スピードを控えめにして、急加速や急ハンドル、急ブレーキなどはせず、慎重に運転してください。
11. 約10分間または5 km程度走行したら、タイヤ空気圧をコンプレッサーの空気圧計で確認します。空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm^2) 以上あれば、パンク応急修理の完了です。再度、指定空気圧に調整してください。

   ≫タイヤ空気圧を測定するときは、空気注入ホース先端の口金をタイヤバルブにねじ込んだあとに電源をつなぎ、一度スイッチをON（Ｉ側）にしたあと、すぐにスイッチをOFF（○側）にして空気圧を確認します。

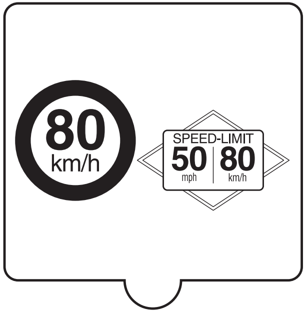
   ≫走行後、タイヤ空気圧が130 kPa未満に低下していた場合は、本修理セットによる応急修理ができていないことを示しています。走行を中止して、スズキ代理店やJAFなどのロードサービス事業者にご連絡ください。

注意

走行後、必ず空気圧のチェックを行ない、応急修理の完了を確認してください。

12. 異常がなければ、付属の速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼ります。十分注意して80 km/h以下の速度で走行してください。

— 代表例 —



61M0175

⚠警告

次のような場所には、速度制限シールを貼らないでください。

- **SRS エアバッグの収納部。万一のときに、エアバッグが正常にふくらまなくなるおそれがあります。**
- **警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置**

タイヤを応急修理したあとは

応急修理剤を使用したタイヤは、一時的に使用するものです。すみやかにスズキサービス工場で、タイヤ交換または修理してください。

- タイヤ交換または修理を依頼するときは、修理剤を使用したことを知らせてください。また、修理剤の抜き取りに必要なため、空になった修理剤ボトルを渡してください。
- ホイールは、付着した修理剤をふき取り、バルブコアを新しいものに交換すれば再使用できます。
- タイヤを修理・再使用するときは、付着した修理剤をふき取る必要があります。ただし、タイヤの損傷の程度によっては、再使用できない場合があります。
- 新しい修理剤はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

タイヤ交換の準備

スペアタイヤ（市販品）が準備できない場合は、タイヤパンク応急修理セットをご使用ください。

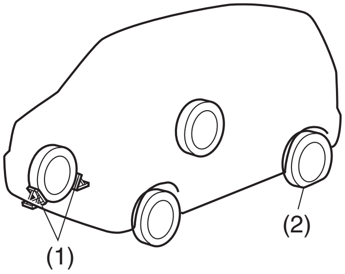
→タイヤパンク応急修理セット P.**6-1**

1. 他車に注意をうながすため、非常点滅表示灯を点滅させます。他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動します。
2. パーキングブレーキをしっかりとかけます。

   ≫セレクトレバーを“P”に入れ、エンジンを止めます。

   必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

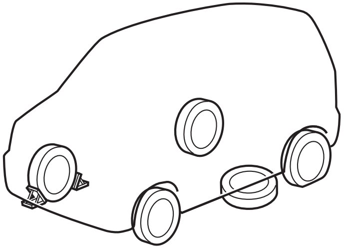
3. 交換するタイヤと対角線の位置にあるタイヤの前後に、輪止め（市販品）を置きます。



(1) 輪止め
(2) 交換するタイヤ

4. 工具、ジャッキ、スペアタイヤ（市販品）を取り出します。同乗者がいるときや重い荷物を載せているときは、車から降ろします。

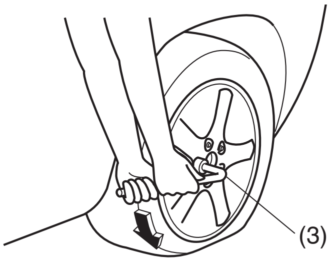
≫万一ジャッキが外れたときに足などをはさまないために、取り出したスペアタイヤは、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。



アドバイス

スペアタイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

5. ホイールレンチを使用して、ホイールボルト5個を反時計方向にまわし、手でボルトが軽くまわるくらいまでゆるめます。



(3) ホイールレンチ

ジャッキアップ

ジャッキアップをする前に、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。

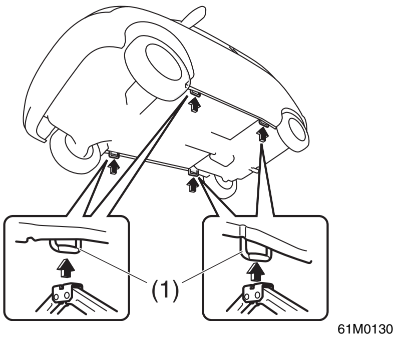
- セレクトレバーを“P”に入れ、エンジンを止めてください。

⚠警告

万一ジャッキが外れると、身体がはさまれ重大な傷害を受けたり、車が動き出して思わぬ事故につながったりするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。

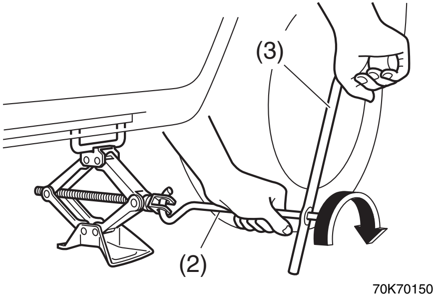
- **地面が硬くて平らな場所でジャッキアップしてください。**
- **ジャッキは、タイヤ交換またはタイヤパンク修理だけに使用してください。**
- **ジャッキはこの車に付属のものを使用し、ほかの車のものは使用しないでください。また、この車のジャッキをほかの車に使用しないでください。**
- **ジャッキは必ず指定された位置にかけてください。指定以外の位置にジャッキをかけると、ジャッキが外れたり、車を損傷したりするおそれがあります。**
- **ジャッキで必要以上に車を持ち上げないでください。**
- **ジャッキで車を持ち上げているときは、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。**
- **ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下にものをはさまないでください。**
- **複数のジャッキを使用して、複数輪を同時にジャッキアップしないでください。**

1. ジャッキバー取り付け部を手でまわしてジャッキを広げ、ジャッキ頭部の凹み部を車載ジャッキ指定位置に軽く接触させます。
2. ジャッキ頭部を軽くゆすって、ジャッキ頭部の凹み部が指定位置にはまっているか確認します。



(1) ジャッキ指定位置

3. ジャッキに、ジャッキバーとホイールレンチを取り付けます。（次の図参照）
   ≫ジャッキバーは次の図のように、ホイールレンチの穴に差し込みます。
4. ホイールレンチをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を慎重に持ち上げます。

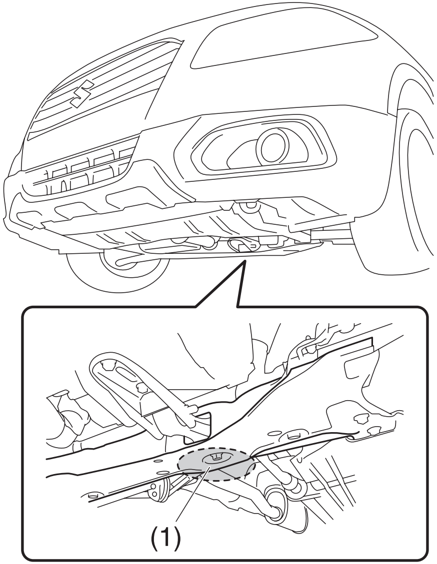


(2) ジャッキバー
(3) ホイールレンチ

ガレージジャッキ（市販品）を使用するときは

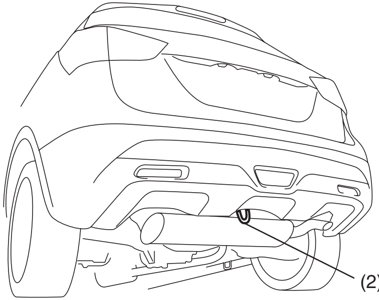
ガレージジャッキおよびリジッドラック（市販品）の指定位置を次の図に示します。詳細については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

〔フロント側ガレージジャッキ指定位置〕



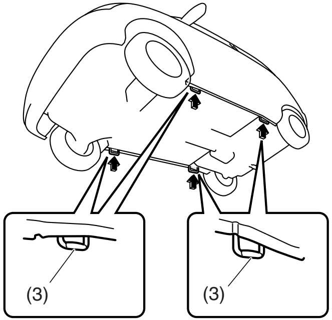
(1) フロント側ガレージジャッキ指定位置

〔リヤ側ガレージジャッキ指定位置〕



(2) リヤ側ガレージジャッキ指定位置

〔リジッドラック指定位置〕



(3) リジッドラック指定位置

⚠ 警告

- **必ず図に示す指定位置を守ってください。**
- **ジャッキアップした車体を保持する際は、必ずリジッドラックに掛け替えてください。**
- **フロント側またはリヤ側のみをジャッキアップする際は、必ず接地側のタイヤの前後に輪止め（市販品）を置いてください。**

タイヤの取り付け・取り外し

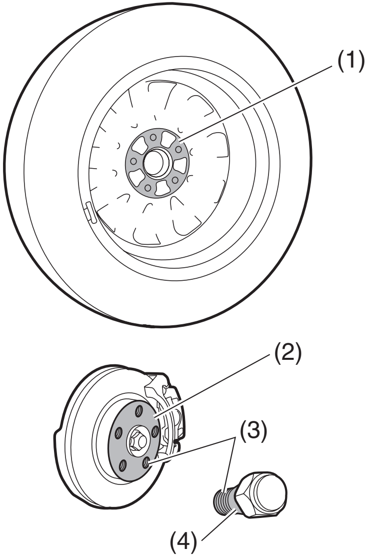
1. ホイールボルトを外します。タイヤが急に車両から外れるのを防ぐため、最後のボルトを外すときは、タイヤを手でささえてください。
   ≫外したタイヤは、車体の下に置きます。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にすると傷つきにくくなります。

2. 次の場所の汚れや異物を取り除きます。
   ≫交換するホイールの取り付け面
   ≫車体側の取り付け面（ハブ面）
   ≫車体側のネジ穴やホイールボルトのネジ部
   ≫ホイールボルトのテーパー面
   ≫ホイール穴のテーパー面

— 代表例 —



51K1031

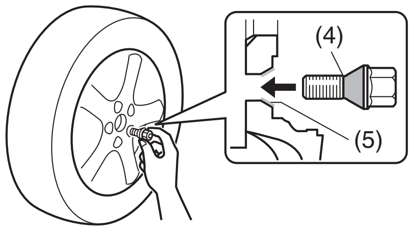
(1) 交換するホイールの取り付け面
(2) 車体側の取り付け面（ハブ面）
(3) 車体側のネジ穴やホイールボルトのネジ部
(4) ホイールボルトのテーパー面

≫このとき、ボルトやボルト穴のネジ部、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、スズキサービス工場で点検を受けてください。

⚠警告

- **前記の場所に汚れや異物、つぶれや亀裂などの異常があると、走行中にホイールボルトがゆるむことがあります。**
- **ボルトや車体側のネジ穴に、オイルやグリスを付着させないでください。必要以上にボルトを締めすぎて折れるおそれがあります。**

3. タイヤを手でささえながら、ホイールの穴と車両のネジ穴をあわせます。
   ≫ホイールボルトのテーパー面が、ホイール穴のテーパー面に軽く接触するまで、手で時計方向にまわして締めます。



60M0017

(4) ホイールボルトのテーパー面
(5) ホイール穴のテーパー面

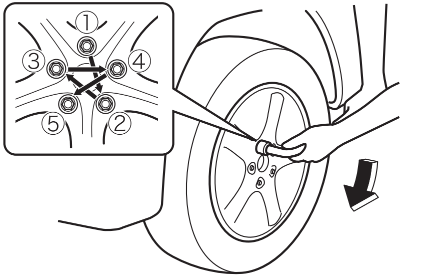
4. 車体の下に置いたタイヤを取り出し、タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。

5. ホイールレンチを使用して、ホイールボルトを次の図の順序で2〜3回に分けて締め付けます。

締め付けトルク：85 N・m
(870 kgf・cm)

≫ホイールレンチの柄の先端にかかる力は330 N（34 kgf）を目安にしてください。

≫すべてのホイールボルトが確実に締まっていることを確認してください。



80J1224

⚠警告

- **ホイールボルトが確実に締まっていないと、ボルトやブレーキ部品を損傷したり、ホイールが外れたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。トルクレンチ（市販品）を使用せずにタイヤ交換した場合は、できるだけ早くスズキサービス工場で締め付けトルクの点検を受けてください。**
- **ホイールレンチを足で踏んだり、パイプや棒などを追加して締め付けたりすると、締めすぎによってボルトが損傷し、事故につながるおそれがあります。**

アドバイス

既定の締め付けトルクで締める場合は、トルクレンチ（市販品）のご使用をおすすめします。

タイヤを交換したあとは

- 工具、ジャッキは、所定の位置に収納してください。
- タイヤを交換してしばらく走行したあと、ホイールボルトにゆるみがないか確認してください。
- アルミホイール装備車は、タイヤを交換してから 1,000 km 程度走行したあとに、ホイールボルトにゆるみがないか点検してください。

⚠警告

タイヤを交換したあと、車体の振動などの異常を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

鉛バッテリーあがり

次のようなときは、鉛バッテリーがあがっています。

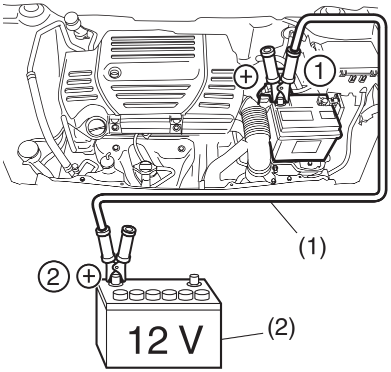
- エンジンをかけようとしてもスターターがまわらない。または、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- ヘッドライトが極端に暗かったり、ホーンの音が小さかったりする。

鉛バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと、12 V バッテリーを使用しているほかのバッテリー正常車があれば、エンジンの始動ができます。

1. 1 本目のブースターケーブルを①→②の順序で接続します。

①バッテリーあがり車の ⊕ 端子
②バッテリー正常車の ⊕ 端子

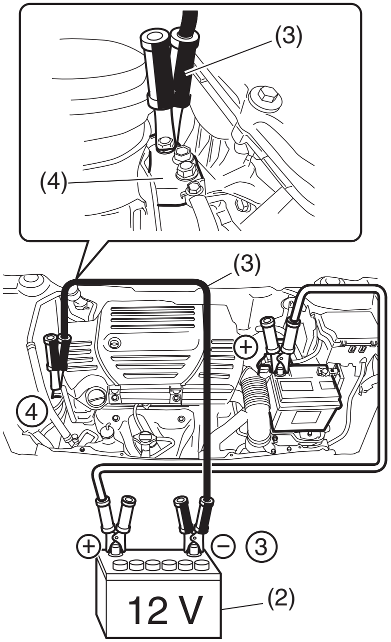


61M0278

(1) ブースターケーブル
(2) 正常車の鉛バッテリー

2. 2 本目のブースターケーブルを③→④の順序で接続します。

③バッテリー正常車の ⊖ 端子
④エンジンマウントのボルト



61M0277

(2) 正常車の鉛バッテリー
(3) ブースターケーブル
(4) エンジンマウント

3. バッテリー正常車のエンジンを始動し、エンジンの回転を少し高めに保ちます。
4. バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
5. 取り付けたときと逆の順序で、ブースターケーブルを外します。
6. お近くのスズキ販売店またはスズキ代理店でバッテリーを完全充電します。

⚠警告

● 鉛バッテリーからは水素ガスが発生しています。水素ガスは、火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、次のことをお守りください。

≫充電は火気のない風通しの良いところで、すべてのバッテリーキャップを外して行なってください。

≫④の接続のときに、バッテリーがあがった車の ⊖ 端子につながないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発のおそれがあります。バッテリーから離れたエンジン本体などに接続してください。

≫乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火のおそれがあります。

● バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくと、失明などの重大な傷害を受けるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量のきれいな水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

⚠注意

● ブースターケーブルは確実に接続してください。エンジン始動時の振動などでブースターケーブルが外れると、ドライブベルトや冷却ファンに巻き込まれるおそれがあります。

● ショート防止のため、ブースターケーブルの ⊕ 端子は、バッテリーの ⊕ 端子以外の部分（⊖ 端子、ボデー、ブラケットなど）と接触させないでください。

● オートマチック車は押しがけができません。

鉛バッテリーを交換するときは

⚠警告

鉛バッテリーを交換するときは、次のことをお守りください。

● 濡れた手でバッテリーに触れないでください。感電のおそれがあります。

● 走行後の場合は、30分以上放置し、バッテリーの水素ガスが抜けるのを待ってから作業を行なってください。

アドバイス

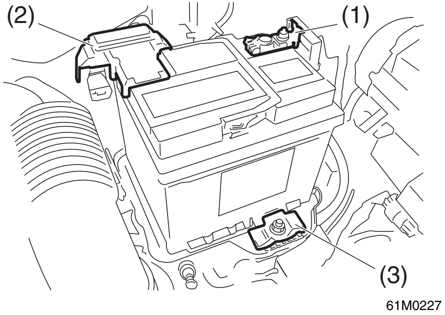
鉛バッテリー交換の際、バッテリーや車両の部品を損傷するおそれがありますので、スズキ販売店またはスズキ代理店での交換（有料）をおすすめします。

■ 外しかた

1. エンジンスイッチを“OFF”にします。

2. バッテリーケーブルの ⊖ 側を外します。

≫バッテリー端子のナットは、10 mm スパナ（市販品）などでゆるめます。



(1) バッテリーケーブルの ⊖ 側
(2) バッテリーケーブルの ⊕ 側
(3) 取り付け金具

⚠注意

ショート防止のため、次のことをお守りください。

- **⊖ 側のケーブルから先に外す**
- **金属工具などにより、⊕ 端子と ⊖ 端子とを接触させない**
- **外したケーブルは、交換時にバッテリー端子と接触しないよう、バッテリーの側面や離れた場所へ動かす**

3. バッテリーケーブルの ⊕ 側を外します。

≫カバーを開け、ナットをゆるめます。

4. 取り付け金具を外します。

≫取り付け金具のボルトは、12 mm スパナ（市販品）などで外します。

5. バッテリーを外します。

≫バッテリーは重いため、落とさないように両手でしっかりと持って、車両の部品などに当たらないように取り出します。

⚠注意

バッテリーを傾けすぎないでください。液漏れのおそれがあります。

■ 取り付けかた

「**外しかた**」と逆の手順で行ないます。

- 鉛バッテリーのタイプについては、「サービスデータ」（→P.**7-1**）をご覧ください。
- 鉛バッテリーを交換したときは、初期設定が必要な機能があります。
  →次の機能は、必ず初期設定してください P.**7-7**

⚠警告

バッテリー端子および取り付け金具のナットは、確実に締め付けてください。ゆるみがあると、火災や故障の原因となります。

⚠注意

バッテリーケーブルを取り付けるときは、⊕側から先に取り付けてください。ショートのおそれがあります。

アドバイス

鉛バッテリー交換は、「**マイナスで始まり、マイナスで終わる**」といわれます。作業手順を守ってください。

バッテリーあがりを防ぐためには

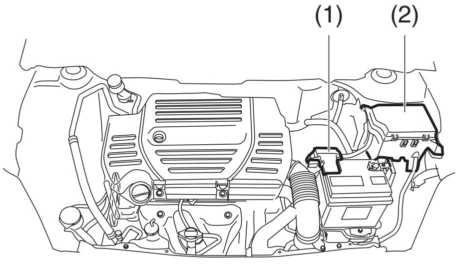
- 1 か月に一度は連続して 30 分以上走行して充電する必要があります。
- エンジンを停止したままライトをつけたり、長時間ナビゲーションやオーディオなどを使用したりしないようにしましょう。
- 渋滞などで長時間アイドリングを続けている場合は、電装品の使用を極力避けてください。
→バッテリーを点検して P.**5-1**

ヒューズが切れたときは

電気装置が作動しないときや、電球が切れていないのにランプが点灯しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

- ヒューズは、エンジンルーム内と助手席足元にあります。
- 装備仕様の違いにより、所定の位置にヒューズがない場合があります。また、装備がなくてもヒューズだけがある場合があります。

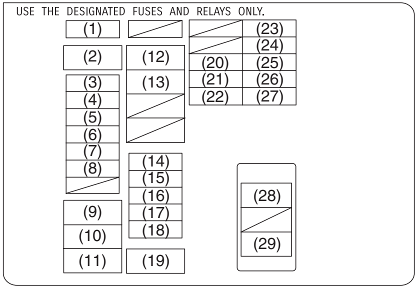
エンジンルーム内のヒューズ位置



(1) メインヒューズボックス
(2) リレーボックス

■ リレーボックス内のヒューズ

ヒューズの表は、ボックスのふたの裏側にあります。

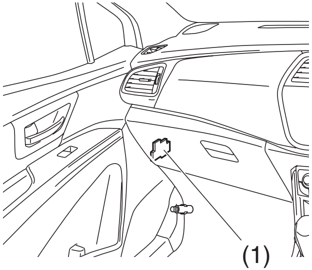


61M0132

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	IG1 SIG2	—	—
2	RDTR2	—	—
3	FR FOG	20A	フォグランプ
4	H/L2	7.5A	ヘッドライト
5	H/L CLNR	30A	ヘッドライトウォッシャー
6	ABS2	25A	ABS
7	H/L	25A	ヘッドライト
8	B/U	30A	バックアップ
9	IGN	40A	エンジンスイッチ
10	ABS	40A	ABSモーター
11	ST	30A	スターター
12	F/HTR	—	—
13	RDTR	30A	ラジエーターファン
14	DCDC	—	—
15	—	—	—
16	FI	20A	燃料噴射装置
17	CPRSR	10A	コンプレッサー
18	AT/CVT または T/M1	15A	CVT
19	BLW	30A	ブロワーファン
20	ST SIG	7.5A	スターター
21	H/L L	15A	ヘッドライト（左）
22	H/L HI L	15A	ヘッドライト上向き（左）
23	FI2	—	—
24	INJ DRV	—	—
25	FI	—	—
26	H/L R	15A	ヘッドライト（右）
27	H/L HI L	15A	ヘッドライト上向き（右）
28	—	—	—
29	—	—	—

助手席足元のヒューズ



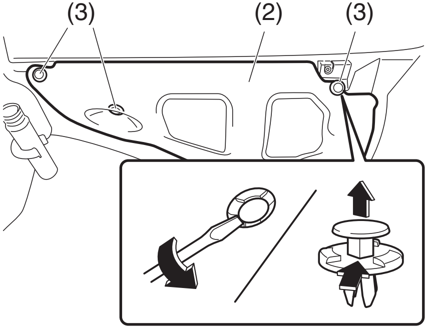
61M0321

(1) 助手席足元のヒューズ

ヒューズを点検するときは、助手席足元のカバーをめくります。

- クリップ3個は、マイナスドライバー（市販品）でこじって外します。

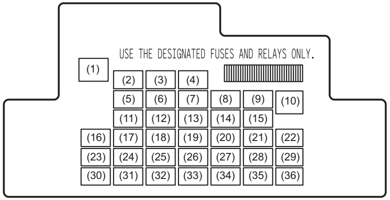
— 代表例 —



61M0343

(2) 助手席足元のカバー
(3) クリップ

ヒューズの表は、ヒューズカバーの表側にあります。



68LM701

- 次の表は、各ヒューズが受け持つ主な装備を表しています。

位置	表示	容量	接続先名称
1	BELT	—	—
2	注）P/W T	20A	パワーウインドータイマー機能
3	STL	15A	電動ハンドルロック
4	RR DEF	20A	リヤデフォッガー
5	S/R	20A	—
6	DRL	10A	—
7	MRR HTR	10A	ドアミラーヒーター
8	ST SIG	7.5A	スターター
9	ACC 2	15A	アクセサリーソケット
10	P/W	30A	パワーウインドー
11	HAZ	10A	非常点滅表示灯

位置	表示	容量	接続先名称
12	BCM	7.5A	BCM
13	IG COIL	15A	イグニッションコイル
14	ABS	10A	ABS
15	ACC	15A	アクセサリーソケット
16	A-STOP	10A	—
17	HORN	15A	ホーン
18	STOP	10A	制動灯
19	A/B	10A	エアバッグ
20	BACK	10A	後退灯
21	WIP	15A	ワイパー
22	FR WIP	30A	フロントワイパー
23	DOME	10A	室内灯
24	4WD	15A	4WD

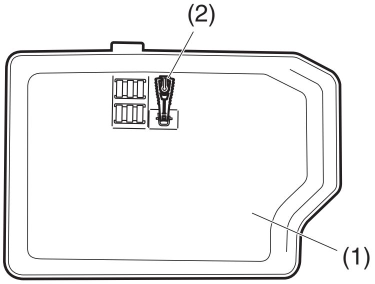
位置	表示	容量	接続先名称
25	RR FOG	7.5A	—
26	—	—	—
27	IG1 SIG	7.5A	エンジンスイッチ
28	RADIO2	15A	ラジオ
29	ACC 3	10A	—
30	RADIO	15A	ラジオ
31	TAIL	10A	尾灯
32	D/L	20A	ドアロック
33	CRUISE	7.5A	クルーズコントロール
34	MTR	10A	メーター
35	IG2 SIG	7.5A	エンジンスイッチ
36	S/H	20A	シートヒーター

注）P/W Tのヒューズを外したり交換したりしたときは、はさみ込み防止機構の初期設定を行なってください。
→はさみ込み防止機構の初期設定
P.**2-21**

ヒューズの点検と交換

点検・交換のしかた

1. エンジンスイッチを“OFF”にします。
2. エンジンルーム内のリレーボックスカバーを外し、カバー裏側にあるヒューズ抜きを取り出します。

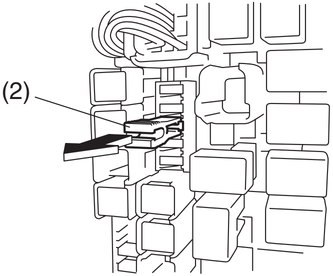


61M0231

(1) リレーボックスカバー
(2) ヒューズ抜き

3. 故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズの表で確認します。ヒューズ抜きをヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。

— 代表例 —

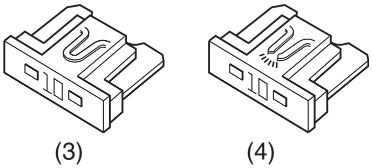


71L70130

4. 切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

≫交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

— 代表例 —



61M0135

(3) 正常なヒューズの例
(4) 切れたヒューズの例

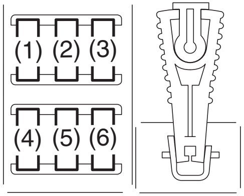
警告

ヒューズは、同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

■ 予備ヒューズ

エンジンルーム内のリレーボックスカバーの裏側にあります。

- 予備ヒューズにないサイズや容量のヒューズを交換するときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



61M0232

位置	容量	頭部の着色
1	7.5A	茶色透明
2	10A	赤色透明
3	15A	青色透明
4	20A	黄色透明
5	25A	白色透明
6	30A	緑色透明

電球の点検

走行を開始する前に、ライトやランプ、方向指示器／非常点滅表示灯などを点灯または点滅させて、電球切れがないか点検してください。

アドバイス

- 制動灯はほかの人に見てもらうか、壁などを利用して点検してください。
- メーター内の方向指示器表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器／非常点滅表示灯の電球切れが考えられます。

ヘッドライトなどのレンズ内面のくもり

レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

アドバイス

ヘッドライトやリヤコンビネーションランプなどは、ランプ内外の温度差により一時的にレンズ内面がくもることがありますが、機能上の問題はありません。（窓ガラスがくもるのと同じ現象）

電球を交換するときは

電球が切れているときは、ワット数および型式が同一の電球と交換してください。

電球のワット数および型式は、「サービスデータ」(→P.**7-4**)をご覧ください。

- 電球を交換しても点灯しない、またはすぐ切れるときは電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

警告

高電圧による感電のおそれがあるため、次の電球交換は絶対に行なわないでください。交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

- **ディスチャージヘッドライト(ディスチャージ電球)**

注意

電球を交換するときは、次のことをお守りください。

- **安全で平らな場所に駐車し、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。**
- **エンジンを止め、各ランプを消灯させ、エンジンや排気管、電球などが十分に冷えてから行なってください。やけどのおそれがあります。**
- **ハロゲン電球は高圧ガスを封入しているため、とくに慎重に扱ってください。割れるとガラスが飛散して、けがのおそれがあります。**
- **車両の部品などで手や腕などをけがしないよう、長袖の上着と手袋を着用してください。**

51K0180

注記

ハロゲン電球を扱うときは、油脂類が付着していない、きれいな手袋をはめてください。使用時電球が高温になるため、素手で扱ってガラス部分に油などが付着すると、発熱による早期電球切れを起こすおそれがあります。

フォグランプ

1. 交換作業のスペースを確保します。

≫エンジンをかけ、交換する電球側と同じ方向にハンドルをいっぱいにまわします。

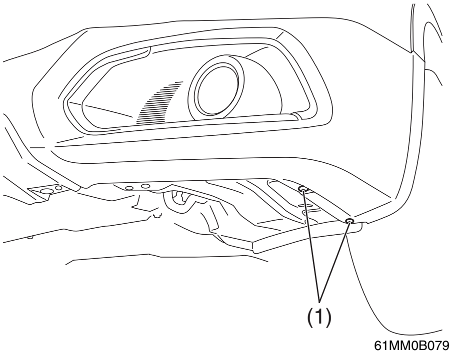
≫エンジンを停止します。

アドバイス

- ハンドルロックは通常、エンジンスイッチを“OFF”から“ACC”または“ON”にしたときに解除されます。
- エンジンをかけるとハンドル操作が軽くなります。

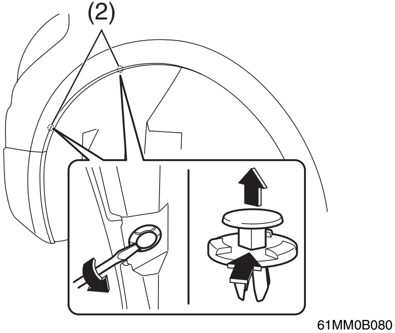
2. フェンダー内のカバーを一部外します。

≫バンパー底部のスクリュー 2個は、プラスドライバー（市販品）で外します。



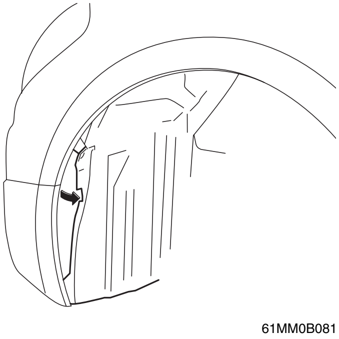
(1) スクリュー

3. フェンダー内のクリップ2個は、マイナスドライバー（市販品）でこじって外します。



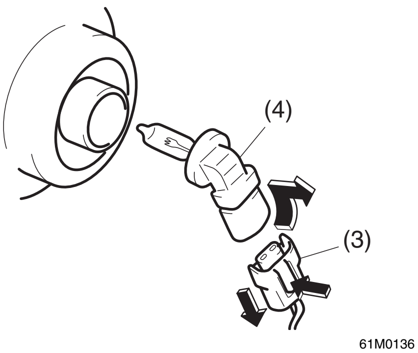
(2) クリップ

4. フェンダー内のカバーをめくって内側から電球を外し、新しい電球と交換します。



≫カプラーは、つめを押しながら外します。

≫カプラーを外したあとに電球（ソケット一体式）を、反時計方向にまわして外します。



(3) カプラー
(4) フォグランプの電球

5. 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

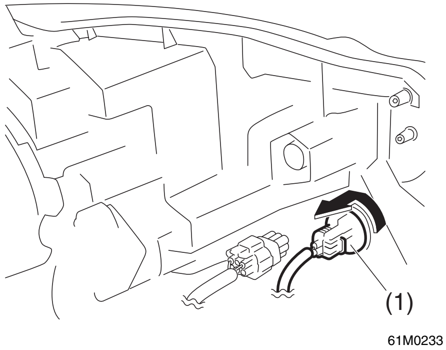
≫フェンダー内のカバーは、バンパーの内側に入れます。

方向指示器／非常点滅表示灯（前面）

1. ボンネットを開け、内側から交換します。

→ボンネット P.**4-1**

2. ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。



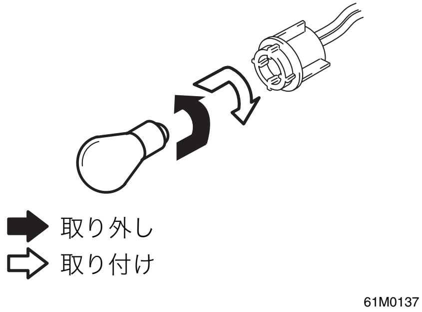
(1) 方向指示器／非常点滅表示灯（前面）のソケット

3. 電球を交換します。

≫取り外すときは、押しながら反時計方向にまわします。

≫取り付けるときは、押しながら時計方向にまわします。

― 代表例 ―

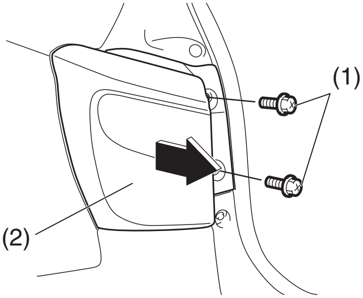


4. 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

リヤコンビネーションランプ

1. バックドアを開けます。
→バックドア P.**2-13**

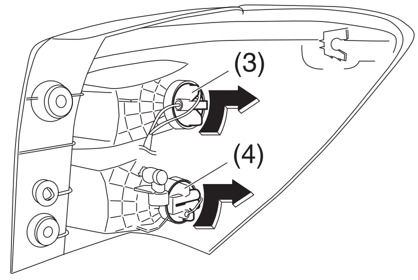
2. ボルト2個は、プラスドライバー（市販品）などで外します。
≫ランプ本体は、車両の後方へまっすぐ引いて外します。



61MM0B082

(1) ボルト
(2) リヤコンビネーションランプ

3. ソケットを反時計方向にまわして引き抜きます。

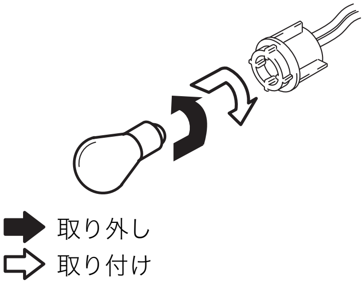


61M0344

(3) 方向指示器／非常点滅表示灯（後面）のソケット
(4) 制動灯／尾灯のソケット

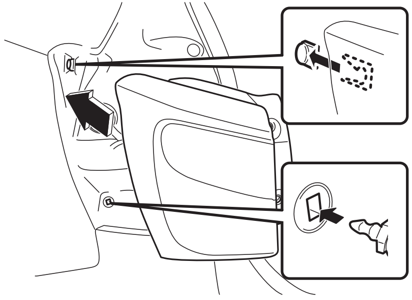
4. 電球を交換します。
≫取り外すときは、押しながら反時計方向にまわします。
≫取り付けるときは、押しながら時計方向にまわします。

— 代表例 —



61M0137

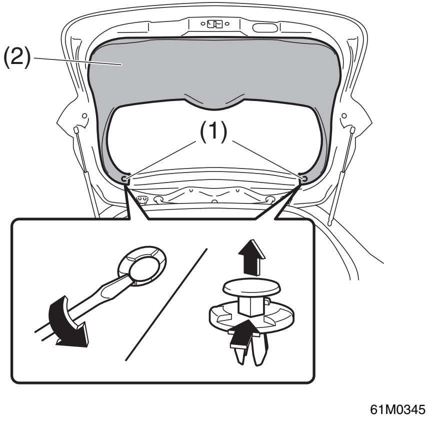
5. 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。
≫ランプ本体をもどすときは、クリップ2か所をしっかりとはめ込んでください。


61MM0B085

後退灯

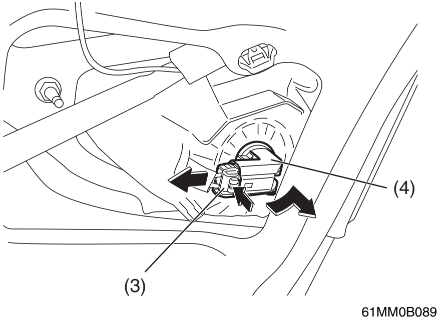
1. バックドアを開けます。
→バックドア P.**2-13**

2. バックドアのトリムを外します。
≫クリップ2個は、マイナスドライバー（市販品）でこじって外します。
≫トリム全体を引き外します。



(1) クリップ
(2) トリム

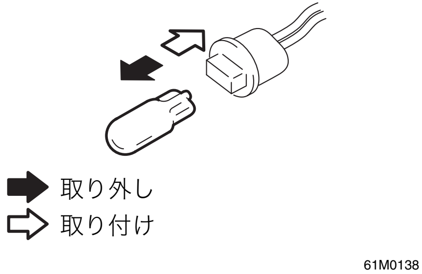
3. ソケットを外します。
≫カプラーは、つめを押しながら外します。
≫カプラーを外したあとにソケットを、反時計方向にまわして外します。



(3) カプラー
(4) 後退灯のソケット

4. 電球を交換します。
≫まっすぐ抜き差しして交換します。

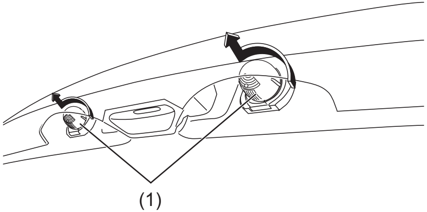
― 代表例 ―



5. 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

番号灯

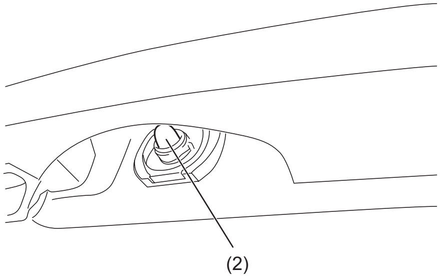
1. カバーを反時計方向にまわして外します。



61MM0B086

(1) カバー

2. 電球を交換します。
≫まっすぐ抜き差しして交換します。



61MM0B087

(2) 番号灯の電球

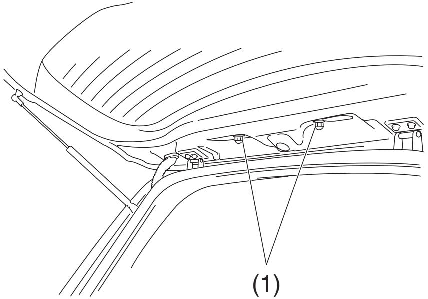
3. 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

ハイマウントストップランプ

1. バックドアを開けます。
→バックドア P.**2-13**

2. ナット2個は、10 mmスパナ（市販品）などで外します。

— 代表例 —

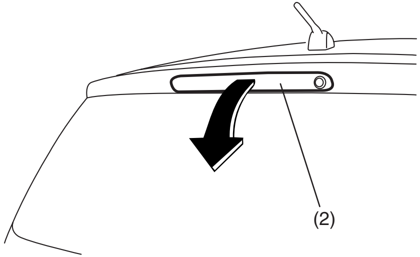


61M0139

(1) ナット

3. バックドアを閉め、外側からハイマウントストップランプ全体を引き出します。

— 代表例 —

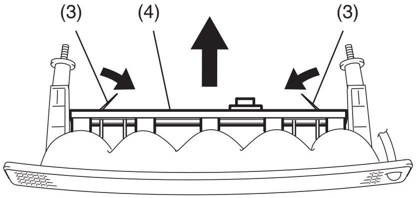


63J127

(2) ハイマウントストップランプ

4. バルブホルダーを外します。
≫つめ２か所を内側に押して、引き出します。

— 代表例 —



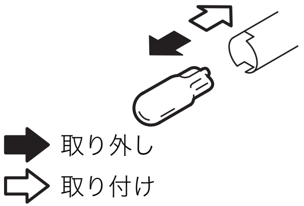
80JM076

(3) つめ
(4) バルブホルダー

5. 電球を交換します。

≫まっすぐ抜き差しして交換します。

— 代表例 —



61M0140

6. 交換後は、外したときと逆の手順でもとにもどします。

非分解式ランプ

次のランプは非分解式のため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。点検・交換の際は、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

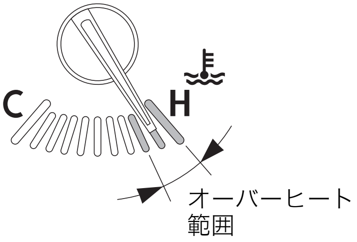
- 車幅灯
- ドアミラーの方向指示器／非常点滅表示灯

オーバーヒート

ラジエーターなどの冷却システムによるエンジンの冷却が間に合わなくなり、冷却水を適温に保てなくなった状態をオーバーヒートといいます。

次のようなときは、オーバーヒートです。

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている
- エンジンの力が急に落ちた
- 水温計の指針がオーバーヒート範囲（赤色表示範囲）に入っている
  →水温計 P.**2-64**



61M0141

オーバーヒートしたときは

1. 車を安全な場所に止めます。

≫必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

2. エンジンをかけたままでボンネットを開けて、エンジンルーム内の風通しをよくします。

≫エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けずに次の手順を行なってください。
→ボンネット P.**4-1**

⚠警告

エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどのおそれがあります。

3. 冷却ファンの作動を確認し、水温計の指針が下がるのを待ってエンジンを止めます。

≫冷却ファンが作動していないときや、水温計の指針が下がらないときは、ただちにエンジンを止め、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れを点検します。

⚠警告

ラジエーターキャップは、エンジンが十分に冷えてから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどのおそれがあります。

61M0142

5. 冷却水の量が不足しているときは補充します。

≫水漏れなどの異常があるときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

≫冷却水がなく、やむをえず水だけを補充したときは、できるだけ早くスズキサービス工場で冷却水の点検または交換をしてください。

バックドアが開かないときは

バックドアは通常、ドアが解錠されている状態で車外から開けることができますが、万一、故障や鉛バッテリーあがりなどでバックドアが解錠できないときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

緊急を要するときは、次の手順で解錠してください。

1. 後席の背もたれを前方へ倒すなどして、作業スペースを確保します。

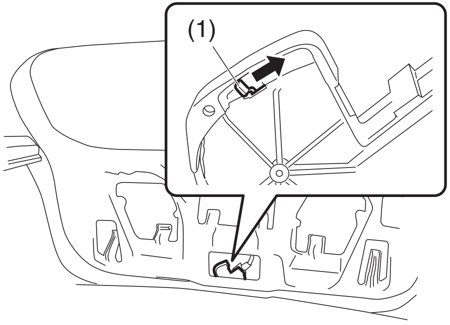
→背もたれの倒しかた P.**2-30**

2. バックドアのトリムを外します。

≫トリムの外しかたについては、後退灯の交換方法（→ P.**6-26**）をお読みください。

3. トリム内にあるレバーを押し上げると、バックドアが少し開きます。

≫バックドアを閉めると、再び施錠されます。



60M0002

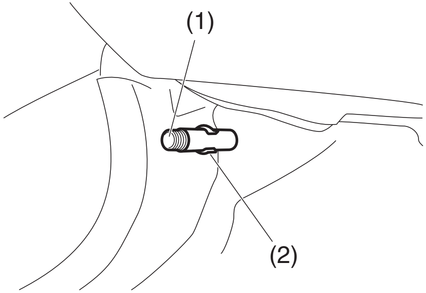
(1) レバー

⚠注意

- **レバー操作をするときは、バックドアの穴周囲のエッジ部分をさわらないでください。けがのおそれがあります。**
- **バックドアを内側から押し開くときは、車の後ろに人がいないことやものがないことを確認してください。バックドアが勢いよく開き、人やものに当たるおそれがあります。**

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面のホルダーに取り付けています。
- 点火すると約5分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法は発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。
  発炎筒はスズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。



61M0234

(1) 発炎筒
(2) ホルダー

⚠警告

- **お子さまにはさわらせないでください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。**
- **必ずホルダーに保管してください。**
- **点火するときは、筒先を顔や身体に向けないでください。やけどのおそれがあります。**
- **ガソリンなどの可燃物の近くでは使用しないでください。火災の原因となります。**
- **トンネル内など、換気が悪い場所で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅表示灯をご使用ください。**

故障したときは

故障したときの連絡先は

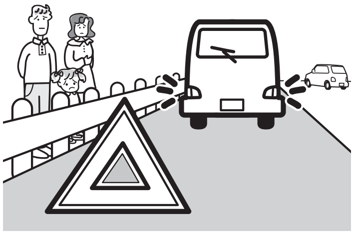
お買い求めのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。スズキ代理店およびJAFの連絡先は、別冊の「**スズキ4輪車サービスネットワーク**」をご覧ください。

停止表示板を常備する

万一のために、停止表示板（別売り）を車に備えてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法令で義務づけられています。

路上で故障したときは

車を路肩などに止め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（別売り）や発炎筒で他車に注意をうながします。

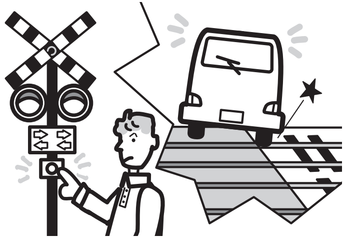


63J70501

全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

踏切内で動けなくなったときは

脱輪など、踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



64L70190

踏切の非常ボタンがわからないときは、発炎筒で列車に合図してください。

64L70200

エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などでエンストして動けなくなったときは、付近の人に押してもらって、車を安全な場所まで移動させてください。
このとき、セレクトレバーを“N”に入れます。

64L70210

アドバイス

エンジンスイッチを“START”の位置で保持してスターターをまわすことにより、車を動かすことはできません。

ロープけん引

けん引してもらうときは

- レッカー車でけん引するとき、4WD 車は必ず4輪を持ち上げてください。2WD 車は4輪または駆動輪である前輪を持ち上げてください。
- 故障車を移動するには、車両運搬車を利用する方法もあります。
- エンジンがかかっていても車が動かなかったり、いつもと違う音がしたりするときは、駆動装置の故障が考えられます。
  けん引する前に、スズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

警告

4WD 車は、前輪だけまたは後輪だけを台車に載せた（車輪が回転できない）状態で絶対にけん引しないでください。車が台車から飛び出すなどの思いがけない事故につながるおそれがあります。また、駆動装置が破損する原因となります。

61M0143

ロープをかける位置は

ロープは、けん引フックにかけます。

注記

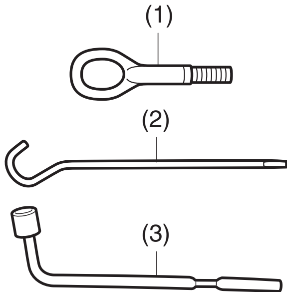
この車で他車をけん引することはできません。けん引フックは次のようなときに使用してください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

- **フロント側は、スタックからの脱出や車両故障時の短距離移動など、けん引されるとき**
- **リヤ側は、スタックからの脱出など、一時的に後ろ側へけん引されるとき、または船積みして搬送する場合**

■ フロント側

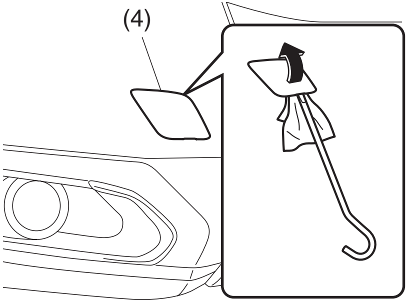
1. 次の工具を、荷室下から取り出します。
→荷室 P.**1-8**

— 代表例 —



(1) けん引フック
(2) ジャッキバー
(3) ホイールレンチ

2. けん引フックカバーの切り欠き部に、先端に布をかぶせたジャッキバーを差し込み、カバーをこじって外します。

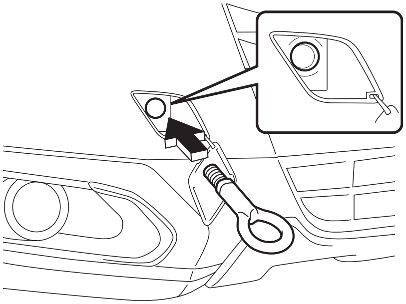


(4) けん引フックカバー

アドバイス

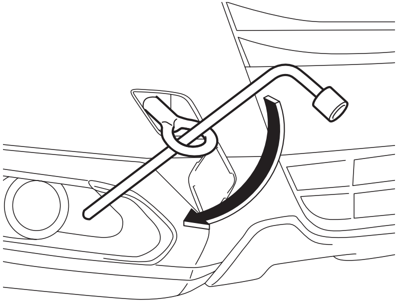
外したけん引フックカバーは粘着テープなどで固定しておくと、けん引中に落ちたり、バンパーに当たったりしにくくなります。

3. けん引フック差し込み口にけん引フックを差し込み、手でまわせなくなる程度まで締め付けます。



61M0149

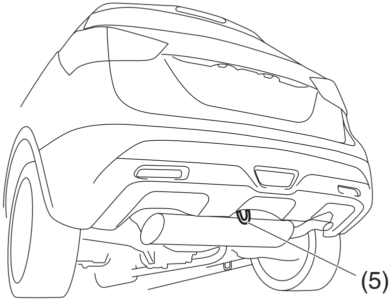
4. ホイールレンチでけん引フックをしっかり締め付けます。



61M0150

■ リヤ側

この車を一時的に後ろに移動させるとき、または船積みして搬送する場合は、けん引フックにロープをかけます。



61M0346

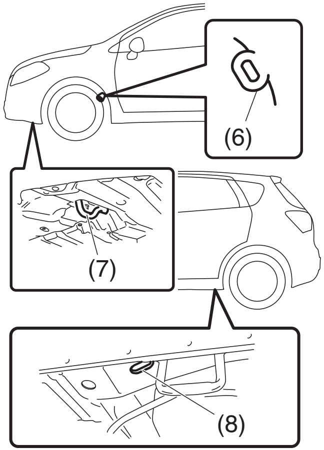
(5) けん引フック
（けん引または船積みに使用）

■ そのほかのフックおよび取り付け穴

積載車に乗せたり、船積みしたりして搬送する場合は、下図の位置へロープをかけて固定します。

- 船積みの場合は、リヤ側のけん引フックも使用します。

— 代表例 —



61M0347

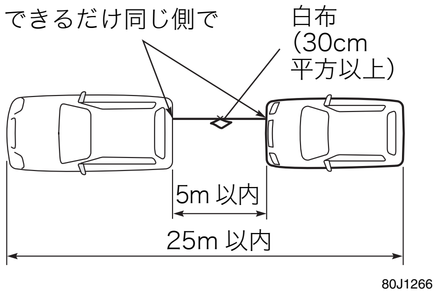
(6) 前輪後部の積載車用フック
（タイプ別装備）
(7) 船積み用フック
(8) 後輪前側の積載車用フックの取り付け穴
（長穴）

ロープでけん引してもらうときは

1. けん引フックにロープをかけます。

≫ロープをかけるときは、できるだけ同じ側で水平にかけてください。

2. ロープの中間に白い布（30cm平方以上）を付けます。



3. エンジンはかけたままにします。

≫エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“OFF”以外の位置にします。

≫ハンドルを左右にまわして、ハンドルロックが解除されているか確認します。

≫4WD車の場合、ALL GRIP（4WD）モードをAUTOモードに切り替えます。

→ALL GRIP（4WD）モードの切替え（4WD車のみ）P.**3-34**

警告

エンジンがかからない車を運転するときは、次のことをお守りください。

- **エンジンスイッチを“OFF”の位置にしないでください。ハンドルがロックされてまわせなくなります。**
- **ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。**
- **パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。**

注意

故障や鉛バッテリーあがりなどでハンドルロックが解除できないときは、ロープでけん引しないでください。

4. セレクトレバーを“N”に入れます。

アドバイス

故障や鉛バッテリーあがりなどで、エンジンスイッチを“ON”にしてブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーの位置を“P”からほかの位置へ動かせないときは、シフトロックを解除してください。

→シフトロックの解除のしかた P.**3-16**

5. けん引中はロープをたるませないようにします。追突防止のため、前の車の制動灯をよく見て運転してください。

≫後続車に注意をうながすため、けん引される車は非常点滅表示灯を点滅させてください。

警告

長い下り坂や急な下り坂があるときは、ロープけん引をせず、レッカー車を依頼してください。エンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

注記

- **けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。けん引フックや車体が破損するおそれがあります。**
- **やむをえずロープでけん引してもらうときは、トランスミッション保護のため、速度 30 km/h 以下、走行距離 30 km以内にしてください。**

万一、事故が起きたときは

処置のしかた

1. 事故の続発を防ぐため、ほかの交通のさまたげにならない安全な場所に車を移動し、エンジンを止めます。
2. 負傷者がいるときは、医師、救急車などが到着するまでの間、安全な場所で応急手当を行ないます。ただし、頭部に傷があるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしてください。その場合でも、後続事故の心配があるときは、安全な場所に移動します。
3. 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。
4. 相手方、事故の状況をメモします。
5. ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

外傷がなくても医師の診断を受けましょう

後遺症が出るおそれがあります。

MEMO

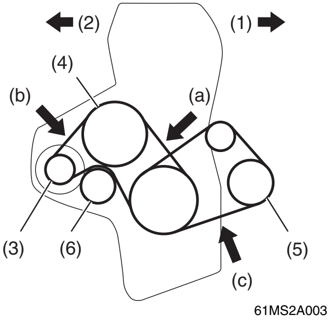
項目		データ	
燃料	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	タンク容量	47 L	
エンジンオイル（※）	グレード	エクスターF SN/GF-5 0W-20	
	規定量	オイル交換時	3.7 L
		オイル、オイルフィルター同時交換時	3.9 L
トランスミッションフルード	グレード	スズキCVTF グリーン2	
	規定量	6.7 L	
トランスファーオイル（4WD車）	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 75W-85(SAE 75W-85、API GL-5相当)	
	規定量	0.93 L	
リヤデファレンシャルオイル（4WD車）	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 75W-85(SAE 75W-85、API GL-5相当)	
	規定量	0.8 L	
冷却水	グレード	スズキ純正スーパーロングライフクーラント（青色）	
	規定量	6.1 L	
ウォッシャー液	グレード	スズキ純正ウインドーウォッシャー液	
	タンク容量	4.5 L	
ブレーキ液	グレード	スズキ純正ブレーキフルード（DOT-3）	

※適切なオイルのご使用方法については、「エンジンオイルの規格／粘度」（→P.**7-6**）をお読みください。

- 油脂類などの交換時期、規定の冷却水濃度は、「**メンテナンスノート**」をご覧ください。
- 指定外のトランスミッションフルード、ブレーキ液は絶対に入れないでください。

項目		データ	
スパークプラグ	タイプ	NGK: SILFR6A11（イリジウム）	
	電極のすきま	1.0～1.1 mm	
バッテリー	タイプ	12V 36Ah 300A（EN）	
フロントブレーキ	ディスク厚さ（※）	基準値（新品時）	22.0 mm
		限度値	20.0 mm
リヤブレーキ	ディスク厚さ（※）	基準値（新品時）	9.0 mm
		限度値	8.0 mm
ブレーキペダル	遊び	1～8 mm	
	床板とのすきま	59 mm以上〔踏み込み力 300 N（31 kgf)〕	
パーキングブレーキレバー	引きしろ	4～9 ノッチ〔操作力 200 N（20 kgf)〕	

※点検して限度値に達していたら、ディスクを新品に交換してください。なお、点検するには、ブレーキ装置の分解とマイクロメーターによる測定が必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

<table>
<tr><th colspan="2">項　　　目</th><th colspan="3">デ　　ー　　タ</th></tr>
<tr><td rowspan="7">ドライブベルト</td><td rowspan="7">たわみ量
〔100N（10kgf）で
押したとき〕</td><td colspan="3">

(1) 車両前方
(2) 車両後方
(3) 発電機
(4) ウォーターポンプ
(5) エアコンコンプレッサー
(6) アイドラープーリー</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(a)</td><td>新品時</td><td>5.7〜6.4 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>6.5〜7.9 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(b)</td><td>新品時</td><td>4.2〜4.8 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>4.8〜6.2 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(c)</td><td>新品時</td><td>6〜7 mm</td></tr>
<tr><td>再張時</td><td>7〜8 mm</td></tr>
<tr><td>ハンドル</td><td>遊び</td><td colspan="3">0〜30 mm（ホイール外周）</td></tr>
<tr><td>タイヤ</td><td>ローテーション</td><td colspan="3">5,000 km走行ごと</td></tr>
</table>

■ 電球の容量

● 交換方法については、参照先の内容をお読みください。

<table>
<tr><th colspan="3">名　　称</th><th>ワット数（型式）</th><th>参照先</th></tr>
<tr><td colspan="3">ヘッドライト</td><td>35W（D4S）</td><td>※1</td></tr>
<tr><td colspan="3">フォグランプ</td><td>55W（H11）</td><td>P.6-23</td></tr>
<tr><td colspan="3">車幅灯</td><td>LED</td><td>※2</td></tr>
<tr><td rowspan="3">方向指示器／
非常点滅表示灯</td><td colspan="2">前面</td><td>21W（PY21W）</td><td>P.6-24</td></tr>
<tr><td>側面</td><td>ドアミラー</td><td>LED</td><td>※2</td></tr>
<tr><td colspan="2">後面</td><td>21W（PY21W）</td><td>P.6-25</td></tr>
<tr><td colspan="3">制動灯／尾灯</td><td>21/5W（P21/5W）</td><td>P.6-25</td></tr>
<tr><td colspan="3">ハイマウントストップランプ</td><td>5W（W5W）</td><td>P.6-27</td></tr>
<tr><td colspan="3">後退灯</td><td>16W（W16W）</td><td>P.6-26</td></tr>
<tr><td colspan="3">番号灯</td><td>5W（W5W）</td><td>P.6-27</td></tr>
<tr><td colspan="3">グローブボックスランプ</td><td>1.4W</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="3">足元照明</td><td>LED</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="3">インパネポケットランプ</td><td>LED</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="3">前席室内灯</td><td>5W</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="3">後席室内灯</td><td>10W</td><td>—</td></tr>
<tr><td colspan="3">ラゲッジルームランプ</td><td>5W</td><td>—</td></tr>
</table>

● 表に記載されている次の電球の場合、点検・交換の際はスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

※1　高電圧の電球を使用している、もしくは交換の際に高電圧部分に触れて感電のおそれがあります。

※2　非分解式のランプのため、電球のみの交換はできません。ランプ本体の交換となります。

■ タイヤ／ホイール

指定タイヤのサイズと空気圧は、お車のタイプにより異なります。運転席ドアの開口部に貼付してある「**空気圧ラベル**」で確認してください。

標準タイヤの空気圧

タイヤサイズ	空気圧
205/50R17 89V	230 kPa （2.3 kgf/cm^2）

ホイールのサイズ

タイヤ	適合ホイール		
	リムサイズ	インセット	取り付けピッチ円直径（PCD）
205/50R17 89V	17 × 6 1/2J	50 mm	114.3 mm

タイヤチェーン

この車に適合したスズキ純正品を装着してください。適合するタイヤチェーンについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

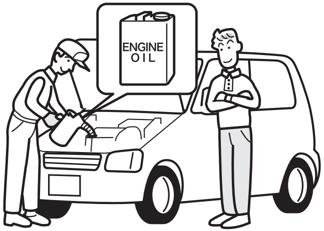
エンジンオイルを交換するときは

■ 定期的に交換する

- 標準的な使用方法では、エンジンオイルは**15,000 km**ごと、または**12か月**ごとのどちらか早い方で交換し、エンジンオイルフィルターは**15,000 km**ごとに交換してください。
- 厳しい条件（シビアコンディション）で使用した場合は、標準的な場合より早めの交換が必要です。
→メンテナンスノート

注記

交換時期を守ってください。劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、エンジン故障や異音の原因となります。交換については、スズキ販売店またはスズキ代理店へお申し付けください。



54M3143

■ エンジンオイルの規格／粘度

使用するエンジンオイルにより燃費などの性能は左右されるため、次の表1、表2をそれぞれみたすオイルを使用してください。オイルは、スズキ純正オイルのご使用をおすすめします。

〔表1〕

規格		オイル性能
API（※1）/ ILSAC（※2）	SN/GF-5	高
	SM/GF-4	
	SL/GF-3	

〔表2〕

規格	全車共通
SAE粘度（※3）	0W-20
	5W-30

※1 API規格とは、アメリカ石油協会が定めた規格でエンジンオイルの品質グレードを表しています。

※2 ILSAC規格とは、国際潤滑油標準化認証委員会が定めた自動車用エンジンオイルの規格で、API規格をベースに省燃費･耐久性などの性能がさらに優れたオイルであることを示します。

※3 SAE粘度とは、潤滑油の粘度を定めた規格です。
左側の数字（Wの付く数字）は低温時の粘度を意味し、この数字が小さいほど寒さに強くエンジンの始動性が良いことを示します。右側の数字は高温時の粘度を意味し、この数字が大きいほど熱に強く、エンジンの保護性能に優れています。

アドバイス

0W-20は新車時に充填されている燃費性能に優れたオイルです。

次の機能は、必ず初期設定してください

項目	機能	初期設定が必要なとき
パワーウインドー →P.**2-18**	はさみ込み防止機構 →P.**2-20**	鉛バッテリー端子やヒューズを外すなどしたとき →鉛バッテリーを交換するときは P.**6-14** →助手席足元のヒューズ P.**6-18**

こんな機能が設定切替え（カスタマイズ）できます

項目	機能	初期設定（工場出荷時）	設定切替え時
キーレスプッシュスタートシステム（※）	キーレスプッシュスタートシステムの各発信機の機能	あり	なし
	携帯リモコン電池消耗警告の表示 →P.**2-2**	あり	なし
	携帯リモコン検出範囲外警告ブザーの吹鳴（1回） →P.**3-5**、P.**3-9**	なし	あり
アンサーバック機能（※） →P.**2-9**	非常点滅表示灯／室内灯による合図	非常点滅表示灯/室内灯	室内灯のみ
	車外ブザーによる合図	あり	なし
セキュリティアラーム →P.**2-14**	セキュリティアラームモード	Dモード（警報あり）	Aモード（警報なし）

※印の設定切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

項目	機能	初期設定（工場出荷時）	設定切替え時
インフォメーションディスプレイ（セッティングモード） →P.**2-70**	平均燃費のリセット方法	非連動	給油連動
			TRIP A連動
	アンサーバック機能の車外ブザーによる合図	あり	なし
	足元照明	ドア連動	イルミ連動
			OFF
	レーンチェンジ機能	あり	なし
	セキュリティアラームモード	Dモード（警報あり）	Aモード（警報なし）
オートライトシステム（※） →P.**2-83**	ライトセンサーの感度	—	感度切替え
	雨連動オートライト機能	大雨連動	オートワイパー連動（小雨連動）
			オートワイパー非連動
レーンチェンジ機能（※） →P.**2-86**	方向指示器スイッチをもどしたときの点滅回数	3回	1～4回
オートワイパーシステム（※） →P.**2-88**	オートワイパーシステムの動作	フルオートモード	セミオートモード
			間欠ワイパーモード

※印の設定切替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

MEMO

8. さくいん

数字

4WD 車 3-34
4WD 警告灯 3-37
運転するときは 3-41
メッセージ 3-37

A

ABS 3-44
ALL GRIP（4WD）モードの切替え 3-34
ALL GRIP（4WD）モード表示 2-66

E

ESP® 3-47
ESP® OFF スイッチ 3-50
ESP® 作動表示灯 3-49

M

M（マニュアル）モード表示 2-70

Q

Q&A（よくあるご質問） 1-31

S

SRS エアバッグ 2-41
SRS エアバッグシステムの作動 2-46
SRS エアバッグシステムの廃棄や廃車 2-50
運転するときは 2-41
運転席・助手席 SRS エアバッグシステム 2-41
助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル 2-43
取扱い 2-45
表示と収納場所 2-42

ア

アームレスト
コンソールボックス付アームレスト 4-11
ドリンクホルダー付アームレスト 4-9
アクセサリーソケット 4-7
アシストグリップ 4-13
足元照明 4-5
アルミホイール
お手入れ 5-5
アンサーバック機能 2-9
アンテナ 4-27
ルーフアンテナ 4-27

イ

イモビライザーシステム 3-2
イラスト目次 1-1
エンジンルーム 1-9
外観（後面） 1-2
外観（前面） 1-1
キー 1-10
警告灯・表示灯 1-11
内装（後面） 1-7
内装（前面） 1-3
荷室 1-8
インパネポケットランプ 4-5

インフォメーションディスプレイ 2-65
ALL GRIP（4WD）モード表示 2-66
オドメーター 2-70
外気温 2-67
セッティングモード 2-70
セレクトレバー位置／ギヤポジション／M モード表示 2-70
トリップメーター 2-70
燃費、航続可能距離、平均車速 2-67
メッセージ 2-73, 3-37

ウ

ウインドーロックスイッチ 2-21
ウォッシャー液 1-9, 5-10, 7-1
ウォッシャースイッチ 2-87

エ

エアクリーナーフィルター 5-9
エアコン
エアコンガス 4-25
エアフィルター 4-26
オートエアコン 4-19
デフロスタースイッチ 4-24
吹出し口 4-18
エアバッグ 2-41
SRS エアバッグシステムの作動 2-46
SRS エアバッグシステムの廃棄や廃車 2-50
運転するときは 2-41
運転席・助手席 SRS エアバッグシステム 2-41
助手席 SRS エアバッグに関する警告ラベル 2-43
取扱い 2-45
表示と収納場所 2-42
エコドライブをしましょう 3-30
エマージェンシーキー 2-6, 2-10
エンジンオイル 1-9, 7-1
交換するときは 7-6
エンジン回転計（タコメーター） 2-64
エンジンスイッチ
各位置のはたらき 3-1
エンジンのかけかた 3-8
エンジンの止めかた 3-10
エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー 3-11
エンジンルーム 1-9
エンジンをかけるときは 3-7

オ

オーディオ 4-28
ステアリングオーディオスイッチ 4-29
オートエアコン 4-19
エアコンガス 4-25
エアフィルター 4-26
デフロスタースイッチ 4-24
吹出し口 4-18
オートマチック車
R ポジション警告ブザー 3-19
運転するときは 3-18
クリープ現象 3-18
セレクトレバー 3-13
トランスミッション警告灯 3-19
オートライトシステム 2-83

オートワイパーシステム 2-88
オーバーヒート
　オーバーヒート 6-28
オーバーヘッドコンソール 4-12
お子さま用シート 2-50
　ISOFIX 対応お子さま用シートの固定 2-60
　UN(ECE)R44 の基準に適合するお子さま用シートの、
　　座席位置別適合性一覧表 2-55
　UN(ECE)R44 の基準に適合するお子さま用シートの、
　　座席位置別適合性一覧表の見かた 2-54
　UN(ECE)R44 の基準に適合するお子さま用シートの
　　認証マークについて 2-53
　お子さま用シートのシートベルトによる固定 2-58
　お子さま用シートの使用について 2-52
　お子さま用シートの選択について 2-52
お子さまを乗せるときは 2-50
お手入れ
　アルミホイール 5-5
　外装のお手入れ 5-3
　高圧洗浄機 5-5
　自動洗車機 5-4
　手洗い洗車 5-4
　内装のお手入れ 5-6
　バックウインドーガラスの室内側 5-6
　フロントガラス 5-5
オドメーター（積算距離計） 2-70

カ

外気温 2-67
外装のお手入れ 5-3
各部の操作（クイックガイド） 1-26
　ウインドー（窓ガラス） 1-27
　エンジンスイッチ 1-26
　ドアミラー 1-27
　方向指示器（ウインカー） 1-26
　ライト 1-26
　ワイパー 1-27
カスタマイズ（設定切替え） 7-8
可倒式アシストグリップ 4-13
ガレージジャッキ 6-10
寒冷時の取扱い 5-10
　ウォッシャー液 5-10
　出発の前に 5-11
　スノーブレード 5-11
　タイヤチェーン 5-15
　駐車するとき 5-13
　鉛バッテリー 5-10
　冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め 5-11
　雪道を走行するとき 5-12
　冷却水 5-10

キ

キー 1-10, 2-2
　エマージェンシーキー 2-6
　キーナンバープレート 2-6
　携帯リモコン 2-2
キーナンバープレート 2-6
キーレスエントリー 2-9
キーレスプッシュスタートシステム 3-3
　携帯リモコン車外持ち出し警告 3-5
　作動範囲（車内） 3-3

キャップホルダー 1-30
ギヤポジション表示 2-70
給油 1-28
ガソリン 1-29, 7-1
キャップホルダー 1-30
セルフスタンド 1-28
燃料給油口 1-29
フューエルキャップ 1-30
フューエルリッド 1-29

ク

クイックガイド 1-1
区間距離計（トリップメーター） 2-70
クリープ現象 3-18
クルーズコントロール 3-41
グローブボックス 4-13
グローブボックスランプ 4-13
グローブボックスランプ 4-4

ケ

警告灯 1-11, 1-14
4WD 警告灯 1-19, 3-37
ABS 警告灯 1-16
SRS エアバッグ警告灯 1-15
イモビライザー警告灯 1-18
エンジン警告灯 1-16
オートレベリング警告灯 1-16
シートベルト警告灯 1-14
充電警告灯 1-18
トランスミッション警告灯 1-18, 3-19
燃料残量警告灯 1-15
パワーステアリング警告灯 1-17
半ドア警告灯 1-18
ブレーキ警告灯 1-14
油圧警告灯 1-17
警告ブザー 1-21
R ポジション警告ブザー 3-19
エンジンスイッチもどし忘れ警告ブザー 3-11
携帯リモコン車外持ち出し警告 3-5
シートベルト警告ブザー 2-34
セキュリティアラーム 2-14
ハンドルロック未解除警告 3-9
ハンドルロック未作動警告ブザー 3-11
マニュアルモードシフト警告 3-17
ライト消し忘れ警告ブザー 2-85
リクエストスイッチ未作動警告ブザー 2-8
携帯リモコン 2-2
エマージェンシーキー 2-6
携帯リモコン電池消耗警告 2-4
携帯リモコン閉じ込み防止機能 2-12
検知範囲（車内） 2-8
構成 2-3
作動範囲（車外） 2-7
作動範囲（車内） 3-3
電池交換 2-4

警報装置（セキュリティアラーム） 2-14
解除のしかた 2-16
警報の停止のしかた 2-16
セキュリティアラームインジケーター 2-16
セットのしかた 2-15
モード設定の切替えのしかた 2-17
けん引 6-32
けん引してもらうときは 6-32
ロープでけん引してもらうときは 6-35
ロープをかける位置は 6-33

コ

工具、ジャッキ 6-1
後席シート 2-29
シートの調節 2-29
背もたれの倒しかた 2-30
ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け 2-29
後席室内灯 4-5
航続可能距離 2-69
後退灯 6-26
コートフック 4-14
故障したときは 6-31
コンソールボックス付アームレスト 4-11
こんなことにも注意して 5-16

サ

サービスデータ 7-1
サンバイザー 4-3

シ

シート（後席） 2-29
シートの調節 2-29
背もたれの倒しかた 2-30
ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け 2-29
シート（前席） 2-26
シートの調節 2-27
ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け 2-28
シートバックポケット 4-10
シートヒータースイッチ 2-91
シートベルト 2-31
肩ベルトの高さ調節 2-37
後席中央席シートベルト 2-37
シートベルト警告ブザー 2-34
着用のしかた 2-36
取扱いとお手入れ 2-40
外すときは 2-37
シートベルト警告ブザー 2-34
シートベルトの衝撃低減機構 2-35
シートベルトプリテンショナー 2-34
事故が起きたときは 6-36
室内灯 4-4
足元照明 4-5
インパネポケットランプ 4-5
グローブボックスランプ 4-4, 4-13
後席室内灯 4-5
前席室内灯 4-5
ラゲッジルームランプ 4-5

車検を受けるときの注意 5-16
ジャッキアップ 6-9
ジャッキ、工具 6-1
収納スペース 4-8
出発の前に（お車の確認） 5-1
瞬間燃費 2-68
初期設定 7-7
ショッピングフック 4-14

ス

水温計 2-64
スタック（立ち往生）したときは 3-30
ステアリングオーディオスイッチ 4-29
スピードメーター（速度計） 2-64

セ

積算距離計（オドメーター） 2-70
セキュリティアラーム（警報装置） 2-14
　解除のしかた 2-16
　警報の停止のしかた 2-16
　セキュリティアラームインジケーター 2-16
　セットのしかた 2-15
　モード設定の切替えのしかた 2-17
設定切替え（カスタマイズ） 7-8
セレクトレバー 3-13
　各位置のはたらきと、動かしかた 3-13
　シフトロックシステム 3-15
　シフトロックの解除のしかた 3-16
　マニュアルモードの使いかた 3-16
セレクトレバー位置表示 2-70
前席シート 2-26
　シートの調節 2-27
　ヘッドレストの高さ調節と取り外し・取り付け 2-28
前席シートヒータースイッチ 2-91
前席室内灯 4-5

ソ

走行するときは 3-24
速度計（スピードメーター） 2-64

タ

タイマーロック機能 2-10
タイヤ
　空気圧 5-7, 7-5
　交換するときは 5-8
　ジャッキアップ 6-9
　タイヤ交換の準備 6-7
　タイヤの取り付け・取り外し 6-11
　タイヤパンク応急修理セット 6-1
　タイヤを交換したあとは 6-12
　ホイールサイズ 7-5
　ローテーション 5-8
タイヤチェーン 5-15
タイヤパンク応急修理セット 6-1
タコメーター（エンジン回転計） 2-64
立ち往生（スタック）したときは 3-30

チ

チャイルドプルーフ 2-12
駐車するときは 3-32

テ

デフロスタースイッチ 4-24
電球
交換 6-22
後退灯 6-26
点検 6-21
ハイマウントストップランプ 6-27
番号灯 6-27
非常点滅表示灯 6-24
非分解式ランプ 6-28
フォグランプ 6-23
方向指示器 6-24
容量 7-4
リヤコンビネーションランプ 6-25

ト

ドア 2-6
ドアの開閉 2-13
前席／後席ドア 2-13
バックドア 2-13
ドアの施錠・解錠 2-6
アンサーバック機能 2-9
エマージェンシーキー 2-10
キーレスエントリー 2-9
携帯リモコン閉じ込み防止機能 2-12
タイマーロック機能 2-10
チャイルドプルーフ 2-12
ドアロック解錠機能 2-12
パワードアロックスイッチ 2-11
リクエストスイッチ 2-7
リクエストスイッチ未作動警告ブザー 2-8
ロックレバー 2-11
ドアミラー 2-23
ドアミラーの角度調節 2-23
ドアミラーの格納 2-24
ドアミラーヒーター 2-25
ドアミラー角度調節スイッチ 2-23
ドアミラー格納スイッチ 2-24
ドアミラーヒーター 2-25
トリップメーター（区間距離計） 2-70
ドリンクホルダー 4-8
ドリンクホルダー付アームレスト 4-9

ナ

内装のお手入れ 5-6

ニ

荷室カバー（ラゲッジシェルフ） 4-15
日常点検 5-1
荷物を積むときは 5-2

ネ

ネットフック 4-15
燃料 7-1
燃料給油口 1-29
燃料計 2-64

ハ

パーキングブレーキ 3-11
ハイマウントストップランプ 6-27

発炎筒 6-30
バックドア 6-29
バッテリー 7-2
　点検 5-1
　鉛バッテリー 5-1, 5-10
　鉛バッテリーあがり 6-13
　鉛バッテリーを交換するときは 6-14
　バッテリーあがりを防ぐためには 6-16
バニティーミラー 4-3
パワーウインドー 2-18
　ウインドーロックスイッチ 2-21
　運転席ウインドーのはさみ込み防止機構 2-20
　運転席での操作 2-19
　助手席、後席での操作 2-22
　はさみ込み防止機構の初期設定 2-21
パンクしたときは 6-1
　ジャッキアップ 6-9
　タイヤ交換の準備 6-7
　タイヤの取り付け・取り外し 6-11
　タイヤパンク応急修理セット 6-1
　タイヤを交換したあとは 6-12
番号灯 6-27
ハンドル 2-26
　ハンドルの前後・高さ調節 2-26
ハンドル位置固定レバー 2-26
ハンドルロック 3-9
　ハンドルロック未解除警告 3-9
　ハンドルロック未作動警告ブザー 3-11

ヒ

非常点滅表示灯 6-24
非常点滅表示灯スイッチ 2-87
ヒューズ
　エンジンルーム内 6-16
　助手席足元 6-18
　点検と交換 6-20
　ヒューズが切れたときは 6-16
表示灯 1-11, 1-19
　ESP® OFF 表示灯 1-19, 3-50
　ESP® 作動表示灯 1-20, 3-48
　ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯 1-19
　方向指示器表示灯 1-19
　マスターウォーニング 1-20
　ライト点灯表示灯 1-19
ヒルホールドコントロール 3-50

フ

フォグランプ 6-23
フォグランプスイッチ 2-86
フットレスト 4-14
フューエルキャップ 1-30
フューエルリッド 1-29
ブレーキ液 7-1
フロアマット 3-24

ヘ

平均車速 2-69
平均燃費 2-68
ヘッドライトウォッシャースイッチ 2-91

ホ

ホイール
　ホイールサイズ 7-5
方向指示器 6-24
方向指示器スイッチ 2-86
ホーンスイッチ 2-91
ボンネット 4-1

マ

マニュアル（M）モード表示 2-70
マニュアルモード
　マニュアルモードシフト警告 3-17
　マニュアルモードの使いかた 3-16
万一、事故が起きたときは 6-36

メ

メーター 2-63
　インフォメーションディスプレイ 2-65
　警告灯・表示灯 1-11
　水温計 2-64
　スピードメーター 2-64
　タコメーター 2-64
　燃料計 2-64
　メーターの照明 2-65
メッセージ 2-73

ユ

雪道を走行するとき 5-12

ヨ

よくあるご質問（Q&A） 1-31

ラ

ライトスイッチ 2-83
ラゲッジシェルフ（荷室カバー） 4-15
ラゲッジボード 4-16
ラゲッジポケット 4-11
ラゲッジルームランプ 4-5
ランプ
　交換 6-22
　後退灯 6-26
　点検 6-21
　ハイマウントストップランプ 6-27
　番号灯 6-27
　非常点滅表示灯 6-24
　非分解式ランプ 6-28
　フォグランプ 6-23
　方向指示器 6-24
　容量 7-4
　リヤコンビネーションランプ 6-25

リ

リクエストスイッチ 2-7
リヤコンビネーションランプ 6-25
リヤデフォッガースイッチ 2-92

ル

ルーフ 4-17
ルーフレール 4-17
ルーフアンテナ 4-27
ルームミラー 2-22
自動防眩機能 2-22
ルームミラーの角度調節 2-22

レ

冷却水 5-10, 7-1

ロ

ロープけん引 6-32
ロープフック 4-15

ワ

ワイパースイッチ 2-87

愛車の車検・点検などのアフターサービスは

お買い求めいただいたスズキ販売店またはスズキ代理店にお申しつけください。
法令で定められた点検整備（日常点検・定期点検）およびスズキが指定している点検整備は必ず行ないましょう。

お問い合わせ、ご相談は

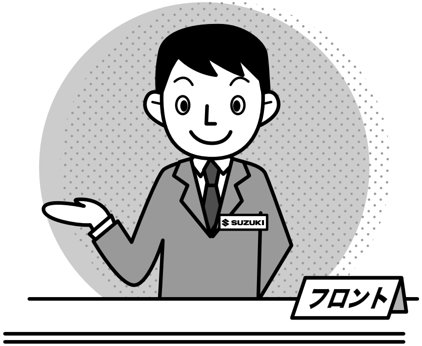
お車のことについてのお問い合わせやご相談がございましたら、お買い求めいただいたスズキ販売店またはスズキ代理店、もしくは下記のお客様相談室までお願いいたします。

スズキ代理店にお問い合わせやご相談をいただくときは、別冊の「スズキ4輪車サービスネットワーク」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご連絡ください。
お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするため、あらかじめお手元に車検証をご準備いただき、次の事項をご確認のうえ、ご連絡願います。

①車名、車台番号、ナンバープレートの番号など　②ご購入年月日　③走行距離
④ご相談内容　⑤お客様のお名前、ご住所、お電話番号

スズキ株式会社　お客様相談室

フリーダイヤル 0120-402-253

受付時間 ／9：00～12：00, 13：00～17：00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いについては、スズキ株式会社ホームページにて掲載していますのでご覧ください。
（http://www.suzuki.co.jp）